

第5章 まとめ

縄文時代Ⅰ期 縄文時代後期前業の遺構・遺物は、そのほとんどが97B区の微高地及びその周辺で確認された。検出された主な遺構は土坑群であり、遺物は北白川上層式に対比できる深鉢・石錐・磨製石斧などが出土している。また、人為的に配された可能性が高い長さ30~60cm程の自然石が4点確認された。その後、河川の流れに変化が生じ、幅約80m、最大高低差約1mの谷地形が形成され、やがて地形全体に黒色土層が段階的に堆積したと推察される。

縄文時代Ⅱ期 縄文時代後期中葉末~晩期中葉の深鉢・浅鉢・石錐・石錐・羅石錐・スクレーパー・石製垂飾などが黒色土層及び遺構より出土した。後期中葉末~晩期前業の遺物は少量であり、遺構に伴うものは少ないが、当時期、本遺跡周辺に人々が居住していたことは明確となつた。晩期中葉の遺物は96Ba・Bc区、97B区、96Cb区で多く出土し、検出された遺構は97B区微高地の土坑群、96Ba・Bc区の微高地縁辺の溝状遺構などがあげられる。この溝状遺構埋土からイネの植物珪酸体（プラント・オバール）が検出され、明確な水田遺構は確認できなかつたものの付近で稻作が行なわれた可能性が高まつた。また、97B区の微高地上で石器製作の場を想定させる下呂石・チャート・サヌカイトの剝片・原石が出土した。晩期後業の時期に属する突帯文系土器は確認できず、弥生時代前期まで空白期となる。

縄文時代Ⅱ期~弥生時代Ⅰ期の間に推定される性格不明の土坑群、石器埋納土坑を検出した。

弥生時代Ⅰ期 弥生時代前期の遺構としては、浅谷化した旧河道の低湿地部で、南北方向に走り、両側に盛土を伴う幅3m・深さ40cm程の溝を検出した。地形の高低差が緩やかになる地帯で、この溝の盛土に直交及び平行する盛土が検出され、イネの植物珪酸体も検出された。溝の西側盛土中から遠賀川系土器の壺形土器と壺蓋形土器がセットで出土し、微高地縁辺部から總捕具と考えられる粗製剝片石器が4点出土した。これらのことから、直交・平行する盛土は大畦畔であり、盛土を伴う溝は水田に水を供給するための用水路であり、弥生時代前期の水田跡と考えられる。小畦畔の有無は確認できなかつたが、その後の洪水により削平された可能性が考えられる。明確な排水路はなく、田面高低差を利用した田越し灌漑によって、順次、水を配していくものと推察される。この時期の居住域は、谷地形西側の微高地上に展開し、その中心地は96Cb区とその東の96Ti付近と想定され、尾張編年に対比すると、I-2期に比定できる遠賀川系土器の壺形土器・鉢形土器・水式系削痕深鉢形土器・条痕紋系壺形土器・内傾口縁土器などが出土した。土器焼成時の剥離片が出土し、土器製作の場も想定される。また、石器製作によって生じたと推察される剝片・原石が多数出土した。そのほとんどが下呂石であり、縄文時代の剝片・原石と比較すると使用され

た石材の変化がみられることは興味深い。また、97B区の微高地上で方形周溝状遺構群を検出した。遺構群は、一定の方位を意識して掘削され、居住域からやや離れた場所に位置していることなどから、非A4形の方形周溝墓の周溝と考えられる。上層は削平され、墳丘及び主体部は確認できなかったが、少なくとも3基以上はあろう。供獻土器と考えられる遺物は確認できなかった。出土遺物は少量の細片であるが、層位より弥生時代前期と推定される。非A4形の方形周溝墓がこの時期に確認されたことは、興味深い。

弥生時代前期の集落跡で、居住域・水田域・墓域が揃って確認されたことは、この時期の集落形態を考える上で重要であろう。南の微高地上には土器製作や石器製作の場を伴う居住域が、微高地東側の浅谷化した旧河道の低湿地部には水田域が、居住域からやや離れた北の微高地上には墓域が展開している（第30図弥生時代I期遺構模式図参照）。縄文時代の遺物が北の微高地上で多く確認されたのに対し、弥生時代前期の遺物は南の微高地上に集中して確認されている。北の微高地上で確認された遺構は、洪水と思われる浸食を頻繁に受けている。この時期、北の微高地は居住域に適さない場所であり、そこに墓域が形成されたものと推察される。また、遺物の時期幅が限定されることより、集落の存在期間は極めて短かったものと推定される。

弥生時代Ⅱ期 弥生時代前期から後期の間と考えられる時期に、再びNR01の活動が活発化したため、稻作は、微高地西側の縁辺部の緩傾斜地で展開するようになったと推察される。幅3m・深さ1m程の大溝は、盛土を伴い、並行する溝及び大溝から分岐・合流する溝群にも盛土がみられた。大溝の盛土と並行する溝の盛土に直交する大畦畔と思われる盛土が検出され、盛土に水口と思われる部分がみられたこと、溝の埋土や同層位の土層中からイネの植物珪酸体が確認されたことなどから、これらの溝群は水田用排水路として利用され、水田域は大溝の西側に展開されたものと想定される。小畦畔の有無は確認できなかったが、弥生時代I期と同様、洪水により削平されたものと推定される。弥生時代前期の土器細片が少量出土したのみで、明確な時期は不明であるが、層位より弥生時代前期以降、弥生時代後期以前の時期に推定される。弥生時代I期の水田域は、浅谷化した旧河道の低湿地部に展開し、明確な排水路を伴わない田面高低差を利用した田越し灌漑による水田に対し、その後の弥生時代Ⅱ期の水田域は、微高地縁辺部の緩傾斜地で展開し、排水路を伴う水田と考えられ、時期による違いがみられることは興味深い。この時期の居住域については不明であるが、遺構及び同層位の土層中から遺物がほとんど確認できなかったことより、ここから離れた場所に展開していたものと想定される。溝群の掘削時期は、それぞれ数段階の時期差がみられた。弥生時代後期までの間に、幾度もの洪水性の堆積によって段階的に埋没し、その度に再掘削されたものと推察される。この時期の最後の遺構面と弥生時代後期以降の遺構面との間には数層に分層される黄褐色砂質シルトの無遺物層があり、空白期の存在が推定される。

弥生時代後期 弥生時代後期までに、谷地形は埋没したものと推察される。この時期の遺構群は、断続的であり、大きく4つの時期に細区分され、微高地の縁辺に沿う方向に走る溝群や土坑・井戸などを検出した。弥生時代後期から古墳時代前期①の遺物は山中式後期～廻間I式の有段高杯・く字壺・「パレス・スタイル」壺などがあげられる。古墳時代前期②の遺物は廻間II式の壺類・壺類などが出土している。古墳時代前期③の時期以前に古墳時代前期包含層が堆積している。古墳時代前期③の遺物は、松河戸I式の壺類・壺類・高杯・器台などが出土し、これらは極めて限定された時期のものと考えられる。古墳時代後期の遺構と遺物は他時期に比べるとかなり少ない。東山61号窯式の須恵器の杯などが出土している。遺構・遺物は、97B区と97Ab区の微高地及び96Cb区とその東の96Tiの微高地を中心に確認された。特に遺物は、97Ab区・96Tiから集中して出土し、96A区・96E区・97Ca区・97Cb区では、ほとんど確認できなかった。前時期の微高地以外の部分は、この時期も湿地状で居住域に適さなかったものと推察される。また、97B区の微高地の上に遺構は希薄にみえるが、古代～中世の遺構や土層から、この時期の遺物が多く出土している。古墳時代前期包含層や後の古代包含層は、微高地縁辺部及び微低地によく残存し、微高地上には残存していないことから、微高地部分は後世の開発により大規模な削平を受けたものと推定される。従って、微高地部分の遺構も削平されたものと推察される。

古代

古代の遺構と遺物は、96A区・96Ba区・97B区北部・97Ca区・97Cb区に集中し、この周辺に居住域が展開されたものと想定される。主な遺構としては、概ね北東から南西方向に走る溝群や堅穴住居・土坑などを検出した。主な遺物としては、須恵器の杯・杯蓋・碗・盤・鉢・灰釉陶器の碗・皿類・土師器の壺の他、刻印のある須恵器・製塙土器・都城形の土師器を模倣した杯などがあげられる。遺構出土遺物のほとんどが猿投窯の折戸10号窯式～黒釜90号窯式のものであり、古代包含層からは黒釜90号窯式までの遺物が出土している。古墳時代までの溝群は概ね南北方向に走り、古代の溝群は概ね北東から南西方向に走り、溝群の方向性に変化がみられる。推測ではあるが、自然微地形の起伏の変化の影響以外に、上流河川流路の影響も考えられる。それが自然的なものか、人為的なものかは不明であるが、古代の溝群は現在の青木川の方向性に類似している。

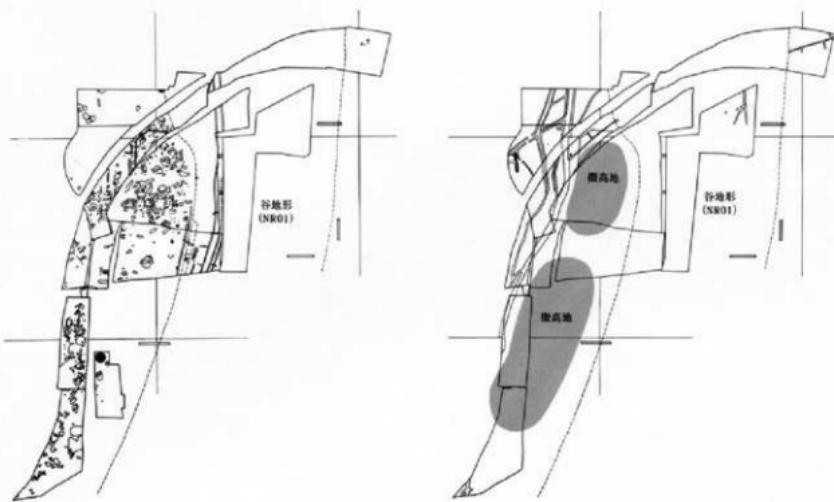
中世Ⅰ期

島畑景観形成以前の遺構としては、古代の溝の軸線と同方向の溝群と方形土壙群や集石など墓域を想起させる遺構を検出した。また、96Ba区から97B区にかけて、隅丸長方形状に掘削された凹地内で柱穴と思われる土坑と周回する溝群を、その東側と南側で区画溝群を検出した。これらは島畑に関連する遺構として考え難い。遺構の性格は不明であるが、墓域と関連した特殊空間の可能性が考えられ、東側の溝は中世塚墓の周溝と思われる。この時期の遺構は、後世の開発によりかなり削平されている。遺構出土遺物としては、尾張型第4型式～第6型式の灰釉系陶器碗などが出土している。外面高台に墨書がある尾張型第6型式の灰釉系陶器碗が土坑より完形で出土した。

中世Ⅱ期以降 水がかりが悪いこの地域では「地下水」による水田開発に伴い、水田と畠地を共に利用する集約的な島畠が造成されたと考えられる。検出された島畠遺構の多くは「地下水型」であった。この時期の遺構群は、概ね東西・南北方向を維持しており、地表の条里地割と同じ方向性になる。本遺跡周辺では、この時期以降、正方位条里地割に規制された耕作が形成された可能性が高い。その後、近世を通じてさらに水田開発が進み、島畠景観が発展していくものと考えられる。島畠景観の形成時期について明確な時期決定は困難であるが、島畠に関連すると思われる遺構からの出土遺物や現況島畠に内包された旧島畠下層の出土遺物から14世紀後半～15世紀頃と推定される。概ね、古い時期（中世Ⅱ期）に造成された島畠遺構は旧地形の微高地部分で検出され、新しい時期（近世以降）に造成された島畠遺構及び水田遺構は旧地形の旧河道など低湿地部分で検出された。また、近世施物陶器などを素材にした加工円盤類が近世の水田遺構から多く出土し、豊作祈願の可能性が推察される。近世の農道・溝などからは、研磨痕のある土器類が出土している。携帯用研磨具として鎌・鋤・鍬など金属部分をもつ農具などの手入れに使用されたものと推察される。

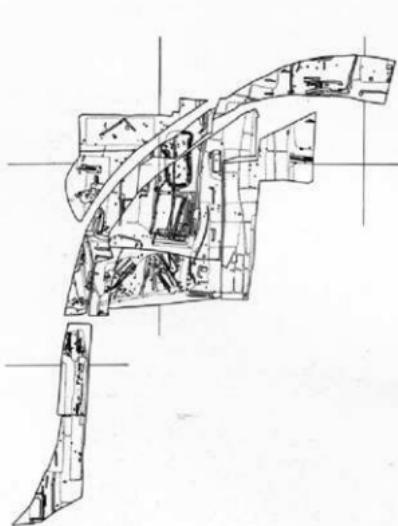
発掘調査の成果 以上、調査結果をまとめてみたが、今回の発掘調査の成果として、次の点があげられる。

- ① 繩文時代後期前葉、後期中葉末～晩期中葉の土器類が遺構・その他より出土したこと。
- ② 弥生時代前期の土器製作の場や石器製作の場を伴う居住域を確認したこと。
- ③ 弥生時代前期の水田跡を確認したこと。
- ④ 弥生時代前期の非A4形の方形周溝墓と考えられる遺構群を確認したこと。
- ⑤ ②～④より、居住域・水田域・墓域が揃った弥生時代前期の集落跡を確認したこと。
- ⑥ 尾張編年に対比すると、I-2期に比定できる遠賀川系土器の壺形土器・鉢形土器、水式系削痕深鉢形土器、条痕紋系壺形土器、内傾口縁土器などが出土したこと。
- ⑦ 繩文・弥生時代の石器・石製品が各種出土したこと。石器埋納土坑を検出したこと。
- ⑧ 弥生時代後期～古墳時代の遺構に伴う遺物が各種出土したこと。
- ⑨ 古代の遺構に伴う須恵器・灰釉陶器・土師器などが各種出土したこと。
- ⑩ 地表の正方位条里地割が古代まで遡らず、中世以降に形成された可能性が高いこと。

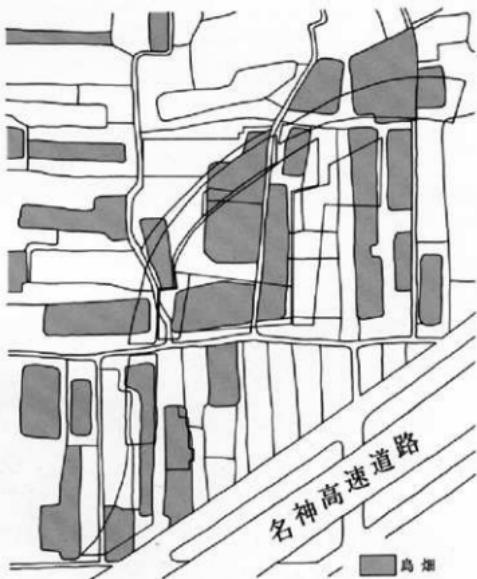


第100図 桶文時代Ⅰ期～弥生時代Ⅰ期遺構図 (1:2500)

第101図 弥生時代Ⅱ期遺構図 (1:2500)



第104図 中世以降遺構図 (1:2500)



第105図 現代の島畑・木田位置図 (1:2500)



第102図 弥生時代後期～古墳時代遺構図（1：2500）



第103図 古代遺構図（1：2500）



第106図 1999年1月31日現在（一宮パーキングエリア、97B区のあたり）

弥生時代前期の諸問題 ～三ツ井遺跡からの検討～

はじめに

1. 氷式系削痕深鉢形土器について
 2. 長原系壺形土器について
- おわりに

はじめに

三ツ井遺跡は尾張平野部における弥生時代前期の良好な基準資料となった。特に、尾張平野部の遠賀川系土器受容期の様相を考えるうえで重要な資料となろう。今回は三ツ井遺跡で出土した資料から派生する2つの問題点を整理してみよう。

まず、氷式系削痕深鉢形土器。今回改めて認識できた削痕系土器の出自について、三ツ井遺跡からの検討を行い、周辺部の遺跡、さらに中部高地との比較検討を試みる。

次に、長原系壺形土器。三ツ井遺跡SX01出土の条痕紋系壺形土器がどのような背景で生まれたかを整理し、その後の展開を探る。

以上の2点について、三ツ井遺跡から出土した資料に基づいて検討する。

1. 氷式系削痕深鉢形土器について

(1) 問題の所在

削痕系土器は、遠賀川系土器と在来の突帯紋系土器とが折衷して成立した深鉢・壺形土器として考えられてきた（永井1996など）。そして、その分布は尾張平野部周辺のごく限られた地域にのみ定着すると考えられてきた。時期的に見ても尾張編年I～2～3期の間に見られるのみである（石黒・宮腰1996）。また、削痕系土器は深鉢・壺形土器のみ、すなわち煮炊具のみで、他の形態にはない。

さて、三ツ井遺跡では、従来削痕系土器と考えられていた資料に加え、氷式系深鉢形土器が共伴している。この氷式系深鉢形土器と削痕系土器を比較検討した結果、削痕系土器はより氷式系深鉢形土器に接近していることが明らかになった。

ここでは、まず三ツ井遺跡から出土した資料のうち、氷式系深鉢形土器と削痕系土器の類似点整理し、どのような変遷を考えられるのかを整理する。そのうえで、氷式系深鉢形土器と削痕系土器が同一の系統であるかを検討していく。

まず、今回「氷式系削痕深鉢形土器」とした事例を提示する。これには削痕系土器と称されてきた土器も含む。私はかつて削痕系土器を「突帯紋系ケズリ壺形土器」として扱い、在来の突帯紋系土器と遠賀川系土器が折衷した土器として考えてきた（永井1996）。しかし、今後は氷式系土器と遠賀川系土器、さらには在来の突帯紋系土器、3つの系統が折衷した土器として考えを改める。特に、氷式系深鉢形土器に接近し、成立すると考えるため「氷式系削痕深鉢形土器」と称した。

(2) 三ツ井遺跡の事例

三ツ井遺跡では、5つの遺構から出土している。本文で時期比定したとおり、I-2期に相当する資料群である。ここでは、水式系削痕深鉢形土器を中心に、細分した3段階、古・中・新の順に三ツ井遺跡の事例を提示してみよう。

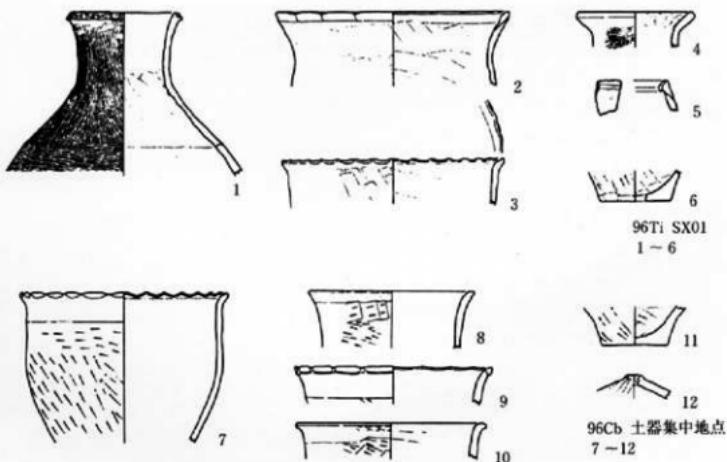
I-2期古段階（第1図）

96TiSX01資料は条痕紋系壺形土器・内傾口縁土器・遠賀川系壺形土器が共伴する。

水式系削痕深鉢形土器は2・3・6。2は口縁外面に連続指頭押圧を施すタイプ。頸部がややくびれる器形。外面調整は縦方向の板ケズリを行い、頸部にその後横ナデを行う。3は口縁端部に連続指頭押圧を施すタイプ。頸部はくびれず、口縁内面を強く横ナデしたためか、口縁部が外反傾向にある。外面調整は縦方向の板ナデを行う。6は底部。外面調整は縦方向の板ケズリ、底部付近はその後板ケズリを行う。

96Cb土器集中地點は遠賀川系壺形土器と共に伴する。

水式系削痕深鉢形土器は7-11。7は口縁端部に連続指頭押圧を施すタイプ。頸胴部の境目が調整によって明確に分かれ。頸部は板ケズリ調整の後、横ナデを行う。胴部は上位は横方向の板ケズリ、下位は縦方向を基本に板ケズリを行う。9は口縁外面に連続指頭押圧を施すタイプ。頸胴部の境目は7と同様に、調整によって明確に分かれ。8・10は口縁部に連続指頭押圧を持たないタイプ。口縁端部に面取りを行う。外面調整は縦方向の板ケズリ、その後、口縁部周辺に横ナデを行う。11は底部。外面に縦方向を基本とする板ケズリ調整を行う。



第1図 三ツ井遺跡出土 1-2期古段階資料 (S = 1/6)

I - 2期中段階（第2図・第3図上段）

96CbSK153は遠賀川系壺形土器・鉢形土器と共に伴する。

水式系削痕深鉢形土器は16。口縁端部に連続指頭押圧を施すタイプ。頸部を意識しているためか、外面の口縁直下に横方向の板ケズリを行う。胴部はやや斜方向の板ケズリを行う。

96CbSB03は遠賀川系壺蓋・壺・鉢・壺形土器と条痕紋系深鉢形土器が共伴する。

水式系削痕深鉢形土器は28-35。28-30は口縁外面に連続指頭押圧を施すタイプ。29は28・30に比べ、頸胴部の境目が上位にある。また、頸部を横ナデしたのち、胴部にミガキ調整を行う。32-35は口縁部に連続指頭押圧を持たないタイプ。32は頸部から口縁部周辺に横ナデを行い、その後口縁内面に面取りを行う。33-35は胴部に縦方向のケズリ調整を行い、その後口縁部周辺に弱い横ナデを行う。

I - 2期新段階（第3図下段）

96TiSK01は遠賀川系壺蓋・壺・鉢形土器が共伴する。

水式系削痕深鉢形土器は37。壺化指向が強く、三ツ井遺跡のなかでは異質な器形。名古屋市北区月繩手遺跡出土資料の新相に比較的多い器形。頸部に横方向のミガキ調整を行う。

胴部は縦方向の板ケズリ調整を行い、その後、ミガキ調整を胴部上位に行う。

A類



(3) 三ツ井遺跡の水式系削痕深鉢形土器について

他の遺跡と比較する前提として、三ツ井遺跡内での変遷を試みる。

B類



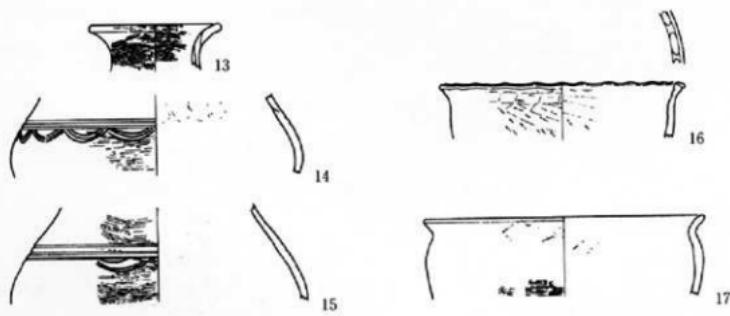
時間的な位置づけは、前項で示した。これに基づき、水式系削痕深鉢形土器を分類し、その変遷過程を以下に示す。

分類

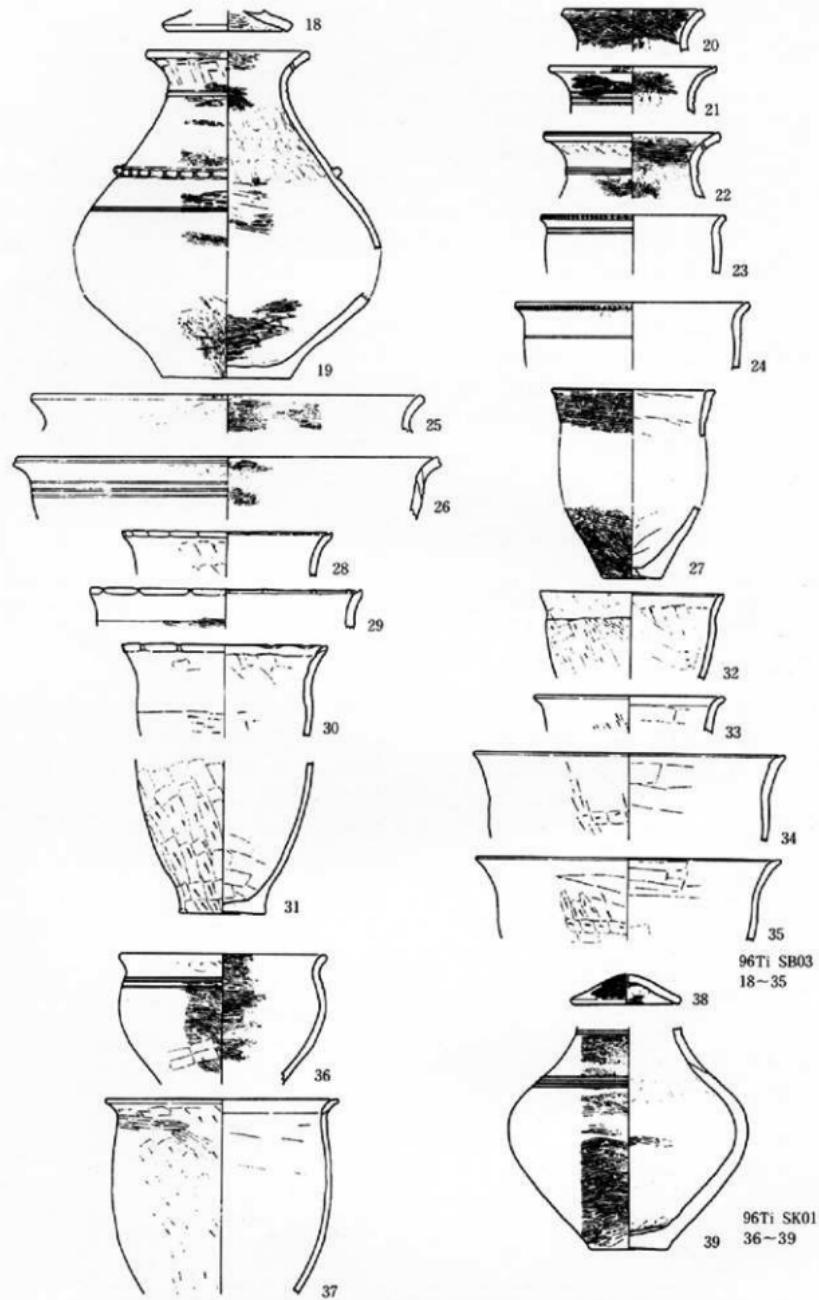
分類は基本的に口縁部の特徴で行う。

口縁外面に連続指頭押圧を施すタイプをA類、口縁端部に連続指頭押圧を施すタイプをB類、口縁部に連続指頭押圧を持たないタイプをC類とする。

水式系土器と遠賀川系土器との類似性に置き換えれば、A・B類は水式系深鉢形土器に接近するタイプ、C類は遠賀川系壺形土器に接近するタイプとなる。



第2図 三ツ井遺跡出土 I - 2期中段階資料 (S = 1 / 6)



第3図 三ツ井遺跡出土 I - 2期中 - 新段階資料 (S = 1 / 6)

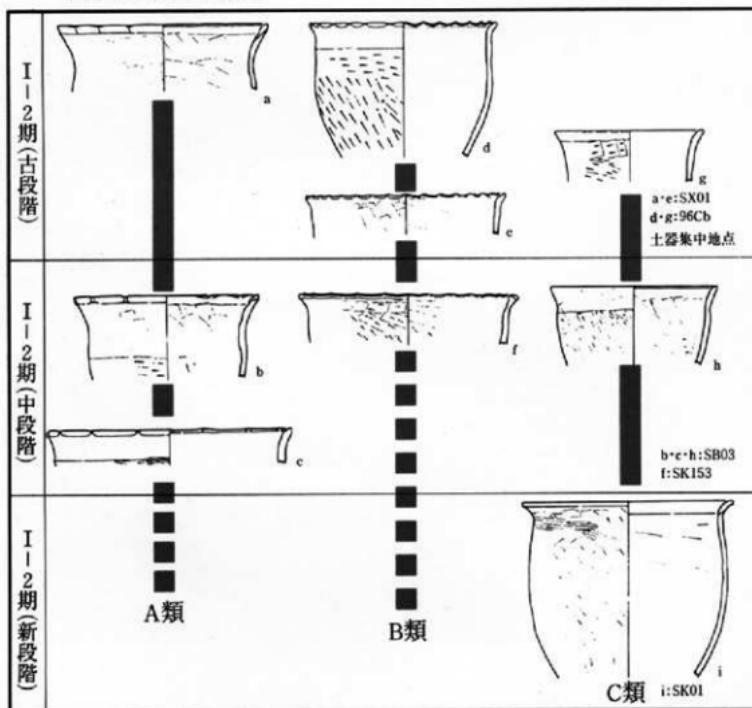
変遷

A類: 口縁外面の連続指頭押圧については、ピッチの長短（3～5cm）があるものの、時期的な変遷ではなく、口径の大小によるものと考えられる。すなわち、ピッチの長いものは口径が大きく、短いものは口径が小さい傾向にある。型式学的な視点からみると、以下の2点が指摘できる。まず、頸部のくびれ度について見てみると、下位になるものが古相、上位になるものが新相。次に、頸部と胴部の境目の位置について見てみると、下位になるものが古相、上位になるものが新相。これら2点について、現状では相関関係が認められる。すなわち、頸部のくびれが強く、頸胴部の境目が下位になるものが古相、頸部のくびれが弱く、頸胴部の境目が上位になるものが新相となる。

B類: A類と同様な変遷が考えられる。ただ、頸胴部の境目がA類よりも変化が早く、古段階には弱い横ナデ程度になる。

C類: 頸胴部の境目を意識した調整が中段階まで続く。その後、新段階には変化指向が加わる。

A～C類、すべてに共通する変遷は、頸胴部の境目を意識した調整の変化である。この変遷は三ツ井遺跡以外では確認できない。また、A・B類は尾張周辺地域で三ツ井遺跡のみ見られる資料でもある。



第4図 三ツ井遺跡における冰式系削痕深鉢の変遷図 (縮尺1:6)

(4) 尾張平野部の水式系削痕深鉢形土器について

ここでは、遺構出土の確認できる名古屋市月繩手遺跡と一宮市山中遺跡を中心に三ツ井遺跡との比較検討を試みる。また、尾張平野部において浮線紋系浅鉢形土器以外に水式系深鉢土器がI-1期に確認できる。これも含めて検討していく。

D類



分類

先に示した三ツ井遺跡のA-C類に、D類を付け加える。

D類：基本的にはC類と共通する要素を持つ。相違点は、口縁端部の刻みである。これは、遠賀川系土器により接近する要素として注目できる。遠賀川系土器との相違点をあげれば、頸部の沈線紋帯が見られないこと、粘土帯が内傾接合、以上2点である。

変遷

I-1期に併行する突帯紋系土器の遺跡は尾張平野北西部に位置する山中遺跡・下り松遺跡、北東部に位置する松河戸遺跡、名古屋台地に位置する古沢町遺跡があげられる。また、朝日遺跡では貝殻山地点の抽出資料のほか、96SK238から遠賀川系土器の良好な一括資料が確認されている。しかしながら、遠賀川系土器と突帯紋系土器、あるいは水式系土器の共伴例はいまだ確認されておらず、I-1期を設定する条件は整っていない。したがって、水式系深鉢形土器の時期比定も推測の域を出ない。

さて、変遷図に示した水式系深鉢形土器(1-2)は、形態・紋様・調整などの共通性、あるいは共伴する浮線紋系浅鉢形土器の時期比定からI-1期に相当する資料である。これらは、いわゆる細密条痕を胴部に持つ深鉢形土器であるが、一方でケズリ調整を行う深鉢形土器が共伴する。中部高地においても、同時期に比定できる御社宮司遺跡や石行遺跡などで細密条痕を持たない、粗製深鉢形土器とされる一群の土器が一定量認められる。ただ、I-2期以降にみられる水式系削痕深鉢形土器のA・B類のように頸部にくびれを持つ形態がI-1期には見られない。したがって、現状においてI-1期に遡る水式系削痕深鉢形土器の存在は確認できず、水式系細密条痕深鉢形土器からの系譜を想定しておく。3は三ツ井遺跡ではB類とした水式系削痕深鉢形土器が条痕紋系土器に接近する資料で、条痕紋系土器と水式系土器の折衷土器として注目できる。

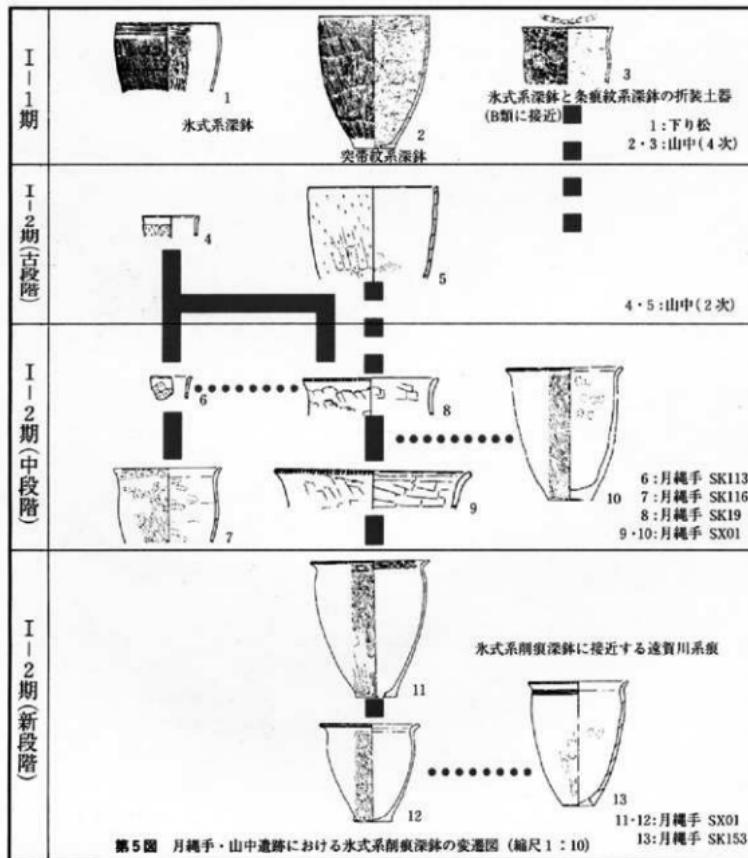
I-2期古段階の資料は三ツ井遺跡以外に良好な資料はない。したがって、三ツ井遺跡との併行関係から導き出さなければならない。4-5は山中遺跡2次調査資料で、従来突帯紋期の終末、I-1期に比定されていた資料である。本稿では、三ツ井遺跡SX01・96Cb土器集中地点の資料との比較からI-2期古段階とした。三ツ井遺跡では遠賀川系土器と共伴するが、山中遺跡では不明である。これは単に確認されていないだけなのか、あるいは遺跡の実態なのかは今後の資料増加を待たねばならない。5の突帯紋系深鉢形土器は、朝日遺跡貝殻山地点の抽出資料からも裏付けされるように、遠賀川系土器と共伴する深鉢形土器である。水式系削痕深鉢形土器を突帯紋系ケズリ深鉢形土器として想定していた粗形に相当する土器でもある。したがって、水式系削痕深鉢形土器の系譜を考える上で、在來の突帯紋系土器と水式系深鉢形土器との折衷土器である可能性は否定できない。

I-2期中段階の資料としては、月繩手遺跡SK113・SK116・SK19などがある。C類は三ツ井遺跡と同様な変遷が認められる。一方、この段階に出現するD類は月繩手遺跡における水式系削痕深鉢形土器の主体を占めるタイプである。三ツ井遺跡では確認されなかつたタイプである。D類の特徴である口縁端部の刻み目は、先に示したように遠賀川系発形

土器に接近する特徴である。したがって、C類とD類の差異はどれだけ遠賀川系壺形土器に接近するかといった評価につながり、2つのタイプの出土頻度は水式系削痕深鉢形土器の遺跡差として考えられる。換言すると、水式系削痕深鉢形土器は三ツ井遺跡より月繩手遺跡の方がより遠賀川系壺形土器に接近していると言えよう。

I-2期新段階の資料は月繩手遺跡SX01がある。三ツ井遺跡ではC類の変化指向を指摘したが、月繩手遺跡の場合、形態は遠賀川系壺形土器と酷似する。また、板ヶ沢の後にミガキ調整を行う例が顕著に見られる。さらに、I3のように頸部に沈線紋帯を施す類例もあり、内傾接合である点を除けば水式系削痕深鉢形土器に接近する遠賀川系壺形土器と言っても過言ではない。

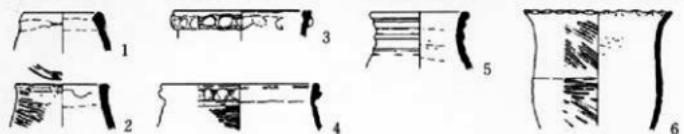
このように、水式系削痕深鉢形土器は遠賀川系壺形土器と折衷する事象が読み取れる資料群であり、尾張平野部の煮炊具を考えるうえで重要な意味を持っている。



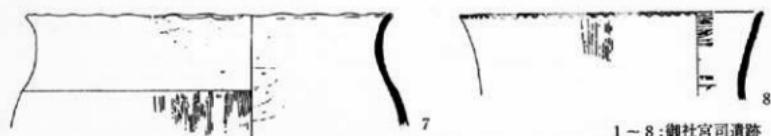
第5図 月繩手・山中遺跡における水式系削痕深鉢の変遷図（縮尺1:10）

11-12:月繩手 SX01
13:月繩手 SK153

内傾口縁土器 条痕紋系壺形土器 突帶紋系変容壺 水式系深鉢形土器(B類)



水式系深鉢形土器(B類)



1~8:御社宮司遺跡

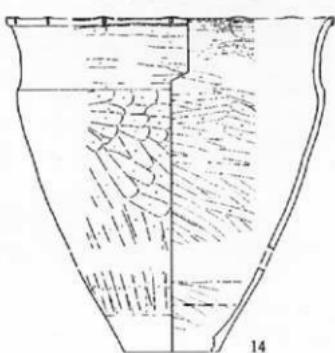
水式系深鉢形土器(C類)



条痕紋系壺形土器



水式系深鉢形土器(C類)



条痕紋系壺形土器



9~15:長野県松本市石行遺跡

第6図 中部高地の水式系深鉢形土器と関連資料 (縮尺1:6)

2. 長原系壺形土器について

(1) 長原系壺形土器の認識

近畿地方の縄文時代後半に長原式とされている土器群がある。そのなかでも今回注目するのは、壺形土器である。長原式の壺形土器は突帯紋系土器様式のなかで、壺・深鉢変容壺として出現すると言わわれている。この変容壺は、口酒井式から船橋式を経て壺形土器として定着する。したがって、伊勢湾周辺に影響を与える段階の壺の形態は、変容壺ではなく、壺形土器の形態として捉えることができる。また、伊勢湾周辺には長原式以前に存在する変容壺がある。この伊勢湾周辺の変容壺との違いを明確にするために、近畿地方の壺形土器あるいはその影響下で成立する伊勢湾周辺の壺形土器に対して「長原系壺形土器」と称し、その特徴を次項に3点あげた。

ここでは、長原系壺形土器における近畿地方と伊勢湾周辺の比較検討を通して、伊勢湾周辺における壺形土器の成立・展開を考えてみた。

(2) 近畿地方の長原系壺形土器（第7図）

近畿地方の突帯紋系壺形土器については、佐藤による詳細な分析がある（佐藤1994）。本稿は、伊勢湾周辺の壺形土器と比較する要素として、(A) 頸部と胴部の境目を意識した調整手法、(B) 底部付近のケズリ手法、(C) 脇部から口縁部の形態、以上3点について突帯紋3期（長原式）の壺形土器を検討してみたい。これらの資料の時期的な根拠は概ね佐藤論文（佐藤1994）に挙げる。また、突帯紋系土器編年は泉拓良の広域編年による（泉1990）。

A. 頸部の境目を意識した調整手法

佐藤の分析した資料、11点のうち唐古・鏡遺跡資料（第7図16）を除くすべて頸部と胴部の調整が明確に違う。基本的には全体をケズリ調整をしたのち、頸部にナデ調整をする。このナデ調整により頸胴部の境目が明瞭に現れる。他の資料、長原遺跡第9層資料（第7図9～11）や口酒井11次東群資料（第7図21）などからも追認できる。

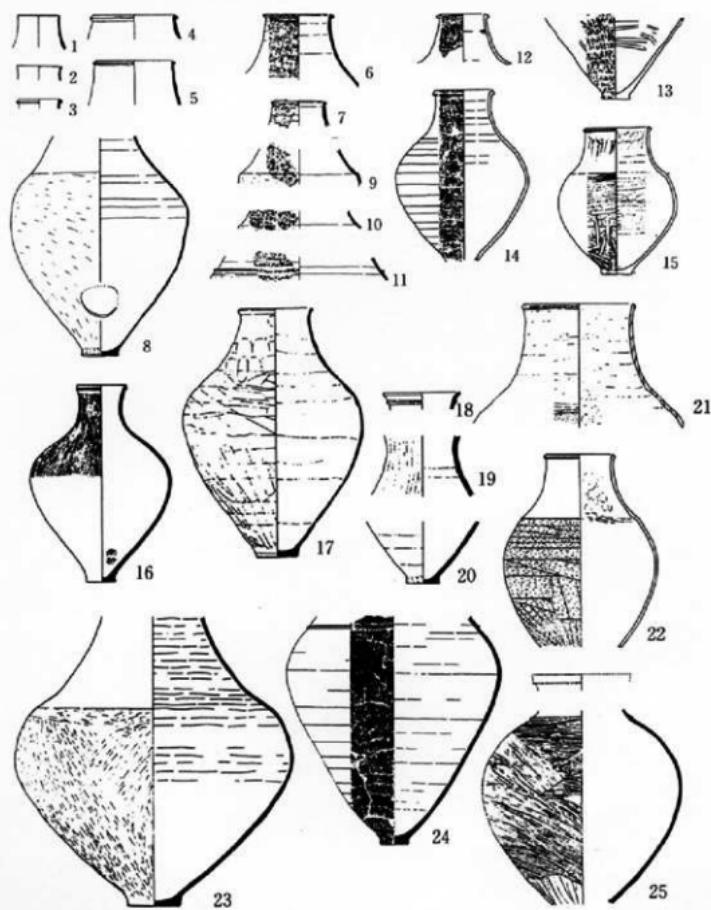
B. 底部付近のケズリ手法

底部付近と脇部下位のケズリ方向の異なる資料が一定量確認できる（第7図22・25）。底部付近は基本的にタテ方向のケズリ、その後ヨコ方向あるいは右下がりの斜位方向のケズリ調整をする。なお、伊勢湾周辺の条痕紋系壺形土器は底部付近にタテ方向のケズリをするが、脇部調整のもの、最終調整の場合が多い。

C. 脇部から口縁部の形態

ほとんどの資料は、脇部が張り、頸部に向かってゆるやかに内傾し、口縁部付近で直立する形態となる。口縁部には貼付突帯がめぐり、刻目を入れる資料が多い。また、突帯は口縁端部に連続する。唐古・鏡資料（第7図16）は、突帯部分がやや下位に見える。これは、口縁端部周辺の強いヨコナデにより、突帯上面が押され、口縁端部から離れて見えるためである（佐藤1994）。ほかの資料に關しても、口縁端部をヨコナデする資料が多く、突帯の形状は断面が下向きの三角形となる。

以上、3点を伊勢湾周辺との比較要素とする。基本的には、従来から指摘があるように、同時期の深鉢形土器の調整手法と類似する。ただ、佐藤が指摘する（佐藤1994c）ように、突帯紋2期から壺形土器として型式変化したもので、長原系壺形土器には1条突帯が優性である。



1~5 長原Ⅱ調査区 I-E区 6~11 長原Ⅲ才9層 12~14 久宝北 15 若江北 16 唐古 17 今里
18~20 大開SD402上層 21 口酒井11次東群 22 口酒井6次 23 北白川追分町 24 弘川 25 奈井

(3) 伊勢湾周辺における長原系壺形土器の系譜と変遷

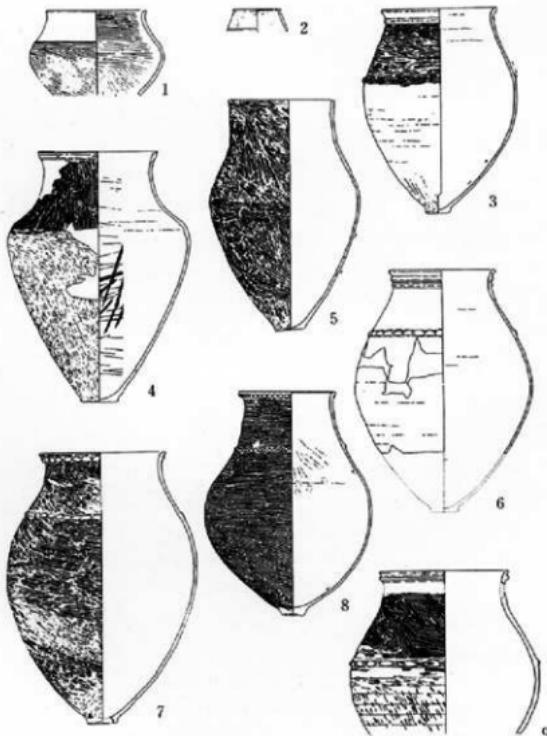
壺形土器の2系統

伊勢湾周辺の壺形土器は大きく2つの系統が存在する。その2系統とは変容壺と長原系壺形土器である。これまず、整理してみよう。

A. 変容壺（第8図）

変容壺は突帯紋3期前半に相当する麻生田大橋遺跡資料からの検討によって認識された（安井1991・前田1992・佐藤1997）。本稿では、変容壺の詳細な検討を目的としないため、要点をまとめて以下の検討に備える。

伊勢湾周辺の変容壺は、突帯紋2期後半に出現し3期で消失する。基本的には壺・深鉢変容壺が主体となるが、出現期は浅鉢変容壺（第8図1・2）も見られる（岩瀬1994・新田1993）。また、伊勢湾西岸域で成立したとされる「伊勢形壺」は変容壺のなかでも特異な存在である（第8図3・6・9）。2条突帯深鉢形土器から変容した伊勢形壺は条痕紋期まで継続する。したがって、変容壺は壺・深鉢変容壺、浅鉢変容壺、伊勢形壺、以上3系統を考えなければならない。



1 大西貝塚 2 上箕田 3-8 麻生田大橋 9 天保
(1・2は浅鉢変容壺、4・5・7・8は深鉢変容壺、3・6・9は伊勢形壺)

第8図 伊勢湾周辺の変容壺 (S=1/10)

B. 長原系壺形土器（第9・10図）

伊勢湾周辺の長原系壺形土器は、近畿地方の土器そのものではない。先に示した近畿地方の長原系壺形土器の3要素と共通する一群の壺形土器である。ただし、必ず3要素が含まれるとは限らない。この近畿地方と共に3要素を個別に取り上げ、検討してみよう。

a. 頸胸部の境目を意識した調整

頸部と胴部の境目を意識して、調整方向あるいは調整手法を変えている。ただ、近畿地方は胴部に板ケズリする手法が一般的であるが、伊勢湾周辺の長原系壺形土器は、おおむね器面調整に貝殻条痕を用いる。その意味では条痕紋系土器である。散期の壺形土器は、器面全面にヨコ方向の条痕を施す条痕紋系土器が主流となるにもかかわらず、この流れに逆らう一群が長原系壺形土器だ。

b. 底部付近のケズリ手法

西浦遺跡（第10図14）、炉畠遺跡（第9図5）、中長遺跡（第10図11～13）、鏡水遺跡（第10図16）、零岩寺遺跡（第10図15）で確認できる。突帯紋期から条痕紋期の変容壺や深鉢形土器にはあまり見られない手法で、長原系壺形土器に目立つ手法。

c. 頸胸部から口縁部の形態

長原系壺形土器は少なくとも2型式認められる。胴部の肩が張り細頸となるもの、胴部の肩が張らず太頸となるものがある。概して前者が多くみられ、近畿地方と共に通する。

以上、3要素に近畿地方の長原系壺形土器との共通要素を見いたした。

次に変容壺との相違点を検討してみよう。変容壺は佐藤の分析が示すとおり、深鉢形土器・壺形土器と共に通する調整手法で捉えることができる。換言すると、形態上の相違はあっても調整手法には差がない。したがって、くびれ度の違いによって形態上は判別できるが、調整手法からは判別しにくい。一方、長原系壺形土器は条痕紋系の深鉢形土器や壺形土器と共に通する調整手法がなく、近畿地方の壺形土器と共に通する要素が主体となる。

このように、変容壺と長原系壺形土器は別系統で捉えることができる。変容壺は、汎西日本的な広範囲にわたる壺化指向のなかで、各地独自の変遷が指摘されている。一方、伊勢湾周辺の長原系壺形土器は、共通要素が強い近畿地方の壺形土器と接近する。したがって長原系壺形土器は、変容壺のように在来要素から成立するものではなく、壺形土器として確立した状況で近畿の壺形土器、すなわち長原系壺形土器の諸要素から成立する土器である。

長原系壺形土器の変遷

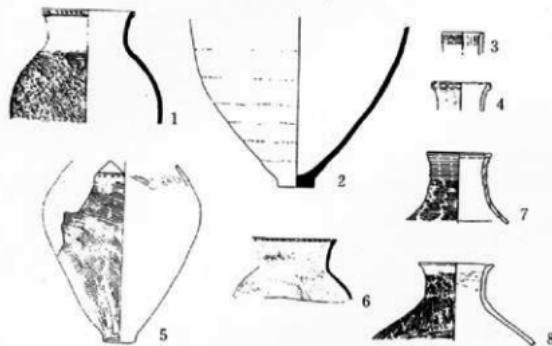
長原系壺形土器の特徴と系譜は前述した通り。以下、古相・新相を示す。

【古相】

頸部に条痕調整がなく、ナデあるいは板ケズリで頸胸部の境目が意識されているもの。さらに、胴部最大径の近く境目があるものが古相、頸部が直立するところに調整の境目がくるものが新相となる。胴部に張りがあり、最大径が胴部上位になるもの。押圧突帯の位置は口縁端部直下になる。口縁端部の面取りは強くなく、弱いナデ調整を行う。

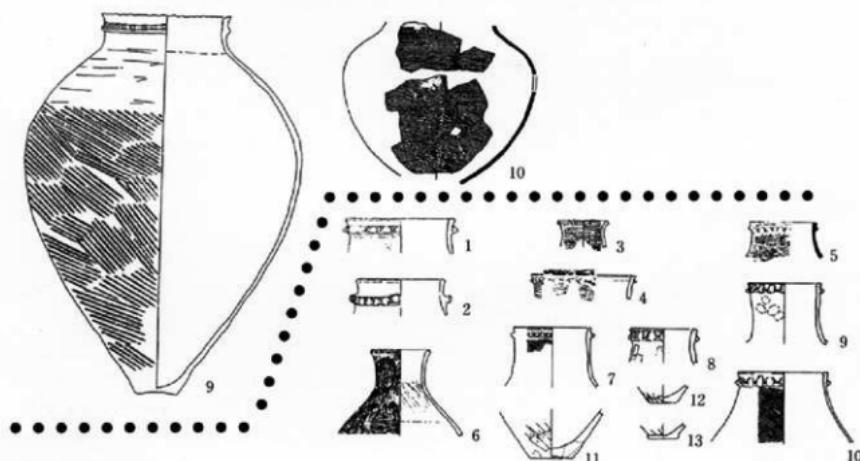
【新相】

頸胸部の境目が調整によって区別されない。器面全面にヨコ方向の条痕調整を施すものが優位となる。ただし、境目が区別されても頸部・胴部とともに条痕調整となる。胴部は球形に近いものがある。太頸になるものは新相。押圧突帯の位置は口縁端部から少し下



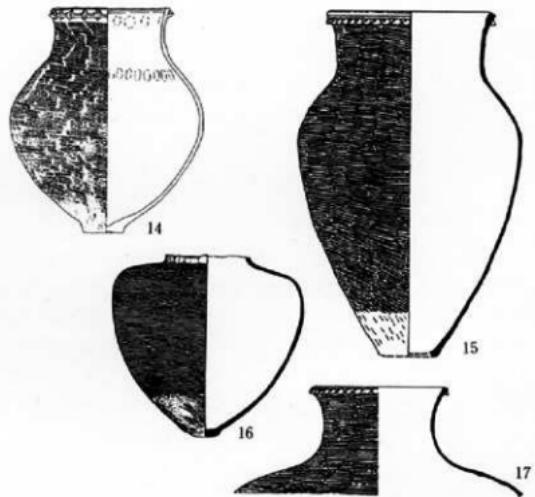
第9図
伊勢湾周辺における突帯紋期の長原系壺形土器
 $S = 1/10$

- 1・2 阿弥陀堂
3・4 はいづめ
5・6 炉 煙
7 山中 SD01下層
8 西 浦
9 芹 川
10 鎌 水



第10図
伊勢湾周辺における条痕紋期の長原系壺形土器
 $S = 1/10$

- 1・2 はいづめ
3・4 大 牧
5 炉 煙
6 三ツ井
7~13 中 長
14 西 浦
15 零岩寺
16 鎌 水
17 京ヶ峰



がるものが多い。口縁部の面取りが強く、口縁内面に折り返しが付くものが多い。

次に、古相・新相を考慮して、個々の資料に時期的な変遷を当てはめてみる。

【突帯紋期】

泉の広域編年では突帯紋3期が当てはまる。ただ、3期の古い部分では見られない。伊勢湾周辺で器面全面条痕調整の壺形土器・深鉢形土器がセットで確認できる、新しい部分に伴う。この新しい部分を仮に後半としよう。

現状では、西浦遺跡をはじめ、7遺跡10例。阿弥陀堂遺跡資料（第9図1）は、最も古い資料としてあげられる。頸部があまり張らない器形であることを除けば、頸胴部の境目に段を持ち、頸部はミガキ、胴部はヘラ状工具の条痕調整、口縁端部直下の押圧突帯といった、古い様相を兼ね備えている。また、はいづめ遺跡資料（第9図3・4）もおそらく古い段階に考えられる。

これらの資料より若干新しい様相を含む資料が5例ある（第9図6・7・8・9・10）。頸胴部の境目は意識されるものの、頸部と胴部の調整手法が同じとなり、調整方向によって区別を付ける例が増える。また、新相となりうる例が炉窓遺跡（第9図5）である。2条突帯になる例は、東岸城（東三河部）以外になく、北岸城では唯一となる。近畿地方に目を向けると、滋賀県弘川遺跡の例（第7図24）が類似する。

【条痕紋期】

従来の櫻王式がほぼ相当し、突帯紋シンボの条痕紋I期（突帯紋土器研1993）。ここでは、2段階に分けて示す。

古相の要素を持つ例は、三ツ井遺跡など4例（第10図3・6・14・16）。

三ツ井遺跡の例は、遠賀川系土器を伴う資料のなかで、最も古い例。頸部はユビあるいは板による調整ではなく、貝殻条痕による調整。ただ、タテ方向という点、胴部との調整方向の違いでは、頸胴部の境目を意識し、わずかながら段を持つといった古い様相が残っている。共伴する遠賀川系土器は壺形土器の口頸部が1点のほか、水式系削痕深鉢形土器も数点ある（SX01資料）。尾張編年（石黒・宮腰 1996）のI-2期古段階に相当する資料として注目できる。

鏡水遺跡の例（第10図16）は、肩部が張り、頸胴部の境目が頸部の直立するところまで上がるものの、頸胴部の境目が明瞭なもの。京ヶ峰遺跡の例（第10図17）は、鏡水遺跡の頸胴部の境目を意識しないことから新相とも考えられる。

明らかに新相を示す資料（第10図1・2・4・5・7-10）としては、押圧突帯が口縁部から少し下がる位置になるものがあげられる。中長遺跡の2例（第10図8・9）を除いて頸胴部の境目を意識する調整はない。

(4) 三ツ井遺跡の条痕紋系壺形土器を取り巻く様相

三ツ井遺跡から出土した条痕紋系壺形土器は、上記のように突帯紋系壺形土器、すなわち長原系壺形土器の特徴を色濃く残す土器である。従来の櫻王式とされていた壺形土器のなかでも最も古い土器である。共伴した資料からもI-2期古段階に比定できる。

さて、三ツ井遺跡のように条痕紋系土器様式のなかに近畿地方の突帯紋系土器様式が系統融合して成立する土器群がどのような位置を占めているのか？そして、この現象が一過性のものなのか？を問い合わせてみよう。

伊勢湾周辺の長原系壺形土器の分布を見てみると、概ね美濃・尾張北部・西三河地域を中心には拡がっている。すなわち、尾張南部を取り巻く地域に分布の中心がある。そしてこの地域には、変容壺が主流ではなく、長原系壺形土器が主流になる。

ところで、伊勢湾東岸域にあたる伊勢地域には現状では見当たらない。突帯紋期には変容壺と伊勢形壺が主流、条痕紋期には遠賀川系壺形土器が主流となる。また伊勢湾東岸域、特に東三河地域では、突帯紋期には変容壺と伊勢形壺が主流、条痕紋期になっても基本的には変容壺の延長上にあり、ようやく条痕紋Ⅱ期になって長原系壺形土器の系譜を持つ壺形土器が定着する。東三河地域の条痕紋Ⅱ期以前に長原系壺形土器が全くないとは言い切れない。それは、変容壺の形態を持つ土器の中に、長原系壺形土器の特徴を示す土器もあるからだ。しかし、主流にはならず、あくまでも長原系壺形土器に接近する土器が存在する程度である。

ここで問題としたいのは、尾張北部・美濃地域を中心に展開する長原系壺形土器のその後である。今回は、突帯紋期から条痕紋Ⅰ期を対象に検討を行ったが、条痕紋Ⅱ期以降の壺形土器、特に条痕紋系細頸壺の系譜が問題となる。尾張編年で示せば、Ⅱ-1期以降の壺形土器の系譜である。佐藤は条痕紋系細頸壺について、Ⅱ-3期に出現し、Ⅲ-1期以降に続条痕紋系土器と平沢型の長頸壺に分離すると言う（佐藤1996）。佐藤は、朝日遺跡、すなわち尾張南部の資料から細頸壺の系譜を考えている。たしかに、Ⅱ期の資料で検討できる資料が朝日遺跡以外にあまりない。しかし、条痕紋系壺形土器の成立・展開を尾張北部あるいはその周辺に求める立場では、尾張南部に持ち込まれた細頸壺と想定する。いずれにせよ、結論は資料増加を待つしかない。特に尾張南部を取り巻く周辺地域の資料に期待される。

おわりに

以上、水式系削痕深鉢形土器と長原系壺形土器について問題提示した。いずれも、三ツ井遺跡から出土した良好な資料をどのように整理したらよいか？を考えた中間報告である。いずれ資料の増加を待ち、再検討する必要性もある。最後に、本稿の要点を記して今後の課題と展望としたい。

(1) 従来、前痕系土器（突帯紋系ケズリ壺）とされてきた遠賀川系土器の壺形土器は三ツ井遺跡の資料によって、水式系深鉢形土器に系譜を持つ土器から成立したと考えられる。

(2) 水式系深鉢形土器は遠賀川系土器に接近する尾張北部地域で急速に壺化指向が進み、水式系削痕深鉢形土器を出現させた。

(3) 水式系削痕深鉢形土器の出現時期は尾張北部地域に遠賀川系土器が展開するⅠ-2期古段階であり、中-新段階で急速に拡がる。

(4) 長原系壺形土器は、伊勢湾周辺の条痕紋系壺形土器の成立展開に多大な影響を与える。

(5) 西日本全域において壺化指向が突帯紋期に始まり、伊勢湾周辺にも独自の変容壺が展開する。一方、美濃・尾張北部・西三河といった、遠賀川系土器が主体となる地域の周縁部の条痕紋系壺形土器は、突帯紋系土器様式の長原系壺形土器の特徴を採用する。さらにその後の壺形土器、特に細頸壺へと継承され条痕紋系壺形土器の主要な形態として長原系壺形土器の特徴は残存する。

(6) このような壺形土器の成立・展開に、三ツ井遺跡の条痕紋系壺形土器は、突帯紋系土器から条痕紋系土器への移行過程をよく示す資料として注目できる。

参考・引用文献

- 愛知考古学談話会編 1985 「《条痕文系土器》文化をめぐる諸問題」資料編 I
浅岡俊夫 1988 「伊丹市口酒井遺跡の凸円文土器」(高井伸三郎先生喜寿記念事業会編『歴史学と考古学』)
石川日出志 1982 「三河・尾張における弥生文化の成立」(『駿台史学』第52号)
石黒立人・宮腰健司 1996 「縦年編・尾張」(『YAY! (やいっ!) 弥生土器を語る会)』
泉 拓良 1988 「中国、四国以東の突帯紋系土器様式」(『縄文土器大観』第4巻)
泉 拓良 1990 「西日本古文土器の縦年」(『文化財学報』第8集 奈良大学文学部文化財学科)
一宮市史編纂室編 1970 「新羅一宮市史」資料編一
岩瀬彰利編 1995 「大西貝塚」(『長崎県埋蔵文化財調査報告書第19集)』
岩野見司編 1982 「尾張病院山中遺跡発掘調査報告」一宮市教育委員会
大江まさる 1965 「飛脚の考古学 I」
大江まさる編 1973 「卯塙遺跡」各務原市教育委員会
大參義一編 1989 「はいっ! 遺跡」岐阜県教育委員会
岡本茂史編 1987 「知立市西中遺跡群発掘調査報告書」知立市教育委員会
岡本茂史 1988 「櫻王式土器の新例」(愛知考古学談話会編『《条痕文系土器》文化をめぐる諸問題』資料編 II・研究編)』
小田桐 淳 1991 「縄文時代」(『長岡京市史』資料編 I)』
刈谷市教育委員会編 1987 「芋川遺跡第2・3次発掘調査概要」
紅村 弘 1978 「東海先史文化の諸段階」資料編 II
紅村 弘 1987 「西日本・中部日本における弥生時代成立論」
小林秀夫・百瀬良秀 1982 「長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書茅野市その5」長野県教育委員会
佐藤山紀男 1994a 「長須賀の出土『その意義』(『地域と考古学』向坂綱二先生還暦記念論集)』
佐藤山紀男 1994b 「煮炊きする土器」(『考古学研究』第40卷第4号)
佐藤山紀男 1994c 「近畿地方の突帯紋土器の変遷」(『みずほ』第14号)
佐藤山紀男 1996a 「説文・弥生安政期の東北土器」(板詰秀一先生還暦記念会編『考古学の諸相』)』
佐藤山紀男 1996b 「長須賀の出見に関する書きき」(『YAY! (やいっ!) 弥生土器を語る会)』
滋賀県教育委員会編 「高島郡今津町弘川遺跡」(『場所別関係遺跡発掘調査報告書類-3』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会)
設楽博巳 1982 「中部地方における弥生土器の成立過程」(『信濃』第34卷第4号)
木永雅雄・小林行雄ほか 「大和唐古弥生式遺跡の研究」(京都帝國大学文学部考古学研究報告第16號)
竹原 実ほか 1987 「松本市赤木山遺跡群」(松本市教育委員会)
谷口 康 1996 「象痕窓覚書」(『YAY! (やいっ!) 弥生土器を語る会)』
田村栄一編 1991 「近畿自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書」第3分冊6 (三重県埋蔵文化財調査報告書87-12)
丹治康明編 1991 「雲井遺跡」第1次発掘調査報告書」神戸市教育委員会
突帝文士器研究会編 1993 「突帝文士器から条痕文土器」(第1回東海考古学フォーラム・登壇大会)
突帝文士器研究会事務局編 1995 「縄文・弥生 安政期の考古学」(第1回 東海考古学フォーラム・登壇大会の記録)』
寺川史郎・金光正裕編 1987 「久宝寺北(その1~3)」大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター
中村吉之 1987 「中部地方の弥生土器 3. 水神平式土器」(『弥生文化の研究』第4巻弥生土器)
水井安幸 1993 「条痕文土器と成立期をめぐる諸問題」(『突帝文士器から条痕文土器へ』第1回東海考古学フォーラム)』
水井安幸 1996 「変容・変換する土器」(『YAY! (やいっ!) 弥生土器を語る会)』
島野葉編 1982 「大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告書」財団法人大阪市文化財協会
新田 圭編 1993 「上箕田遺跡」(『鹿児島県埋蔵文化財調査報告書12)』
服部信博編 1992 「山中遺跡」(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第40集)
浜崎一志・千葉一豊 「京都大学北部構内BD33区の発掘調査」(京都大学埋蔵文化財研究センター編『京都大学構内遺跡調査研究年報』1987年度)』
樋上 春編 1994 「貴生町遺跡Ⅱ・Ⅲ 月桂木遺跡Ⅱ」(財団法人愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第55集)
松尾信裕編 1983 「大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告書」財団法人大阪市文化財協会
松田 誠編 1990 「月桂木遺跡・貴生町遺跡」(財団法人愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第12集)
前田佳久編 1993 「神戸市兵庫区大間遺跡発掘調査報告書」神戸市教育委員会
豆谷和之 1994 「弥生土器成立以前」(『古代文化』VOL.46)
南 博史編 1988 「伊丹市口酒井遺跡 第11水発掘調査報告書」伊丹市教育委員会・財團法人古代学協会
三好孝一編 1996 「巨摩・若江北道路 第5次」(財团法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第15集)
家根洋多 1982 「縄文土器」(『長原遺跡発掘調査報告書』財団法人大阪市文化財協会)
家根洋多 1996 「速賀式土器の成立をめぐって」(『論考古学』坪井清足さんの古希を祝う会編)

三ツ井遺跡出土剥片石器の使用痕分析

原田 幹（愛知県教育委員会）

三ツ井遺跡出土の剥片石器について、金属顕微鏡による使用痕の観察を実施した。いわゆる「高倍率法」と呼ばれる分析方法で、使用光沢面（ポリッシュ）、線状痕等の観察により、石器の機能、使用対象物を推定するものである。

資料の概要

分析対象は、三ツ井遺跡出土石器のうち粗製剥片石器4点（57～60）とスクレーパー4点（50・51・53・56）である。粗製剥片石器は濃飛流紋岩（57）、ホルンフェルス（58～60）を石材とし、刃部に調整剝離を施さず、石器の片側に自然面を残している。57～59は両側縁に抉り状の調整を施している。60は円礫から割り取った一次剥片で二次的な加工は施されていない。スクレーパーは下呂石（50）、サヌカイト（53）、ホルンフェルス（51・56）が石材として用いられており、刃部を形成する明瞭な調整剝離が施されている。

使用痕の観察 と記録

使用痕の観察には落射照明付き金属顕微鏡（オリンパス製BX30M）を使用し、100倍、200倍と300倍（接眼レンズ15倍使用時）の各倍率で観察を行った。観察対象は主に使用光沢面（ポリッシュ）と線状痕である。観察資料となる石器について特に薬品等による処理は行っていないが、観察の前に手の油分、汚れ等を除去するためにエタノールを含ませた脱脂綿で軽くふき取っている。写真撮影は顕微鏡用撮影装置SC35、撮影レンズはPE2.5を使用し、フィルムはISO400の高感度フィルムを用いた。

各資料の観察にあたっては主に刃部を中心として光沢面の有無を確認し、光沢面の確認された資料についてその特徴、分布範囲、線状痕の有無と方向等必要な情報を記録し、写真撮影を行った。光沢面の分類については東北大学使用痕研究チームによる分類（阿子島・梶原 1981）、御堂島による分類（御堂島 1988）を参考にしている。また、使用光沢面が刃部から石器内側へ広い範囲で確認されたものについては、光沢強度分布図（阿子島 1989）を作成している（図1）。

観察結果の概要

観察の結果、57～59の3点について使用による光沢面が観察された。以下、各石器の観察結果について個別に記述していく。

50 石器表面は風化の影響を強く受けている。光沢、線状痕等の使用痕は観察されなかった。

51 光沢、線状痕等の使用痕は観察されなかった。

53 石器表面は風化の影響を強く受けている。光沢、線状痕等の使用痕は観察されなかった。

56 刃部の凸部に弱い光沢が認められる（写真15・16）。光沢面は明るさに欠け、表面はやや凸凹している。光沢の形成される面はやや丸味を帯びて変化しているようにもみえる。光沢タイプは特定できず、あるいは自然作用による光沢の可能性もある。

57 刃縁の広い範囲に使用光沢面が認められ、肉眼でもロー状光沢として観察が可能である。光沢面は非常に明るく表面のきめがなめらかで、光沢の縁辺は丸味を帯びている（写真1・2）。これはAタイプに分類される光沢で、イネ科植物との強い関係が指摘されている。光沢面上にはハケでなでたような線状痕が刃部と平行して観察される。光沢の分布範囲は刃縁の広い範囲に及び、刃部中央で最も強く発達しており、刃部の左右、石器の内側にいくにしたがって漸移的に弱くなる。光沢の「弱」の範囲では水滴状の光沢が散在的にみられる部分が多く、これはBタイプの光沢に相当するものであろう（写真6）。「中」の範囲ではBタイプが連続しつつ発達しておりAタイプとの中间的なものも多い（写真3）。光沢の分布状況は自然面側、剥離面側ともほぼ同様な分布をしており、刃部の表裏対称に形成されている。

58 石材はホルンフェルスであるが、石器表面が風化しており所々剥落している。使用光沢面は刃部縁辺の原面が残存している部分に断片的に観察された。光沢分布図は断片的に残された光沢面の状況から復元的に作成している。光沢面は非常に明るくなめらかなAタイプの光沢が主で（写真7・9）、石器の内側ではBタイプの光沢も確認される（写真8）。光沢面上に刃部と平行する線状痕が観察される。光沢の分布は57と同様で、刃部にそった表裏対称に形成されている。

59 ホルンフェルス製。肉眼での光沢の観察はできなかったが、顕微鏡下では使用光沢面が観察された。光沢面は丸味を帯びたバッヂ状の光沢が散在的に広がっており、Bタイプの光沢が主である（写真11・12）。刃部では部分的に光沢密度の高い部分があり、Aタイプの光沢が観察される（写真14）。線状痕は発達部で確認され、刃部と平行する。光沢の分布範囲は弱から中で、刃縁の表裏対称に形成されている。

60 石器表面はやや風化している。使用光沢、線状痕等の使用痕は観察されなかった。

石器の機能

ここでは使用光沢面が観察された3点の粗製石器の機能を中心に検討したい。

いずれの資料においてもAタイプ、Bタイプの光沢面が観察された。Aタイプはイネ科植物を被対象物として形成されることが、実験により明らかになっている。Bタイプの光沢は木を対象物とした場合の他、イネ科植物の初期段階、乾燥したイネ科植物の場合にも確認されている。本資料で確認された光沢面はいずれも線状痕が少なく滑らかな外観を呈し、木よりも生のイネを対象物とした場合の実験結果に類似する。光沢の形成が刃部の広い範囲に及んでいることから、対象物は水分を含んだ柔らかいイネ科植物であったと推定される。また、線状痕が刃部と平行すること、光沢分布が表裏対称に形成されていることから、刃部の両面に対象物が接触し、刃部と平行する方向に石器が操作されたことが推定される。つまり、刃部を平行に操作するイネ科植物の切断に用いられた石器と考えられる。

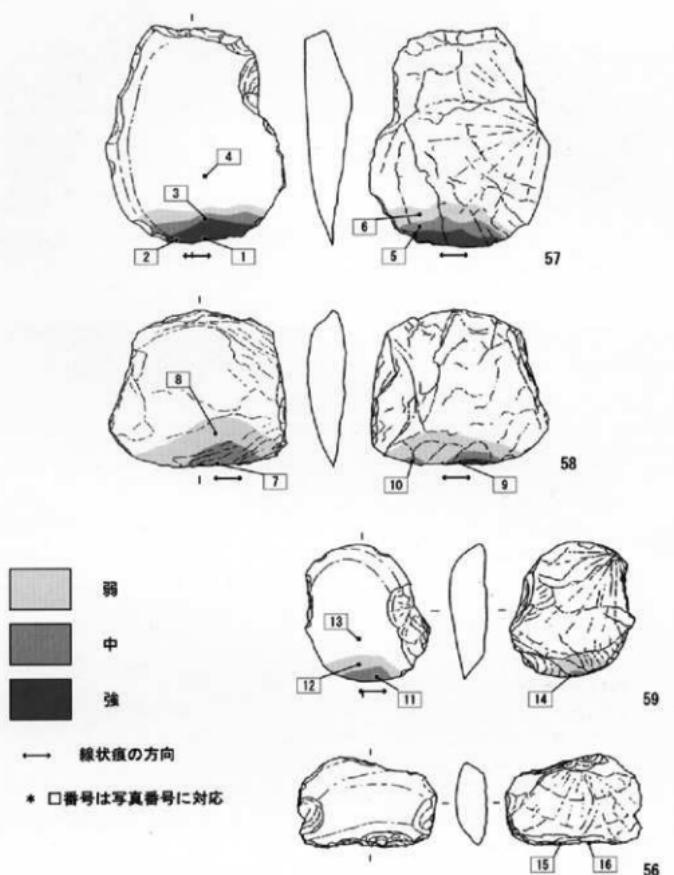
粗製剥片石器の具体的な用途については、この種の石器の出現が弥生時代であることから、稲作等の農耕作業に関わる農具と考えている。具体的な使用方法の推定については各種の実験をもとに検討を行い、弥生時代の収穫法として想定されている穗首を対象とした刈り取りよりも、根株のような厚みのある部分の刈り取りに用いられた石器と推定している（原田 1999）。本資料の場合57・58の光沢分布範囲は明らかに厚みのある部位への使用が想定されるものであるが、小型の60については光沢の形成範囲は他の2点に比べ狭いものとなっている。この資料はBタイプ光沢が主であり、使用頻度の少なさから光沢の形成範囲が対象物との接触範囲全体に及んでいない可能性も考えられる。

三ツ井遺跡出土 土粗製剥片石 器の意義

三ツ井遺跡出土の粗製剥片石器は、いずれも包含層中の出土であったり、弥生時代以降の遺構への混入であるが、出土土器の年代から推定すれば弥生前期を下ることはないと考えられ、時期的には限定される良好な資料と考えられる。弥生前期の資料として使用痕分析によるイネ科植物との関係が明らかになったことは、粗製剥片石器の農具としての出現を考えるうえでも重要な成果である。また、本調査では弥生前期の遺構として微高地線辺に沿った溝、畦畔状の盛土遺構等が検出され、イネのプラントオバールも検出されている。これは微高地の線辺に営まれた水田遺構と考えられており、当地域における弥生前期の生産域の様相を知る貴重な資料である。粗製剥片石器の出土地点は水田遺構に近接し、居住域と考えられる地点の外縁部にあたる。このことは、遺跡の空間的な側面からも粗製剥片石器の農具としての在り方に言及しうる出土事例として注目される。

参考引用文献

- 阿子島香 「石器の使用痕」考古学ライブラリー56 ニュー・サイエンス社 1989
梶原洋・阿子島香 「貝岩製石器の実験使用痕研究—ボリッシュを中心とした機能推定の試みー」『考古学雑誌』第67巻第1号 日本考古学会 1981
斎野裕彦 「弥生時代の大型直線刃石器（上・下）」『大阪府立弥生文化博物館研究報告』第2集・第3集 大阪府立弥生文化博物館 1993・1994
原田 幹 「粗製剥片石器研究ノート(1)」『年報 平成8年度』 愛知県埋蔵文化財センター 1997
原田 幹 「朝日遺跡出土の石庖丁をめぐって—石器使用痕からみた尾張地域における石製収穫具の問題ー」『貞永亮司先生古稀記念論集 文明の考古学』 貞永亮司先生古稀記念論集編集委員会 1998
原田 幹 「門間沼遺跡出土粗製剥片石器の使用痕分析」「門間沼遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター 1999
御堂島正 「使用痕と石材チャート、サメカイト、凝灰岩に形成されるボリッシュー」『考古学雑誌』第74巻第2号 日本考古学会 1988



第1図 光沢强度分布図・写真位置図 (S = 1 / 3)

第1表 観察資料一覧

石器 No.	調査区	遺構等	光沢		織状痕	法 量				石 材	備 考
			A面	B面		長さ	幅	厚さ	重さ		
50	96Cb	検Ⅲ	—	—	—	4.5	4.7	0.6	8.3	下呂石	
51	96T	Th2トレンチ	—	—	—	5.0	2.4	1.0	12.4	ホルンフェルス	
53	97B	検Ⅱ	—	—	—	7.1	3.8	0.7	20.4	サヌカイト	
56	96Ba	検Ⅰ	—	—	—	8.2	5.2	1.8	94.3	ホルンフェルス	
57	97B	SD14	AB	AB	平行	10.7	12.9	2.9	400.7	漫飛流紋岩	
58	97B	検Ⅱ	AB	AB	平行	10.5	9.3	2.1	254.4	ホルンフェルス	表面の風化剥落
59	97B	SD20	BA	BA	平行	7.3	8.1	2.2	154.0	ホルンフェルス	
60	97Ab	検Ⅱ	—	—	—	6.8	6.6	1.3	63.0	ホルンフェルス	



写真 1



写真 2

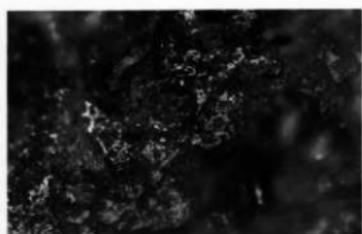


写真 3

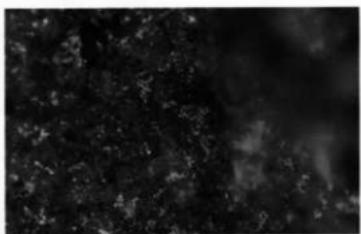


写真 4

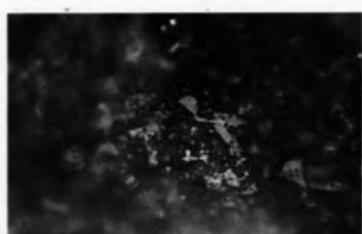


写真 5

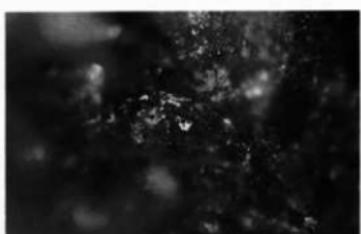


写真 6



写真 7

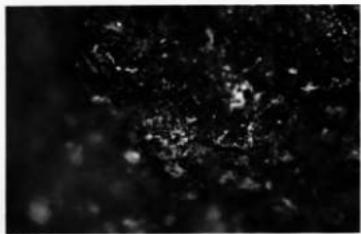


写真 8

200ミクロン

第2図 顕微鏡写真(1)

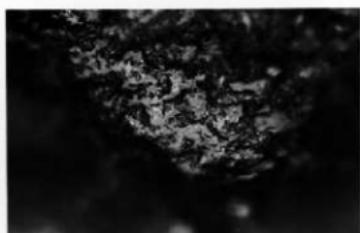


写真9

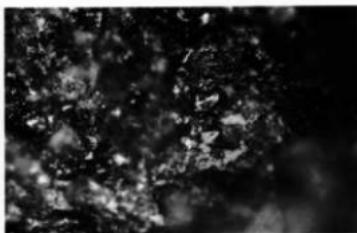


写真10

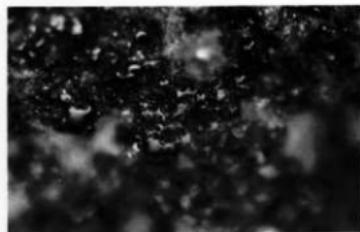


写真11

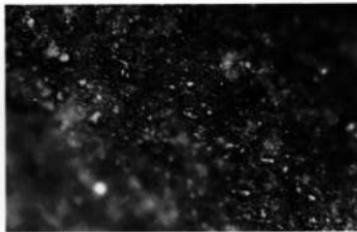


写真12



写真13

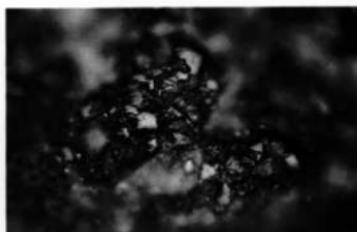


写真14

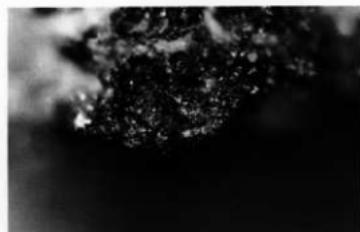


写真15

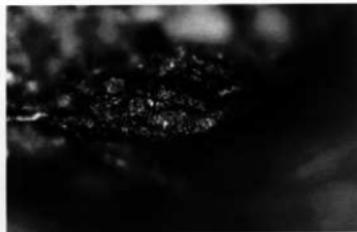


写真16

200ミクロン

第3図 頭微鏡写真(2)

島畠景観の形成と発展について

1. はじめに

三ツ井遺跡は、木曾川水系の青木川と五条川に挟まれた標高7~8mの自然堤防と後背湿地上に展開し、現況は水田と畠地の交錯する島畠景観を良好に留めている。遺跡付近一帯は、1町方格の正方位条里地割に規制された耕地であり、地割内部の田畠も概ね正方位に位置し、明治17年の地籍図もほぼ同様の地割形態を呈している。このことから古代の条里遺構を大規模に残存している地域とされてきた。しかし、発掘調査の結果、古代までの溝などの遺構群は、旧地形条件に規制された方向性が異なる輪線で検出され、地表の条里地割にみられるような正方位の方向性をもつ遺構群が検出されるのは中世以降であった。激しい河川流路の変化によって形成された、大小様々な島状の微高地（自然堤防）が数多く点在するこの地域では、砂地で起伏が多いため、水田開発が困難であったと推察される。中世後半以降、水がかりが悪いため、「地下げ」をして水田開発を行ない、その土をやや高い微高地部分に運び上げ、盛った部分を畠として利用した結果、島畠が生まれ、水田と畠地を共に利用する集約的な島畠景観がしだいに形成されていったと考えられる。この時期の溝などの遺構群は、概ね東西・南北方向を維持しており、地表の条里地割と同じ方向性になる。本遺跡周辺では、中世以降、正方位の条里地割に規制された耕地が形成された可能性が高い。その後、近世を通じて、さらに耕地開発が進み、島畠景観が展開していくものと考えられる。そこで、今回は、発掘調査結果をもとに文献史料も利用しながら、当地域の水田開発と島畠景観の形成について、考えてみたい。

2. 水田開発と島畠景観の形成について

本遺跡での島畠形成過程について、金田章裕氏の研究にもとづいて考えてみる。¹⁾
金田氏は尾張国での島畠初見史料として、応永6年（1399年）の「藤原安義等連署賣券」に見える「沽却 永代田畠事 合四段者 在所大崎々畠三反、廿田壹反」をあげている。²⁾さらに、永正12年（1515年）の「宗成寄進状」に見える「合五段者坪本ハ中ニ西東ヘ有透路田四段崎畠一反也、崎大小七ツ在之」と大永5年（1525年）の「織田達清寄進状」に見える「合三段者此内有崎」をあげ、島畠の文献での史料を紹介している。³⁾金田氏は、様々な文献史料を中心とした検討の結果、島畠景観の島畠の形成起源を13~14世紀頃に推定している。⁴⁾本遺跡での島畠形成の起源は、島畠に関連すると思われる遺構からの出土遺物や現況島畠に内包された旧島畠下層からの出土遺物より14世紀後半~15世紀頃に推定されるので金田氏が推定された時期と一致する。⁵⁾

また、この時期の史料で、応永元年（1368年）の「押光等連署寄進状」には、次のように記されている。

寄進 妙興寺

尾張国中嶋郡寺本法城内田畠等事

合 七段小者

一所 参段田 東田 杉本

一々 参段畠 嶋畠 屋敷

一々 壱段小田 江越

(以下略、字体は正字を使用)

「寺本法城」は貞治6年(1367年)の「高階直經・経久等連署充券」⁹⁾に見える「寺本法城寺」と同じ地名と考えられ、現在の稻沢市稻島町字法成寺を中心とした周辺地域に比定できる。「杉本」と「江越」の地名が天保12年の村絵図に見えることから、「嶋畠」も地名として考えてよいであろう。土地の景観から地名が付けられることがあるので、14世紀後半頃には、この地域に島畠景観が形成されていた可能性が考えられる。稻島町の北に島町が隣接しているが、文政5年(1822年)の龜口好古撰の『尾張徇行記』の旧中嶋郡島村の部分には、「子生和村ノ地トツキ、砂地ナリ。畠多キ村故ニ、畠ニハ茶木モ栽ル也。」と記されている。この辺りは、木曾川水系の三宅川の自然堤防に位置し、法成寺は、本遺跡より西4.5km程のところである。

さて、島畠景観形成の過程については、どう考えるべきであろうか。金田氏は、『尾張徇行記』の旧丹羽郡三ツ井村の部分に「一体地高ナル所故ニ用水カカリア(惡)シシ、サレハ地下(サゲ)ヲシタル田ハヨク実ルト也」と記されている部分を指摘し、水がかりの悪い地域では、「地下水げ」をして良田となし、一方で、その土を搔き上げて、島畠が造成されたと考えている。¹⁰⁾

また、金田氏は、島畠造成のタイプを次のように分類している。¹¹⁾

- ① 水がかりの悪い自然堤防の部分で水田の「地下水げ」を主目的とするような形で形成
- ② 自然堤防の縁辺部から後背湿地の部分において、水田の一部に土を搔きあげて造成
- ③ 条里制の施行・水田化作業の進行する中で、それ以前に形成された自然堤防があたかも島のように水田中にとり残され、そこが島地となったもの

本遺跡の島畠造成のタイプはどうであろうか。現況の島畠は、従来の島畠部分にさらに盛土をして造成されたり、従来の水田部分に盛土をして造成されている。旧島畠(発掘調査によって検出された島畠遺構)は、主に現況島畠の下層から検出されている。現況水田または旧水田(発掘調査によって検出された水田遺構)の下層で検出された旧島畠は、上層が削平され、一部を除いてその痕跡を留める程度であった。そこで、調査区内の現況島畠に内包されているそれぞれ最古の旧島畠について、その造成過程と時期を調べてみた。(第1表参照)島畠は幾度かの拡大・縮小を経ているので、その内部構造はかなり複雑であり、部分的には、旧水田の下層から旧島畠が検出されたり、逆に旧島畠の下層から旧水田が検出された。旧島畠の両側方が後世の水田開発により、かなり削られているものもある

	畑・未耕地 ⇒ 島畠	水田 ⇒ 島畠
中世後半に最古の旧島畠が造成	島畠1 島畠5 島畠6 島畠7 島畠9 島畠10	島畠11
近世以降に最古の旧島畠が造成	(島畠4) 島畠8 島畠Tg	島畠2 島畠3

第1表 現況島畠に内包されている最古の旧島畠の造成課程と時期

った。

島畠1・5・6・7・10は、最古の旧島畠の下層に古代包含層が一部残存していた。中世後半に最古の旧島畠が造成され、その後、幾度かの拡大・縮小を経て現在に至る。

島畠2・3は、近世以降、水田部分に盛土をして最古の旧島畠が造成され、その後、幾度かの拡大・縮小を経て現在に至る。

島畠4・9は微高地部分を利用して最古の旧島畠が造成され、その後、幾度かの拡大・縮小を経て現在に至る。古代包含層は残存せず、中世以降、削平されたものと推察される。島畠4は、下層から近世の遺物が出土し、最古の旧島畠は近世期に利用されているが、その造成時期が中世後半まで遡るのか、近世以降であるかは不明である。島畠9に内包されている最古の旧島畠は、中世後半に造成されたものと推定される。

島畠8は、近世以降に最古の旧島畠が造成され、その後、幾度かの拡大・縮小を経て現在に至る。

島畠11は、中世後半に、その大部分は水田であったと推定されるが、その後、最古の旧島畠が造成され、近世以降、その一部が水田となり、更にその部分に土が盛られ、島畠が造成されている。部分的には、さらに幾度かの拡大・縮小を経て、かなり複雑である。

島畠Tgは、最古の旧島畠の下層に古代包含層が残存している。近世以降に、最古の旧島畠が造成された後、その大部分が水田化され、その後、再び島畠が造成されている。部分的には、さらに幾度かの拡大・縮小を経て、かなり複雑である。

本遺跡での初期の島畠造成のタイプは、全体的には金田氏が分類された①の「地下げ型」が多く、②に該当するものは少なかったと思われる。これは、本遺跡調査区の大部分が旧地形の微高地（自然堤防）上に位置することに起因するからであろうか。概ね、古い時期に造成された島畠構造は旧地形の微高地周辺部分で検出され、近世以降の新しい時期に造成された島畠構造及び水田構造は旧地形の旧河道などの低湿地部分で検出された。また、島畠の断面を観察すると、盛土が数層に分かれているものが多く、数cmの砂層が数回堆積している所もあった。洪水などで水田部分が土砂で埋もれた際、島畠部分に更に土を播き上げてできたものや、水がかりをよくするために水田部分を更に地下げし、土を播き上げてできたものと推察される。

今回の調査の結果、中世以降の明確な水田構造は、近世の水田構造まで、ほとんど確認

できなかった。このことは、近世以後も近世以前と同じ水田面を続けて利用したか、後世の水田開発のため、更なる「地下げ」により削平されて遺構として残らなかつたという理由などが考えられるが、現況水田や旧水田の下層面から水田遺構以外の溝・土坑などの遺構が検出されたことから、近世以前の水田面積は近世以後の水田面積よりも少なかつたという理由も考えられる。すなわち、本遺跡周辺地域の水田開発は、近世以降、積極的に進められていったのではないだろうか。寛文12年（1672年）の「寛文村々覚書」に「三井重吉村」（江戸時代は北に隣接する重吉村と併せて、三井重吉村として取り扱われていた）の田畠167町8反7畝21歩の内、田は57町7反5畝16歩、畠は110町1反2畝5歩とあり、田畠合計面積に対する田の比率は、34.4%となり、この地域が畑作地帯であったことが窺える。¹⁵⁾ 現況では、水田中にあたかも島のように点在する島畠景観であるが、島畠が形成された初期の頃は、耕地に占める畠・島畠の面積が多く、しだいに未耕地・畠地部分が水田開発の進展により水田化され、水田面積が拡大していったと推察される。また、天正11年（1583年）の「織田信雄判物」が、「三ツ井」の地名としての初見史料であり、「三ツ井」¹⁶⁾ の地名の由来は、「用水」の「井」に関連するという説がある。時期は不明であるが、「用水」など水利施設の開設も、この地域で水田開発が推進されていった要因の一つと考えられる。

3.まとめ

砂地で地形の起伏が激しいこの地域では、水田開発が困難であり、畠地としての土地利用が発達し、荒地も多かったと推察される。中世後半以降、水がかりが悪いこの地域では、「地下げ」をして水田開発を行ない、その土を搔き上げて盛った部分を畠として利用した結果、島畠が生まれ、島畠景観がしだいに形成されていったものと思われる。その際、正方位の条里地割に規制された耕地開発がなされたということは、「用水」など水利施設を開設し、耕地を把握して年貢収益を得る在地領主層の存在を窺わせる。従って、本遺跡周辺地域において、現況の土地景観や地籍図の地割形態などから、古代の条里遺構を復原することは難しいであろう。¹⁷⁾ 水田開発のための副産物として造成された島畠は、その後、その利用価値に目がつけられ、商品作物栽培の格好の場となっていたものと推察される。さらに、開発された水田部分にも土盛りをして、島畠を拡大することもあったが、それは、近代以降、本遺跡の所在する一宮市の織維産業の発展を促すことにもなっていったと思われる。しかし、現在、島畠は社会経済の変化の影響を受け、消滅の一途をたどり、年々、島畠景観がみられる地域が少なくなっている。

註

- 1) 金田章裕「条里地割内部における島畠景綱の形成」、『条里と村落の歴史地理学研究』、大明堂、1985年、323~331頁。
- 2) 金田、前掲1), 307~338頁。
- 3) 『新編一宮市史資料編五』、一宮市、1963年、203号文書。
- 4) 前掲3), 461号文書。
- 5) 前掲3), 484号文書。
- 6) 金田、前掲1), 313~314頁。
- 7) 金田、前掲1), 315頁。
- 8) 前掲3), 143号文書。
- 9) 前掲3), 140号文書。
- 10) 「橋島村繪図」、「子生和村繪図」、「新修福沢市史資料編一村繪圖上」、福沢市、1979年、所収。天保12年の橋島村繪図に「枝郷法成寺」と「枝郷江越」、同年の子生和村繪図に「杉本」の地名が見える。また、前掲3)の140号文書で、「寺本法城寺内田地」の四至を示す所に「祇園村」と見え、「寺本法城寺」と隣接していたことがわかる。「祇園（とつか）村」は近世の「戸塚村」（現在の一宮市大和町戸塚と周辺地域）に比定される。これらの地名分布から推察すると、「寺本法城（寺）」は、橋島村繪図の「枝郷法成寺」の地に限定するよりも、現在の福沢市の橋島町・島町・子生和町、一宮市的一部などを含む広範囲の地域一带に、比定して考えた方がよいであろう。「東田」・「鶴島」・「屋敷」の現在位置は不明であるが、この周辺地域内の地と考えてよいであろう。「杉本」と「屋敷」は、史料の地名配列から考ると、「杉本」は「東田」内の地、「屋敷」は「鶴島」内の地であろう。
- 11) 機口好古「尾張徇行記」、「名古屋叢書続編」第四~八巻（第六巻部分）、所収。
- 12) 金田、前掲1), 323~325頁。
- 13) 金田、前掲1), 補注、337頁。
- 14) 「寛文村々叢書」、「名古屋叢書続編」第一~三巻（第二巻部分）、所収。
- 15) 『新編一宮市史本文編上』、一宮市、1977年、776~778頁で、塙本学氏は、近世から近代を通じて、一宮市域の畠地が総作・桑園として、多く利用されてきたことを述べている。
- 16) 『新編一宮市史資料編六』、一宮市、1970年、215号文書に「ミツ井」とみえる。
- 17) 津田正生、『尾張国地名考』、文化13年（1816年）。
- 18) 本遺跡の発掘調査では、正方位の条里地割に規制された遺構が中世の時期まで確認できなかつた。このことで、この地域での古代の条里制施行を否定するつもりはないし、今後の発掘調査によっては、古代の条里遺構が検出される可能性もあるだろう。また、地表の条里地割と古代の条里遺構が重なる例も、各地で報告されている。発掘調査などにより、古代の条里遺構が、後世の遺構や現況の土地景観に影響を与えたということは指摘できても、現況の土地景観や地籍図などの資料から、古代の条里遺構を復原するということは、難しい場合があるといえよう。

現地調査及び報告書作成の過程において、京都大学の金田章裕氏、大阪府文化財調査研究センターの小野久隆氏、岡本茂史氏、河角龍典氏、亀井聰氏に島畠遺構に関してのご指導・ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表します。

遺構一覧表

調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期	調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期
96A	SD01	1880	95	26	中世Ⅱ期	96Ba	SD27	—	70	21	古代
96A	SD02	820	105	16	中世Ⅱ期	96Ba	SD28	—	126	42	古代
96A	SD03	—	70	21	近世以降	96Ba	SD29	—	80	11	古代
96A	SD05	—	40	9	中世	96Ba	SD30	—	86	32	古代
96A	SD06	—	80	23	古代	96Ba	SD31	—	40	13	古墳
96A	SD07	—	70	24	古代	96Ba	SD32	—	110	35	古墳
96A	SD08	—	105	33	古代	96Ba	SD33	—	140	30	中世Ⅱ期
96A	SD09	—	105	54	古代	96Ba	SD34	—	180	52	近世以降
96A	SD10	—	88	40	古代	96Ba	SD35	—	120	17	古代
96A	SD11	—	90	35	古代	96Ba	SD36	—	46	26	弥生Ⅱ期
96A	SD12	—	60	14	中世	96Ba	SK14	100	90	61	古墳
96A	SD13	—	85	25	中世Ⅱ期	96Ba	SX02	—	300	11	古代
96A	SD14	725	180	28	中世Ⅱ期	96Ba	SX04	—	—	16	绳文Ⅱ期
96A	SD16	—	35	41	弥生Ⅱ期	96Ba	SX05	—	—	12	绳文Ⅱ期
96A	SD17	—	60	9	近世以降	96Bb	SD01	—	60	25	中世
96A	SD18	—	65	4	近世以降	96Bb	SD03	—	96	35	中世
96A	SD19	475	25	6	中世	96Bb	SD04	—	22	6	中世
96A	SD20	495	55	27	中世	96Bb	SD05	—	64	7	中世
96A	SD21	505	50	25	古代	96Bb	SD06	—	46	8	中世
96A	SD22	1340	110	20	中世Ⅱ期	96Bb	SD08	—	82	46	古墳
96A	SD23	495	65	18	中世Ⅱ期	96Bb	SD09	—	70	39	中世Ⅱ期
96A	SD25	—	310	45	弥生Ⅰ期	96Bb	SD10	—	50	46	古代
96A	SK01	270	190	79	中世Ⅰ期	96Bb	SD11	—	144	44	中世
96A	SK02	100	80	27	弥生Ⅰ期	96Bb	SD12	—	50	47	古代
96A	SK03	140	125	55	中世	96Bb	SD16	—	36	35	古代
96A	SK04	190	165	39	中世	96Bb	SD17	—	280	92	弥生Ⅱ期
96A	SK41	80	50	18	中世	96Bb	SD19	—	90	30	弥生Ⅱ期
96A	SK45	55	50	22	中世	96Bb	SD20	—	120	35	弥生Ⅱ期
96A	SK58	—	25	36	中世	96Bb	SD23	—	90	19	弥生Ⅰ期以前
96A	SK69	90	110	13	古代	96Bb	SD29	—	110	13	弥生Ⅰ期以前
96A	SK70	140	120	11	古代	96Bb	SK20	240	90	30	古代
96A	SK76	120	100	6	古代	96Bb	SK54	—	125	32	弥生Ⅰ期以前
96A	SK91	380	—	12	中世	96Bb	SK70	180	165	56	弥生Ⅰ期以前
96A	SK92	350	100	11	中世	96Bb	SK77	—	180	65	弥生Ⅰ期以前
96A	SB01	750	540	26	古代	96Bb	SK85	140	170	42	弥生Ⅰ期以前
96A	SB02	—	—	8	古代	96Bb	SK86	185	165	36	弥生Ⅰ期以前
96A	ST01	1375	1250	49	近世以降	96C _a	SD01	—	30	24	弥生Ⅲ期
96A	ST02	—	—	55	近世以降	96C _a	SD02	—	15	22	弥生Ⅲ期
96A	ST03	—	—	49	近世以降	96C _a	SX01	—	—	12	绳文Ⅲ期
96A	ST04	—	—	56	近世以降	96C _a	SD01	—	60	38	中世
96A	ST05	—	—	57	近世以降	96C _a	SD03	—	80	52	古墳
96A	ST06	1050	675	58	近世以降	96C _a	SD04	—	40	41	中世
96A	ST07	—	—	56	近世以降	96C _a	SD05	—	110	37	弥生Ⅱ期
96A	ST08	—	—	57	近世以降	96C _a	SD06	—	210	78	弥生Ⅱ期
96A	ST09	—	—	58	近世以降	96C _a	SD07	—	90	46	弥生Ⅱ期
96A	ST10	—	—	48	近世以降	96C _a	SK17	250	110	55	中世Ⅰ期
96Ba	SD01	—	30	11	中世Ⅰ期	96C _a	SK27	380	80	32	中世
96Ba	SD02	—	30	9	中世Ⅰ期	96C _a	SX01	—	—	39	中世Ⅱ期
96Ba	SD05	—	50	42	中世Ⅱ期	96C _a	SX02	—	—	30	中世Ⅱ期
96Ba	SD08	—	30	14	古墳	96C _a	SX03	—	—	37	中世Ⅱ期
96Ba	SD17	1150	36	5	古代	96C _b	SD07	—	50	32	古代
96Ba	SD18	—	70	9	中世Ⅰ期	96C _b	SD08	785	30	10	中世Ⅱ期
96Ba	SD21	—	110	26	中世Ⅰ期	96C _b	SD09	—	40	31	古代
96Ba	SD24	—	30	11	古代	96C _b	SD10	1080	70	34	中世Ⅱ期
96Ba	SD25	260	120	38	中世Ⅱ期	96C _b	SD12	840	20	35	中世Ⅱ期

調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期	調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期
96Cb	SD16	—	230	89	弥生Ⅰ期	96D	SK88	240	160	51	弥生Ⅰ期以前
96Cb	SD17	—	85	16	弥生Ⅰ期	96D	SK90	160	130	50	弥生Ⅰ期以前
96Cb	SD19	—	35	4	弥生Ⅰ期	96D	ST01	—	—	28	近畿以降
96Cb	SD20	285	90	19	弥生Ⅰ期	96D	ST02	—	—	32	近畿以降
96Cb	SD21	—	40	11	弥生Ⅰ期	96D	SX01	—	—	14	中世Ⅱ期
96Cb	SD23	—	55	12	弥生Ⅰ期	96D	SX03	—	470	12	弥生Ⅰ期
96Cb	SD24	—	35	8	弥生Ⅰ期	96D	SX04	—	850	11	弥生Ⅰ期
96Cb	SD28	—	40	11	弥生Ⅰ期	96E	SD01	—	48	5	中世
96Cb	SK02	50	36	36	中世	96E	SD02	—	26	25	古代
96Cb	SK03	130	30	33	中世	96E	SD03	—	110	27	中世
96Cb	SK50	20	20	8	弥生Ⅰ期	96E	SD04	—	40	21	中世
96Cb	SK60	25	20	12	弥生Ⅰ期	96E	SD05	220	42	5	古代
96Cb	SK74	120	165	12	弥生Ⅰ期	96E	SD06	—	110	33	弥生Ⅱ期
96Cb	SK90	430	380	16	縄文Ⅲ期	96E	SD07	—	90	31	弥生Ⅱ期
96Cb	SK91	355	235	33	弥生Ⅰ期	96E	SK13	—	46	37	中世
96Cb	SK94	120	115	6	弥生Ⅰ期	96E	SX01	—	—	—	古代
96Cb	SK136	215	175	11	弥生Ⅰ期	96T	SD03	470	75	27	古墳
96Cb	SK140	170	155	22	弥生Ⅰ期	96T	SK01	190	175	51	弥生Ⅰ期
96Cb	SK153	250	165	8	弥生Ⅰ期	96T	SK02	155	145	91	古墳
96Cb	SK157	220	130	24	弥生Ⅰ期	96T	SE01	125	105	56	古墳
96Cb	SK91	—	—	18	中世Ⅱ期	96T	SE02	135	110	81	古墳
96Cb	SK02	—	—	32	中世Ⅱ期	96T	SB01	—	—	17	古墳
96Cb	SK03	—	—	24	中世Ⅱ期	96T	SB02	—	—	11	古墳
96Cb	SX04	—	—	21	中世Ⅱ期	96T	SB03	—	—	—	弥生Ⅰ期
96D	SD01	—	30	17	古代	96T	SX01	345	220	8	弥生Ⅰ期
96D	SD02	—	44	15	中世Ⅱ期	97Aa	SD01	—	120	52	古墳
96D	SD05	580	32	7	中世Ⅱ期	97Aa	SD03	—	34	17	中世Ⅱ期
96D	SD06	—	46	5	中世Ⅱ期	97Aa	SD04	—	46	39	古代
96D	SD07	540	38	8	中世Ⅱ期	97Aa	SD06	—	186	71	弥生Ⅱ期
96D	SD08	1060	50	7	中世Ⅱ期	97Aa	SD07	—	64	14	弥生Ⅰ期以前
96D	SD09	520	60	6	中世Ⅱ期	97Aa	SD08	—	—	15	弥生Ⅰ期以前
96D	SD10	—	40	6	中世Ⅱ期	97Aa	SK11	136	118	64	中世Ⅰ期
96D	SD11	—	220	12	中世Ⅱ期	97Aa	SK12	148	68	47	中世Ⅰ期
96D	SD12	—	60	9	中世Ⅱ期	97Aa	SK13	114	—	31	中世Ⅰ期
96D	SD13	—	80	24	中世Ⅱ期	97Aa	SK14	—	62	26	中世Ⅰ期
96D	SD15	—	150	55	弥生Ⅱ期	97Aa	SK15	416	114	18	弥生Ⅰ期以前
96D	SD16	515	110	48	弥生Ⅰ期以前	97Aa	SK16	—	—	12	弥生Ⅰ期以前
96D	SD17	—	20	5	弥生Ⅰ期	97Ab	SD02	—	100	12	中世Ⅰ期
96D	SD18	455	90	12	弥生Ⅰ期	97Ab	SD03	1345	100	17	中世Ⅱ期
96D	SD19	—	70	18	弥生Ⅰ期	97Ab	SD04	1190	55	12	中世Ⅰ期
96D	SD21	—	60	33	縄文Ⅲ期	97Ab	SD05	960	55	11	中世Ⅰ期
96D	SD22	—	100	32	弥生Ⅰ期以前	97Ab	SD06	—	40	15	中世Ⅰ期
96D	SD26	—	40	46	弥生Ⅰ期以前	97Ab	SD07	—	140	14	中世Ⅱ期
96D	SK01	56	54	49	古墳	97Ab	SD08	—	40	10	中世Ⅰ期
96D	SK11	90	80	10	中世	97Ab	SD09	—	45	22	中世Ⅰ期
96D	SK19	—	296	18	弥生Ⅰ期	97Ab	SD10	—	70	11	中世Ⅰ期
96D	SK23	280	90	21	弥生Ⅰ期	97Ab	SD11	—	50	24	中世Ⅰ期
96D	SK24	310	130	8	弥生Ⅰ期	97Ab	SD12	350	150	19	中世Ⅰ期
96D	SK25	310	120	14	弥生Ⅰ期	97Ab	SD13	—	55	15	中世Ⅰ期
96D	SK45	138	94	21	縄文Ⅲ期	97Ab	SD14	1860	50	11	中世Ⅰ期
96D	SK48	200	172	26	弥生Ⅰ期以前	97Ab	SD15	870	60	23	中世Ⅰ期
96D	SK57	420	385	45	弥生Ⅰ期以前	97Ab	SD17	—	25	11	中世Ⅰ期
96D	SK71	142	120	49	弥生Ⅰ期以前	97Ab	SD18	—	40	8	中世Ⅰ期
96D	SK86	234	70	42	弥生Ⅰ期以前	97Ab	SD19	—	30	9	中世Ⅰ期
96D	SK87	316	145	43	弥生Ⅰ期以前	97Ab	SD20	—	30	8	中世Ⅰ期

調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期	調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期
97Ab	SD21	—	40	6	中世Ⅰ期	97B	SD16	—	70	19	古代
97Ab	SD22	520	35	8	中世Ⅰ期	97B	SD17	880	59	22	中世Ⅱ期
97Ab	SD23	400	50	4	中世Ⅰ期	97B	SD29	—	120	38	古墳
97Ab	SD24	580	60	9	中世Ⅱ期	97B	SD21	—	60	23	古墳
97Ab	SD25	995	80	16	中世Ⅱ期	97B	SD22	1320	60	14	中世Ⅰ期
97Ab	SD26	850	70	20	中世Ⅱ期	97B	SD24	—	40	15	中世Ⅰ期
97Ab	SD27	—	60	7	中世Ⅱ期	97B	SD25	—	45	14	中世Ⅰ期
97Ab	SD28	—	145	48	古代	97B	SD26	—	30	25	古墳
97Ab	SD29	—	—	19	古墳	97B	SD31	—	40	10	中世Ⅰ期
97Ab	SD30	—	130	32	古墳	97B	SD32	—	55	12	中世Ⅰ期
97Ab	SD31	—	190	54	古墳	97B	SD35	—	60	11	中世Ⅰ期
97Ab	SD32	—	60	12	中世Ⅱ期	97B	SD36	—	60	15	中世Ⅰ期
97Ab	SD33	—	75	16	古墳	97B	SD37	—	30	9	中世Ⅰ期
97Ab	SD34	—	70	23	古墳	97B	SD38	—	55	12	古墳
97Ab	SD36	—	120	24	古代	97B	SD41	—	120	35	中世Ⅰ期
97Ab	SD40	—	55	7	中世Ⅱ期	97B	SD43	—	80	45	中世Ⅱ期
97Ab	SD43	—	45	12	古墳	97B	SD44	—	55	25	中世Ⅰ期
97Ab	SD45	—	65	20	弥生Ⅰ期以前	97B	SD47	—	60	18	古墳
97Ab	SD46	—	330	40	弥生Ⅰ期	97B	SD48	—	120	38	中世Ⅰ期
97Ab	SD47	—	150	20	弥生Ⅰ期	97B	SD55	1650	160	35	近世以降
97Ab	SD48	—	60	14	绳文Ⅲ期	97B	SD56	—	60	14	中世Ⅰ期
97Ab	SD49	—	—	21	绳文Ⅲ期	97B	SD57	—	70	13	中世Ⅰ期
97Ab	SD50	520	35	6	弥生Ⅰ期	97B	SD58	—	25	11	中世Ⅰ期
97Ab	SD63	—	130	27	古代	97B	SD59	—	35	15	中世Ⅰ期
97Ab	SD56	—	40	8	弥生Ⅰ期	97B	SD60	550	80	24	中世Ⅱ期
97Ab	SD57	670	40	4	弥生Ⅰ期	97B	SD62	—	50	17	中世Ⅰ期
97Ab	SD58	—	60	17	中世Ⅰ期	97B	SD63	—	50	18	中世Ⅰ期
97Ab	SD59	—	—	15	绳文Ⅲ期	97B	SD68	—	55	15	中世Ⅰ期
97Ab	SD60	—	85	16	古墳	97B	SD72	—	95	18	中世Ⅰ期
97Ab	SK01	250	90	32	中世Ⅰ期	97B	SD76	—	76	32	古墳
97Ab	SK02	—	62	30	中世Ⅰ期	97B	SD78	—	60	18	中世Ⅰ期
97Ab	SK03	235	60	45	中世Ⅰ期	97B	SD80	—	60	17	中世Ⅰ期
97Ab	SK04	225	170	28	中世Ⅰ期	97B	SD88	1150	55	15	近世以降
97Ab	SK06	158	155	15	古墳	97B	SD89	—	20	25	中世Ⅱ期
97Ab	SK23	250	200	32	古墳	97B	SD92	—	320	45	弥生Ⅰ期
97Ab	SK131	160	100	69	弥生Ⅰ期以前	97B	SD93	—	290	85	弥生Ⅱ期
97Ab	SK135	32	30	8	古墳	97B	SD95	—	60	20	弥生Ⅰ期以前
97Ab	SK153	100	82	25	弥生Ⅰ期以前	97B	SD96	—	100	21	弥生Ⅰ期
97Ab	SK154	115	75	22	弥生Ⅰ期以前	97B	SD97	—	200	8	弥生Ⅰ期
97Ab	SK175	314	100	19	弥生Ⅰ期以前	97B	SD68	—	70	16	弥生Ⅰ期
97Ab	SK177	385	120	16	弥生Ⅰ期以前	97B	SD99	—	50	15	弥生Ⅰ期
97Ab	SK201	120	110	35	古墳	97B	SD100	—	70	12	弥生Ⅰ期
97Ab	SE01	155	125	76	古墳	97B	SD101	540	95	14	弥生Ⅰ期
97Ab	SX01	245	180	28	弥生Ⅰ期	97B	SD102	—	50	9	弥生Ⅰ期
97Ab	SK02	515	320	34	中世Ⅰ期	97B	SD103	350	90	30	弥生Ⅰ期以前
97B	SD01	—	270	51	中世Ⅱ期以前	97B	SD104	—	65	5	弥生Ⅰ期以前
97B	SD02	—	46	15	古代	97B	SD107	350	60	6	弥生Ⅰ期以前
97B	SD05	—	110	25	古代	97B	SD108	270	90	7	弥生Ⅰ期以前
97B	SD06	—	100	16	古代	97B	SD109	300	100	15	弥生Ⅰ期以前
97B	SD08	—	60	15	古代	97B	SK09	—	—	8	古代
97B	SD09	—	80	21	古代	97B	SK22	—	—	12	中世
97B	SD12	960	45	21	中世Ⅰ期	97B	SK58	200	90	15	中世Ⅰ期
97B	SD13	—	50	23	中世Ⅰ期	97B	SK66	—	70	25	中世Ⅰ期
97B	SD14	—	110	45	古代	97B	SK67	290	80	39	中世Ⅰ期
97B	SD15	—	35	18	古代	97B	SK68	70	45	32	中世Ⅰ期

調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期	調査区	遺構番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	時期
97B	SK74	240	140	35	弥生後期	97Ca	SD19	—	42	18	古代
97B	SK82	30	25	15	中世Ⅰ期	97Ca	SD20	—	—	15	古代
97B	SK88	1740	1520	122	古墳	97Ca	SD21	—	88	56	古代
97B	SK128	140	130	51	中東Ⅰ期	97Ca	SD23	—	80	20	中世Ⅱ期
97B	SK130	—	440	152	古代	97Ca	SD24	—	52	18	中世Ⅰ期
97B	SK161	230	130	25	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SD26	302	44	11	中世Ⅰ期
97B	SK163	85	50	23	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SD27	—	355	95	弥生Ⅱ期
97B	SK164	275	100	25	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SD28	—	70	22	弥生Ⅱ期
97B	SK166	45	35	24	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SD29	—	130	30	弥生Ⅱ期
97B	SK170	320	250	10	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SD30	—	185	40	弥生Ⅱ期
97B	SK171	35	30	6	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SD31	—	60	25	弥生Ⅱ期
97B	SK172	60	50	8	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SD34	—	54	14	古代
97B	SK174	72	64	31	縄文Ⅱ期	97Ca	SD35	—	56	15	古代
97B	SK176	95	65	10	縄文Ⅰ期	97Ca	SD36	—	90	4	古墳
97B	SK177	50	48	6	縄文Ⅰ期	97Ca	SK01	25	22	21	中世Ⅱ期
97B	SK180	480	360	15	縄文Ⅰ期	97Ca	SK13	120	80	72	中世
97B	SK181	142	132	70	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SK27	190	150	62	中世
97B	SK182	445	120	74	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SK39	—	—	25	弥生Ⅰ期以前
97B	SK184	172	165	76	弥生Ⅰ期以前	97Ca	SK49	—	—	30	弥生Ⅰ期以前
97B	SK186	40	34	5	縄文Ⅰ期	97Ca	SK51	145	105	46	中世Ⅰ期
97B	SK187	82	45	15	縄文Ⅰ期	97Ca	SX01	—	—	52	古墳
97B	SK188	68	38	15	縄文Ⅰ期	97Cb	SD02	—	66	22	古代
97B	SK189	450	150	42	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD03	400	56	11	近世以降
97B	SK190	50	48	55	縄文Ⅰ期	97Cb	SD04	332	76	10	中世
97B	SK191	210	160	25	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD07	716	56	12	古代
97B	SK229	—	72	12	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD08	—	—	13	古代
97B	SK255	300	120	15	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD09	—	74	34	古墳
97B	SK300	310	60	41	弥生Ⅰ期	97Cb	SD10	—	54	23	古代
97B	SK303	120	80	23	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD11	—	76	32	古代
97B	SK383	204	144	31	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD12	—	54	11	古代
97B	SK501	110	105	11	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD14	312	48	22	中世
97B	SK506	150	85	7	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD15	—	74	34	中世
97B	SK512	390	330	25	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD16	—	350	90	弥生Ⅱ期
97B	SK526	402	316	11	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD18	—	190	42	弥生Ⅱ期
97B	SK556	252	205	5	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SD19	—	140	45	弥生Ⅱ期
97B	SX01	810	210	22	古墳	97Cb	SD20	—	130	25	弥生Ⅱ期
97B	SX03	—	190	16	弥生Ⅰ期	97Cb	SD21	—	90	15	弥生Ⅱ期
97B	SX04	—	—	21	弥生Ⅰ期	97Cb	SD22	226	48	12	近世以降
97B	SX05	—	130	5	弥生Ⅰ期	97Cb	SK02	—	—	6	古代
97B	SX07	—	170	26	弥生Ⅰ期以前	97Cb	SK03	180	70	21	古代
97B	SX08	—	—	9	縄文Ⅱ期	97Cb	SK04	210	70	11	古代
97B	SX11	2840	1380	25	中世Ⅰ期	97Cb	SK11	—	62	45	中世
97Ca	SD01	—	120	60	古代	97Cb	SK12	154	92	91	古代
97Ca	SD02	—	125	62	古代	97Cb	SK14	195	84	85	古代
97Ca	SD03	—	80	40	古代	97Cb	SK15	165	90	41	古代
97Ca	SD04	1510	70	16	中世Ⅰ期	97Cb	SK18	138	95	16	古代
97Ca	SD05	—	80	25	古代	97Cb	SK57	130	80	28	弥生Ⅰ期以前
97Ca	SD07	—	72	18	古代	97Cb	SK58	155	115	75	弥生Ⅰ期以前
97Ca	SD09	—	64	11	古代	97Cb	SK60	—	—	15	古代
97Ca	SD10	—	80	41	古墳	97Cb	SX01	990	210	21	中世
97Ca	SD11	—	90	32	古代	97Cb	SX04	—	—	20	中世
97Ca	SD13	—	60	15	古代	97Cb	SX05	—	—	213	中世
97Ca	SD14	—	56	12	古墳	97Cb	SX06	—	—	13	古代
97Ca	SD17	—	96	38	古代	97Cb	SX07	—	—	10	古代
97Ca	SD18	—	76	23	古代	97Cb	SX08	420	180	13	中世

遺物一覧表

縄文

種別	番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号
44	1	深鉢	97B	SK187	30.0	-	16.1	後期前葉	北白川上層式に対比	E-1
44	2	深鉢	97B	SK190	-	-	8.4	後期前葉	北白川上層式に対比	E-2
44	3	深鉢	97B	検出II NB13b	-	-	1.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-3
44	4	深鉢	97B	検出II NB11c	33.1	-	4.0	後期前葉	北白川上層式に対比	E-4
44	5	深鉢	97B	SK180	-	-	5.4	後期前葉	北白川上層式に対比	E-5
44	6	深鉢	97B	SK180	-	-	5.4	後期前葉	北白川上層式に対比	E-6
44	7	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	2.4	後期前葉	北白川上層式に対比	E-7
44	8	深鉢	97B	検出II NB18c	-	-	2.4	後期前葉	北白川上層式に対比	E-8
44	9	深鉢	97B	検出II NB12c	-	-	3.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-9
44	10	深鉢	97B	SK180	-	-	3.0	後期前葉	北白川上層式に対比	E-10
44	11	深鉢	97B	SK180	-	-	2.2	後期前葉	北白川上層式に対比	E-11
44	12	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	2.6	後期前葉	北白川上層式に対比	E-12
44	13	深鉢	97B	検出II NB12a	-	-	3.0	後期前葉	北白川上層式に対比	E-13
44	14	深鉢	96Be	検出II NB10a	-	-	12.3	後期前葉	北白川上層式に対比	E-14
45	15	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	2.4	後期前葉	北白川上層式に対比	E-15
45	16	深鉢	97B	SK180	-	-	1.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-16
45	17	深鉢	97B	SK177	-	-	3.9	後期前葉	北白川上層式に対比	E-17
45	18	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	2.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-18
45	19	深鉢	97Ca	検出II NA7o	-	-	1.7	後期前葉	北白川上層式に対比	E-19
45	20	深鉢	97B	検出II NB15c	-	-	2.9	後期前葉	北白川上層式に対比	E-20
45	21	深鉢	96Be	検出II NB10a	-	-	3.9	後期前葉	北白川上層式に対比	E-21
45	22	深鉢	97B	検出II NB12c	-	-	3.8	後期前葉	北白川上層式に対比	E-22
45	23	深鉢	97B	検出II NB12c	-	-	3.1	後期前葉	北白川上層式に対比	E-23
45	24	深鉢	97B	SK166	-	-	2.7	後期前葉	北白川上層式に対比	E-24
45	25	深鉢	97B	SK180	-	-	2.2	後期前葉	北白川上層式に対比	E-25
45	26	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	4.2	後期前葉	北白川上層式に対比	E-26
45	27	深鉢	97B	SK188	32.0	-	20.4	後期前葉	北白川上層式に対比	E-27
45	28	深鉢	97B	SK186	50.0	-	18.6	後期前葉	北白川上層式に対比	E-28
46	29	深鉢	96Be	SK26	52.4	-	18.4	後期前葉	北白川上層式に対比	E-29
46	30	深鉢	96Ba	検出II NB9a	-	-	5.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-30
46	31	深鉢	96Ba	SX05	-	-	8.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-31
46	32	深鉢	96Ba	SX04	-	-	10.8	後期前葉	北白川上層式に対比	E-32
46	33	深鉢	97B	SK180	-	-	6.6	後期前葉	北白川上層式に対比	E-33
46	34	深鉢	97B	NR01	-	-	3.8	後期前葉	北白川上層式に対比	E-34
46	35	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	4.2	後期前葉	北白川上層式に対比	E-35
46	36	深鉢	97B	SD91	-	-	2.0	後期前葉	北白川上層式に対比	E-36
46	37	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	1.7	後期前葉	北白川上層式に対比	E-37
46	38	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	2.3	後期前葉	北白川上層式に対比	E-38
46	39	深鉢	97B	SD91	-	-	2.1	後期前葉	北白川上層式に対比	E-39
46	40	深鉢	96Ba	SX04	-	-	2.2	後期前葉	北白川上層式に対比	E-40
46	41	深鉢	97B	SK189	-	-	1.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-41
46	42	深鉢	97B	検出II NB12b	-	-	5.7	後期前葉	北白川上層式に対比	E-42
46	43	深鉢	97B	SD30	-	-	2.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-43
46	44	深鉢	97B	SK180	-	-	2.3	後期前葉	北白川上層式に対比	E-44
46	45	深鉢	96E	NR01	-	-	5.5	後期前葉	北白川上層式に対比	E-45
47	46	深鉢	97B	検出II NB13a	28.8	-	10.0	後期前葉	北白川上層式に対比	E-46
47	47	深鉢	97B	検出II NB13a	-	-	4.8	後期前葉	北白川上層式に対比	E-47
47	48	深鉢	97B	NR01(下層)	41.8	-	14.9	後期前葉	北白川上層式に対比	E-48
47	49	深鉢	97B	SK176	45.0	-	31.0	後期前葉	北白川上層式に対比	E-49
48	50	注口上器	97Ab	検出II VA1r	-	-	10.4	後期前葉末	元住吉山I式に対比	E-50
48	51	注口上器	96E	NR01	-	-	5.8	後期後葉	元住吉山II式に対比	E-51
48	52	深鉢	97B	SK174	-	-	11.8	後期後葉	元住吉山II式に対比	E-52
48	53	深鉢	96Ba	検出II NB9a	23.2	-	5.7	後期後葉	宮底式に対比	E-53
48	54	深鉢	96A	検出II NB11	-	-	3.5	後期後葉	宮底式に対比	E-54
48	55	深鉢	97Ab	検出II VB4a	-	-	4.0	後期後葉	宮底式に対比	E-55
48	56	深鉢	96Td	島田トレンチD(黒色土層)	-	-	3.3	後期後葉	宮底式に対比	E-56
48	57	深鉢	96Td	島田トレンチD(黒色土層)	-	-	3.8	後期後葉	宮底式に対比	E-57
48	58	深鉢	97B	NR01	28.6	-	9.5	後期後葉	宮底式に対比	E-58
48	59	浅鉢	97Ab	検出II VB2a	26.8	-	7.1	後期後葉	宮底式對比	E-59
48	60	深鉢	97Ab	SD49	-	-	5.0	後期後葉	宮底式對比	E-60
49	61	深鉢	97Ab	検出II NB20c	28.0	-	18.9	後期末	寺津下層式併行	E-61
49	62	深鉢	97B	検出II NA12a	21.2	-	3.6	晚期初頭	寺津式併行	E-62
49	63	深鉢	97Ab	検出II VB1d	20.8	-	3.8	晚期初頭	寺津式併行	E-63
49	64	深鉢	97Ab	検出II VB1b	-	-	4.0	晚期初頭	寺津式併行	E-64

種別	番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号
49	65		97Ab	検出 II VB1b	—	—	2.2	晩期初頭	寺津式井行	E-65
49	66		97Ab	検出 II VB1b	—	—	2.7	晩期初頭	寺津式井行	E-66
49	67		97Ab	検出 II VB1b	—	—	2.4	晩期初頭	寺津式井行	E-67
49	68		97Ab	検出 II VA1t	—	—	3.2	晩期初頭	寺津式井行	E-68
49	69		97B	NB01	—	—	3.6	晩期初頭	寺津式井行	E-69
49	70		96E	NB01	22.0	—	8.3	晩期初頭	寺津式井行	E-70
49	71		96A	検出 I IV Cl1a	—	—	2.4	晩期前葉	元刈谷式井行	E-71
49	72		97Aa	検出 II VA1n	—	—	4.2	晩期前葉	元刈谷式井行	E-72
49	73		96Cb	検出 III VA1t	—	—	2.9	晩期前葉	元刈谷式井行	E-73
50	74	深鉢	96Bb	検出 II IV A20e	35.2	—	20.5	晩期中葉	福井山式井行	E-74
50	75	深鉢	97B	検出 II IV A19t	34.4	—	18.0	晩期中葉	福井山式井行	E-75
50	76	深鉢	96Ba	SX04	28.4	12.0	28.5	晩期中葉	福井山式井行	E-76
50	77	深鉢	96Ba	SX04	—	10.4	3.6	晩期中葉	福井山式井行	E-77
50	78	深鉢	97B	検出 III IV B12b	—	12.2	2.9	晩期中葉	福井山式井行	E-78
51	79	深鉢	96Cb	SK90	42.4	—	26.6	晩期中葉	福井山式井行	E-79
51	80	深鉢	96Cb	SK90	30.0	—	7.1	晩期中葉	福井山式井行	E-80
51	81	深鉢	96Bb	検出 III IV A14p	—	—	2.6	晩期中葉	福井山式井行	E-81
51	82	鉢	97Ca	検出 II IV A7p	30.4	—	2.9	晩期中葉	福井山式井行	E-82
51	83		96Cb	検出 III VA11k	—	—	3.3			E-83
51	84		96Cb	検出 III VA11k	—	—	2.6			E-84
51	85		96Cb	検出 III VA11k	—	—	1.8			E-85
51	86		96Cb	検出 III VA11k	—	—	2.4			E-86
51	87		96Cb	検出 III VA11k	—	—	3.4			E-87
51	88		96Cb	検出 III VA11k	18.6	—	4.0			E-88
51	89	壺	96Ba	SX04	4.4	—	9.5			E-89
51	90	鉢	97B	検出 II V A16t	25.4	—	7.6			E-90
52	91	深鉢	96Cb	SK90	23.2	—	4.2	後期前葉	寺津式井行	E-91
52	92	鉢	96Ba	検出 II IV B9a	27.0	—	5.6	晩期前葉	寺津式井行	E-92
52	93	深鉢	97B	SK189	21.8	—	6.0			E-93
52	94	深鉢	97B	SK164	24.2	—	6.4			E-94
52	95	深鉢	97B	検出 III V A16r	19.2	—	3.7			E-95
52	96	深鉢	97B	検出 II IV B13b	—	—	3.9			E-96
52	97	深鉢	97B	検出 III IV B13a	—	—	5.7			E-97
52	98	深鉢	97B	検出 II IV B16d	31.4	—	4.6			E-98
52	99	深鉢	96D	SK45	—	—	4.2			E-99
52	100	深鉢	97B	SK174	—	—	6.0			E-100
52	101	深鉢	97B	検出 III IV B12b	35.8	—	3.8			E-101
52	102	深鉢	97B	検出 III V A17r	—	—	5.5	晩期中葉	寺津式井行	E-102
52	103	深鉢	97B	検出 III V A17r	—	—	4.3	晩期中葉	寺津式井行	E-103
52	104	深鉢	97Ab	検出 II (黑色土) VA3r	—	—	4.8	晩期中葉	寺津式井行	E-104
52	105	深鉢	96Cb	検出 I VA11m	—	7.2	1.2		網代灰	E-105
52	106	深鉢	97B	検出 II IV B14b	—	8.8	1.5		網代灰	E-106
52	107	深鉢	96Td	是郷(トレンチ)I(黑色土層)	—	8.8	5.8		網代灰	E-107

弥生時代前期

種別	番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号
53	108	壺	96Tt	SX01	11.4	—	17.0	前期	桑原紋系	E-108
53	109	壺	96Tt	SX01	11.6	—	3.7	前期	速賀川系	E-109
53	110	内傾口縁土器	96Tt	SX01	—	—	3.3	前期	桑原紋系	E-110
53	111	深鉢	96Tt	SX01	23.4	—	4.9	前期	水式系削痕	E-111
53	112	深鉢	96Tt	SX01	24.6	—	7.6	前期	水式系削痕	E-112
53	113	深鉢	96Tt	SX01	—	7.4	3.2	前期	水式系削痕	E-113
53	114	壺	96Cb	SK50	—	—	4.5	前期	速賀川系	E-114
53	115	壺	96Cb	SK50	—	—	3.0	前期	速賀川系	E-115
53	116	壺	96Cb	SK50	—	7.6	4.1	前期	速賀川系	E-116
53	117	壺	96Cb	SK153	13.2	—	4.8	前期	速賀川系	E-117
53	118	壺	96Cb	SK153	—	—	8.5	前期	速賀川系	E-118
53	119	壺	96Cb	SK153	—	—	9.7	前期	速賀川系	E-119
53	120	鉢	96Cb	SK153	29.2	—	8.4	前期	速賀川系	E-120
53	121	壺 or 鉢	96Cb	SK153	—	9.6	3.4	前期	速賀川系	E-121
53	122	壺 or 鉢	96Cb	SK153	—	9.4	6.4	前期	速賀川系	E-122
53	123	深鉢	96Cb	SK153	24.6	—	5.7	前期	水式系削痕	E-123
54	124	壺蓋	96Tt	SB03	12.8	—	2.1	前期	速賀川系	E-124
54	125	壺	96Tt	SB03	16.8	34.2	13.6	前期	速賀川系	E-125

種別	番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時 期	備 考	登録番号
54	126	壺	96Ti	SB03	14.6	—	4.5	前期	速賀川系	E-126
54	127	壺	96Ti	SB03	17.2	—	4.7	前期	速賀川系	E-127
54	128	壺	96Ti	SB03	18.2	—	6.9	前期	速賀川系	E-128
54	129	壺	96Ti	SB03	—	7.5	19.4	前期	速賀川系	E-129
54	130	壺	96Ti	SB03	—	6.4	5.2	前期	速賀川系	E-130
54	131	鉢	96Ti	SB03	36.0	—	3.1	前期	速賀川系	E-131
54	132	鉢	96Ti	SB03	40.4	—	3.0	前期	速賀川系	E-132
54	133	鉢	96Ti	SB03	44.2	—	5.4	前期	速賀川系	E-133
54	134	甕	96Ti	SB03	19.0	—	6.2	前期	速賀川系	E-134
54	135	甕	96Ti	SB03	24.2	—	7.0	前期	速賀川系	E-135
54	136	甕	96Ti	SB03	35.2	—	2.9	前期	速賀川系	E-136
54	137	甕	96Ti	SB03	24.6	—	6.8	前期	速賀川系	E-137
55	138	深鉢	96Ti	SB03	22.0	—	4.6	—	水式系削痕	E-138
55	139	深鉢	96Ti	SB03	28.4	—	4.1	前期	水式系削痕	E-139
55	140	深鉢	96Ti	SB03	21.6	—	4.8	前期	水式系削痕	E-140
55	141	深鉢	96Ti	SB03	19.4	—	8.9	前期	水式系削痕	E-141
55	142	深鉢	96Ti	SB03	20.0	—	3.9	前期	水式系削痕	E-142
55	143	深鉢	96Ti	SB03	33.0	—	9.0	前期	水式系削痕	E-143
55	144	深鉢	96Ti	SB03	32.2	—	8.5	前期	水式系削痕	E-144
55	145	深鉢	96Ti	SB03	—	8.8	6.1	前期	水式系削痕	E-145
55	146	深鉢	96Ti	SB03	—	6.8	4.3	—	水式系削痕	E-146
55	147	深鉢	96Ti	SB03	—	8.6	7.4	前期	水式系削痕	E-147
55	148	深鉢	96Ti	SB03	—	7.6	11.7	前期	水式系削痕	E-148
55	149	深鉢	96Ti	SB03	17.0	7.7	—	—	秦紋系	E-149
55	150	壺	96Cb	検出Ⅲ VA11k	—	—	2.5	前期	速賀川系	E-150
55	151	深鉢	96Cb	検出Ⅲ VA11k	21.6	—	15.6	前期	水式系削痕	E-151
55	152	深鉢	96Cb	検出Ⅲ VA11k	17.2	—	6.0	前期	水式系削痕	E-152
55	153	深鉢	96Cb	検出Ⅲ VA11k	20.6	—	3.9	前期	水式系削痕	E-153
55	154	深鉢	96Cb	検出Ⅲ VA11k	30.0	—	3.9	前期	水式系削痕	E-154
55	155	深鉢	96Cb	検出Ⅲ VA11k	—	7.0	4.0	前期	水式系削痕	E-155
56	156	壺	96Ti	SK01	11.0	—	3.1	前期	速賀川系	E-156
56	157	鉢	96Ti	SK01	21.8	—	13.6	前期	速賀川系	E-157
56	158	甕	96Ti	SK01	—	7.8	23.4	前期	速賀川系	E-158
56	159	壺 or 鉢	96Ti	SK01	—	11.2	11.0	前期	速賀川系	E-159
56	160	壺 or 鉢	96Ti	SK01	—	9.2	2.6	前期	速賀川系	E-160
56	161	鉢	96Ti	SK01	39.6	—	12.5	前期	速賀川系	E-161
56	162	深鉢	96Ti	SK01	24.5	—	20.4	前期	水式系削痕	E-162
56	163	壺	97Ab	SD46 西側盛土	14.9	—	21.5	前期	速賀川系	E-163
56	164	壺	97Ab	SD46 西側盛土	12.0	—	19.0	前期	速賀川系	E-164
56	165	壺?	97Ab	水田城 VB3d	—	6.0	2.3	前期	水式系削痕	E-165
56	166	深鉢	97Ab	水田城 VB3d	—	9.0	4.5	前期	水式系削痕	E-166
56	167	甕	97Ab	SD49	—	7.2	3.6	前期	速賀川系	E-167
57	168	壺	97Ab	検出Ⅱ VA3q	14.6	—	28.8	前期	速賀川系	E-168
57	169	壺	96Ti	検出Ⅱ VA15n	14.4	—	4.9	前期	速賀川系	E-169
57	170	壺	96Cb	検出Ⅱ VA8I	—	—	—	前期	速賀川系	E-170
57	171	壺	96Cb	検出Ⅱ VA15I	—	7.8	5.2	前期	速賀川系	E-171
57	172	壺	96Cb	検出Ⅱ VA14I	—	—	5.3	前期	速賀川系	E-172
57	173	壺	97B	検出Ⅱ BV16I	—	—	15.0	前期	速賀川系	E-173
57	174	甕	96D	検出Ⅰ VA16m	—	4.8	2.8	前期	速賀川系	E-174
57	175	甕	96D	検出Ⅱ VA16m	—	3.8	2.8	前期	速賀川系	E-175
57	176	甕	96Cb	検出Ⅱ VA7I	—	6.0	2.7	前期	速賀川系	E-176
57	177	甕	97Ab	検出Ⅰ VA14r	—	9.0	3.9	前期	速賀川系	E-177
57	178	鉢	96Cb	検出Ⅱ VA13m	24.0	—	7.6	前期	速賀川系	E-178
57	179	鉢	96Cb	検出Ⅱ VA9K	32.4	—	4.2	前期	速賀川系	E-179
57	180	深鉢	96Cb	検出Ⅱ VA8I	19.8	—	4.0	前期	水式系削痕	E-180
57	181	深鉢	96Cb	公道水路内 VA15j	24.2	14.7	—	前期	水式系削痕	E-181
57	182	深鉢	96D	SK24	18.8	—	3.7	前期	水式系削痕	E-182
57	183	深鉢	96D	検出Ⅱ MA6b	23.2	—	5.0	前期	水式系削痕	E-183
57	184	鉢	96D	検出Ⅱ VA17m	20.0	—	7.1	前期	水式系削痕	E-184
57	185	深鉢	96Cb	検出Ⅱ VA15I	26.8	—	11.8	前期	水式系削痕	E-185
57	186	深鉢	96Cb	検出Ⅱ VA7I	—	6.8	2.1	前期	水式系削痕	E-186
57	187	深鉢	96Cb	検出Ⅱ VA10s	—	7.6	4.1	前期	水式系削痕	E-187
57	188	深鉢	96Cb	検出Ⅱ VA8B	—	7.2	3.8	前期	水式系削痕	E-188
57	189	深鉢	96D	検出Ⅰ VA16m	—	6.4	3.2	前期	水式系削痕	E-189
57	190	深鉢	97Ab	検出Ⅱ VA2r	—	7.6	4.9	前期	水式系削痕	E-190
57	191	深鉢	97B	SK03	—	7.0	5.0	前期	水式系削痕	E-191

種類	番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号
57	192	内横口縁土器	97B	検出II 施A19q	—	—	3.3	前期	条痕紋系	E-192
57	193	内横口縁土器	97T1	検出III VA1500	9.8	—	4.9	前期	条痕紋系	E-193

弥生時代後期～古墳時代

種類	番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号
61	194	弥生土器 有段高杯	97B	SK74	20.8	—	5.0	山中式後期	E-194	
61	195	弥生土器 弓口壺	97B	SK74	15.6	—	4.8	山中式後期	E-195	
61	196	土師器 有段高杯	97T1	SK02	22.8	—	3.8	題開I式	E-196	
61	197	土師器 有段高杯	97T1	SK02	—	—	3.7	題開I式	E-197	
61	198	土師器 有段高杯	97T1	SK02	—	—	10.8	題開I式	E-198	
61	199	土師器 洗鉢	97T1	SK02	16.7	1.8	10.3	題開I式	E-199	
61	200	土師器 有段口縁甕	97T1	SK02	18.2	—	3.0	題開I式	E-200	
61	201	土師器 <字要	97B	SD20	19.2	—	6.1	題開I式	E-201	
61	202	土師器 有段口縁(<字要)	97B	SD20	—	8.6	7.8	題開I式	E-202	
61	203	土師器 有段高杯	97B	SD20	26.6	15.8	18.6	題開I式	E-203	
61	204	土師器 有段高杯(器台)	97B	SD20	—	21.2	6.6	題開I式	E-204	
61	205	土師器 バラス蓋	97Ab	SD33	—	—	2.0	題開I式	E-205	
61	206	土師器 <字要	97Ab	SD29	—	9.4	26.5	題開I式	E-206	
61	207	土師器 S字要	97Ab	SD29	15.2	—	4.4	A類(新)	E-207	
61	208	土師器 有段高杯	97Ab	SD29	—	11.8	8.4	題開I式	E-208	
62	209	土師器 S字要	97Ab	SD30	17.0	—	5.6	題開II式	E-209	
62	210	土師器 S字要	97Ab	SD30	17.4	—	4.8	題開II式	E-210	
62	211	土師器 S字要	97Ab	SD30	—	7.0	4.5	題開II式	E-211	
62	212	土師器 小型器台	97Ab	SD30	9.0	—	6.5	題開II式	E-212	
62	213	土師器 内溝直口壺	97Ab	SD30	6.0	—	4.9	口縁部外側面凹線	E-213	
62	214	土師器 小型壺	97Ab	SD30	—	3.6	2.3	題開II式	E-214	
62	215	土師器 有段高杯	97Ab	SK135	—	—	5.1	題開I式	E-215	
62	216	土師器 器台	97B	SD76	—	—	4.8	題開I式	E-216	
62	217	土師器 <字要	97B	SK116	15.4	—	3.8	題開I式	E-217	
62	218	土師器 <字要	96D	SK01	—	7.5	5.1	題開I式	E-218	
62	219	土師器 器台	97B	SD47	—	—	6.8	題開II式	E-219	
62	220	土師器 S字要	97T1	SE02	18.4	—	6.3	松河戸I式	C類(新)	E-220
62	221	土師器 S字要	97T1	SE02	14.0	—	4.6	松河戸I式	D類(古)	E-221
62	222	土師器 S字要	97T1	SE02	—	—	3.0	松河戸I式	E-222	
62	223	土師器 S字要	97T1	SE02	—	—	2.8	松河戸I式	E-223	
62	224	土師器 S字要	97T1	SE02	—	7.8	5.2	松河戸I式	E-224	
62	225	土師器 無透孔唇折脚高杯	97T1	SE02	15.7	—	5.6	松河戸I式	E-225	
62	226	土師器 種ヶ坪型壺	97T1	SE02	—	—	—	松河戸I式	E-226	
62	227	土師器 種ヶ坪型壺	97T1	SE02	12.6	—	2.5	松河戸I式	E-227	
62	228	土師器 小型壺	97T1	SE02	—	2.5	3.5	松河戸I式	E-228	
62	229	土師器 壺	97T1	SE02	—	4.2	4.7	松河戸I式	E-229	
62	230	土師器 S字要	97T1	SE01	19.6	—	1.9	松河戸I式	D類(古～中)	E-230
62	231	土師器 <字要	97T1	SE01	—	9.1	9.2	松河戸I式	E-231	
62	232	土師器 二重口縁壺	97T1	SE01	19.0	—	4.9	松河戸I式	E-232	
63	233	土師器 S字要	97B	SK88	12.4	—	3.2	松河戸I式	D類(古)	E-233
63	234	土師器 S字要	97B	SK88	13.2	—	4.9	松河戸I式	D類(古)	E-234
63	235	土師器 S字要	97B	SK88	10.4	—	4.1	松河戸I式	D類(古)	E-235
63	236	土師器 S字要	97B	SK88	15.0	—	2.8	松河戸I式	D類(古)	E-236
63	237	土師器 S字要	97B	SK88	13.8	—	3.8	松河戸I式	D類(古)	E-237
63	238	土師器 S字要	97B	SK88	12.0	—	2.8	松河戸I式	D類(古)	E-238
63	239	土師器 S字要	97B	SK88	—	—	2.6	松河戸I式	D類(古)	E-239
63	240	土師器 <字要	97B	SK88	—	9.2	5.7	松河戸I式	E-240	
63	241	土師器 <字要	97B	SK88	—	10.2	6.5	松河戸I式	E-241	
63	242	土師器 <字要	97B	SK88	—	—	4.0	松河戸I式	E-242	
63	243	土師器 <字要	97B	SK88	—	—	2.6	松河戸I式	E-243	
63	244	土師器 <字要	97B	SK88	—	—	4.0	松河戸I式	E-244	
63	245	土師器 無透孔唇折脚高杯	97B	SK88	16.6	—	5.8	松河戸I式	E-245	
63	246	土師器 無透孔唇折脚高杯	97B	SK88	16.4	—	5.6	松河戸I式	E-246	
63	247	土師器 無透孔唇折脚高杯	97B	SK88	16.4	—	4.4	松河戸I式	E-247	
63	248	土師器 無透孔唇折脚高杯	97B	SK88	—	—	7.8	松河戸I式	E-248	
63	249	土師器 無透孔唇折脚高杯	97B	SK88	—	—	7.7	松河戸I式	E-249	
63	250	土師器 種ヶ坪型壺	97B	SK88	—	—	7.7	松河戸I式	E-250	
63	251	土師器 直口壺?	97B	SK88	12.2	—	5.1	松河戸I式	E-251	
63	252	土師器 小型丸底壺	97B	SK88	9.2	—	3.0	松河戸I式	E-252	

種類	番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	時 期	備 考	登録番号
63	253	土師器 小型丸底鉢	97B	SKR8	11.8	—	8.4	松河戸I式	E-253	
63	254	土師器 小型盤台	97B	SKR8	13.2	—	4.9	松河戸I式	E-254	
63	255	土師器 棚ヶ坪型壺	96Ba	SK14	18.0	7.0	32.2	松河戸I式 底部外面木彫痕	E-255	
63	256	土師器 S字型	96Ba	SK14	13.1	—	5.6	松河戸I式 C類(新)	E-256	
64	257	土師器 S字型	97Ab	SD31	15.6	—	2.9	松河戸I式 D類(古)	E-257	
64	258	土師器 S字型	97Ab	SD31	13.8	—	3.8	松河戸I式 D類(古)	E-258	
64	259	土師器 S字型	97Ab	SD31	12.2	—	2.8	松河戸I式 D類(古)	E-259	
64	260	土師器 S字型	97Ab	SD31	12.4	—	3.5	松河戸I式 D類(古)	E-260	
64	261	土師器 S字型	97Ab	SD31	15.6	—	2.7	松河戸I式 D類(古)	E-261	
64	262	土師器 S字型	97Ab	SD31	14.0	—	2.9	松河戸I式 D類(古)	E-262	
64	263	土師器 S字型	97Ab	SD31	—	—	3.8	松河戸I式 D類(古)	E-263	
64	264	土師器 S字型	97Ab	SD31	—	5.4	3.7	松河戸I式	E-264	
64	265	土師器 棚ヶ坪型壺	97Ab	SD31	14.8	—	2.7	松河戸I式	E-265	
64	266	土師器 外反脚高杯	97Ab	SD31	—	—	4.1	松河戸I式	E-266	
64	267	土師器 無透孔屈折脚高杯	97Ab	SD31	—	—	6.4	松河戸I式	E-267	
64	268	土師器 無透孔屈折脚高杯	97Ab	SD31	—	—	5.3	松河戸I式	E-268	
64	269	土師器 無透孔屈折脚高杯	97Ab	SD31	—	—	7.1	松河戸I式	E-269	
64	270	土師器 無透孔屈折脚高杯	97Ab	SD31	—	—	8.1	松河戸I式	E-270	
64	271	土師器 小型盤台	97Ab	SD31	8.8	—	1.6	松河戸I式	E-271	
64	272	陶生土器 有段高杯	97Ab	SD31	—	—	7.0	山形式後期	E-272	
64	273	土師器 錐鉢	97Ab	検出 I VA1r	11.2	—	4.4	週回I-II式	E-273	
64	274	土師器 有段高杯	97Ab	検出 I VB3c	22.6	—	3.2	週回I-II式	E-274	
64	275	土師器 有段口緑加飾壺	96Ti	SE09	—	—	2.4	週回I-II式 口緑部内面多条沈線	E-275	
64	276	土師器 有段口緑加飾壺	97Ca	SD10	—	—	2.3	週回I-II式 口緑部外側凹形浮文	E-276	
64	277	土師器 S字型	97Ab	検出 I VA1s	12.4	—	4.9	松河戸I式 C類(新)	E-277	
64	278	土師器 S字型	97Ab	検出 I VB1e	13.2	—	4.2	松河戸I式 C類(新)	E-278	
64	279	土師器 S字型	97Ab	検出 I VB1e	12.0	—	2.9	松河戸I式 C類(古)	E-279	
64	280	土師器 S字型	97Ab	検出 I VB2e	9.2	—	3.0	松河戸I式 C類(古)	E-280	
64	281	土師器 棚ヶ坪型壺	96Ba	SD25	28.0	—	3.7	松河戸I式	E-281	
64	282	土師器 棚ヶ坪型壺	97B	検出 I WB15e	16.0	—	2.2	松河戸I式	E-282	
64	283	土師器 棚ヶ坪型壺?	97Ab	検出 I VA1r	—	7.2	1.9	松河戸I式 底部外面木彫痕	E-283	
64	284	土師器 棚ヶ坪型壺?	97Ab	検出 I VA2i	—	6.0	6.6	松河戸I式 底部外面木彫痕	E-284	
64	285	土師器 小型盤台	97B	SK110	—	—	6.5	松河戸I式	E-285	
64	286	土師器 無透孔屈折脚高杯	97B	SD01	—	—	6.3	松河戸I式	E-286	
64	287	土師器 無透孔屈折脚高杯	97B	SD43	—	—	7.2	松河戸I式	E-287	
64	288	土師器 小型丸底鉢	97B	検出 I WB15e	—	—	4.3	松河戸I式	E-288	
64	289	土師器 壺	96Ba	検出 I WB8b	21.0	—	5.0	—	E-289	
64	290	須恵器 杯	97Ab	SK201	12.6	—	4.8	東山61号窓	E-290	

古 代

種類	番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	時 期	備 考	登録番号
65	291	須恵器 伝蓋B	96A	SB01(カマド部分)	14.4	—	3.5	O-10	—	E-291
65	292	須恵器 伝蓋B	96A	SB01(カマド部分)	18.6	—	—	O-10	—	E-292
65	293	須恵器 伝A	96A	SB01(カマド部分)	17.2	—	—	O-10	—	E-293
65	294	須恵器 伝B	96A	SB01(カマド部分)	18.8	10.0	3.0	O-10	—	E-294
65	295	須恵器 伝C	96A	SB01	14.2	—	—	O-10	—	E-295
65	296	須恵器 伝蓋B	96A	SB01	—	—	—	O-10	内部にヘラ記号	E-296
65	297	須恵器 伝B	96A	SB01	—	10.4	—	O-10	—	E-297
65	298	須恵器 伝A	96A	SB01(SK68)	12.5	6.2	4.2	O-10	底部外側にヘラ書き「大」	E-298
65	299	須恵器 伝A	96A	SB01(SK68)	12.6	9.8	3.6	O-10	—	E-299
65	300	須恵器 伝B	96A	SB01(SK68)	15.7	8.2	6.0	O-10	—	E-300
65	301	須恵器 伝B	96A	SB01(SK70)	12.8	—	—	O-10	—	E-301
65	302	須恵器 伝B	96A	SD08	14.5	10.7	3.8	O-10	—	E-302
65	303	須恵器 伝B	96A	SD08	—	15.8	—	O-10	—	E-303
65	304	須恵器 伝蓋B	96A	SD09	13.9	—	—	O-10	—	E-304
65	305	須恵器 伝蓋B	96A	SD09	19.2	—	—	O-10	—	E-305
65	306	須恵器 伝B	96A	SD09	—	11.0	—	O-10~IG-78	—	E-306
65	307	須恵器 伝B	96A	SD09	—	8.6	—	8世紀	美濃須衛窯産	E-307
65	308	須恵器 伝A	96A	SD09	12.8	6.3	4.7	O-10~IG-78	—	E-308
65	309	須恵器 伝B	96A	SD09	—	15.8	—	—	底部外側にヘラ記号	E-309
65	310	須恵器 伝C	96A	SD09	—	10.0	—	O-10	—	E-310
65	311	須恵器 伝C	96A	SD09	—	11.1	—	O-10~IG-78	—	E-311
65	312	灰釉陶器 盆	96A	SD09	15.2	8.2	2.6	K-14	—	E-312
65	313	須恵器 小型短縦壺	96A	SD09	14.2	—	—	NN-32~O-10	—	E-313

掲図番号	種類・器類	調査区分	造形・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号
65 314	須恵器	杯蓋B	96A SD10	16.0	—	3.1	O-10		E-314
65 315	須恵器	杯蓋B	96A SD10	—	14.8	—	O-10		E-315
65 316	須恵器	壺蓋ミニチュア	96A SD10	—	—	—	K-7		
65 317	須恵器	把手付片口鉢	96A SD10	25.0	8.0	19.5	8世紀後 内外面に黄土塗布		E-317
65 318	灰釉陶器	輪花紋皿	96Ba SD17	17.0	—	—	K-90		E-318
66 319	須恵器	盤C	96Ba SD17	—	10.4	—	O-10-I-G-78		E-319
66 320	灰釉陶器	皿	96Ba SD24	17.2	7.6	2.9	K-90		E-320
66 321	須恵器	盤B	96Ba SD27	—	9.8	—	O-10		E-321
66 322	須恵器	瓶	96Ba SD27	12.8	—	—	8世紀 内外面に黄土塗布		E-322
66 323	須恵器	杯蓋B	96Ba SD28	17.0	—	—	O-10		E-323
66 324	須恵器	短脚鉢	96Ba SD28	24.7	14.3	17.2	O-10 内外面に黄土塗布		E-324
66 325	須恵器	杯付杯身	96SD2	16.0	—	—	H-50		E-325
66 326	須恵器	杯蓋B	97B SD05	17.2	—	—	O-10		E-326
66 327	須恵器	盤B	97B SD05	—	9.3	—	O-10		E-327
66 328	須恵器	把手付甕	97B SD05	—	—	—	8世紀後 美濃須衛窯産		E-328
66 329	須恵器	把手付甕	97B SD05	—	—	—	8世紀後 美濃須衛窯産		E-329
66 330	須恵器	杯蓋B	97B SD09	13.8	—	—	I-25		E-330
66 331	須恵器	杯付杯蓋	97B SD14	—	3.0	—	7世紀		E-331
66 332	須恵器	杯A	97B SD14	12.9	6.6	4.1	O-10		E-332
66 333	須恵器	杯A	97B SK09	12.2	6.9	4.2	I-41		E-333
66 334	須恵器	杯蓋B	97B SK130	18.2	—	—	O-10		E-334
66 335	須恵器	合子	97Ca SD11	13.5	11.7	3.7	I-25		E-335
66 336	須恵器	碗	97Ca SD17	17.6	10.6	6.1	O-10		E-336
66 337	須恵器	杯蓋B	97Cb SD11	—	21.1	3.6	O-10		E-337
66 338	須恵器	杯蓋B	97Cb SD11	—	—	—			E-338
66 339	須恵器	短脚盤の蓋	97Cb SD11	12.6	—	—			E-339
66 340	須恵器	杯B	97Cb SD11	14.8	11.0	3.8	O-10		E-340
66 341	須恵器	杯B	97Cb SD11	15.9	11.7	3.9	O-10		E-341
66 342	須恵器	碗B	97Cb SD11	19.0	—	—	O-10		E-342
66 343	須恵器	碗B	97Cb SD11	21.8	—	—	O-10		E-343
66 344	須恵器	盤B	97Cb SD11	15.8	9.0	2.8	O-10		E-344
66 345	須恵器	盤B	97Cb SD11	21.5	11.1	3.3	O-10		E-345
66 346	灰釉陶器	長頭瓶	97Cb SD07	—	8.0	—	I-78-K-14		E-346
66 347	須恵器	甕	97Cb SK04	20.6	—	—	8世紀後 美濃須衛窯産		E-347
67 348	須恵器	杯蓋B	98A 古代包含層 NB3o	—	—	—			E-348
67 349	須恵器	杯B	98A 古代包含層 NB1ir	17.4	—	—			E-349
67 350	須恵器	杓A	98A 古代包含層 NB1ir	12.6	—	—	8世紀後		E-350
67 351	須恵器	杓	98A 古代包含層 NB2o	—	5.9	—	底部外面へラ記号		E-351
67 352	須恵器	盤B	98A 古代包含層 NB2p	—	9.6	—			E-352
67 353	須恵器	甕	98A 古代包含層 NB2q	—	14.4	—	8世紀中		E-353
67 354	須恵器	把手付甕	98A 古代包含層 NB3p	—	—	—	N-2-3 美濃須衛窯産		E-354
67 355	須恵器	長頭瓶	98A 古代包含層 NB3o	—	—	—			E-355
67 356	灰釉陶器	広口甕	98A 古代包含層 NB4q	—	13.9	—	K-90		E-356
67 357	須恵器	杯B	98Ba 古代包含層 NB7d	—	7.9	—	IG-78		E-357
67 358	須恵器	杯B	98Ba 古代包含層 NB8d	—	11.5	—	8世紀後		E-358
67 359	灰釉陶器	小瓶	98Ba 古代包含層 NA9t	4.1	6.1	—	K-90		E-359
67 360	須恵器	長頭瓶	98Ba 古代包含層 NB9a	—	9.6	—	K-90		E-360
67 361	須恵器	長頭瓶	98Ba 古代包含層 NA9t	12.9	—	—	K-90		E-361
67 362	灰釉陶器	甕	98Ca 古代包含層 NA9q	—	5.3	—	K-90		E-362
67 363	灰釉陶器	碗	98Ca 古代包含層 NA9q	—	8.0	—	K-90		E-363
67 364	灰釉陶器	段皿	98Ca 古代包含層 NB5d	13.4	6.5	—	K-90		E-364
67 365	須恵器	杯蓋B	98A 檜出I NA1m	21.4	—	—			E-365
67 366	須恵器	甕B	98A 檜出I NB2g	—	11.3	—			E-366
67 367	須恵器	杓A	98A 檜出I NB1p	15.3	8.0	4.5			E-367
67 368	須恵器	杓B	98A 檜出I NB4t	12.4	5.0	3.9	8世紀後		E-368
67 369	灰釉陶器	皿	98A 檜出I NB5h	—	6.3	—	K-90		E-369
67 370	灰釉陶器	甕	98Ba 檜出I NB8e	—	6.8	—	丸石2 美濃窯		E-370
67 371	灰釉陶器	段皿	98Ca 檜出I VA1m	17.2	—	—			E-371
67 372	須恵器	杯A	98Ca 檜出I NA20t	11.7	4.4	4.0	8世紀前		E-372
67 373	須恵器	杯B	98Ca 檜出I NA19m	—	7.6	—	底部外面へラ記号		E-373
67 374	須恵器	盤B	98Ca 檜出I VA9t	16.0	—	—			E-374
67 375	須恵器	杯付杯身	98Cb SD10	10.6	4.0	—	I-17		E-375
67 376	須恵器	三足盤	98E 檜出I NH7o	20.0	—	—	K-14-K-90		E-376
67 377	須恵器	甕B	98Ab 檜出I NA20r	—	—	—	8世紀 内面中央部に捺印		E-377
67 378	灰釉陶器	皿	97B SD48	—	7.0	—	O-53 墨書		E-378
67 379	須恵器	杓A	97Ca SD24	13.0	6.4	2.9			E-379

探査番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号
67 380	灰陶系陶器 棚	97Ca	検出 I N'Azq	—	7.0	—	O-53		E-380
67 381	須恵器 瓢	97Ca	検出 I N'Azq	—	—	—	O-10		E-381
67 382	土師器 遺尾系壺	96A	SB01 (カマF部分)	—	6.3	8.3	8世紀		E-382
67 383	土師器 遺尾系壺	96A	SB01 (SK70)	16.6	8.5	—	8世紀		E-383
67 384	土師器 遺尾系壺	96A	SB02	14.0	6.3	—	8世紀		E-384
67 385	土師器 遺尾系壺	97Ca	SD11	—	10.0	19.3	8世紀		E-385
67 386	土師器 杯	96Bn	古代包含層 NB7d	11.0	3.6	—	8世紀	都城形の土師器を模倣	E-386
67 387	土師器 瓢	96D	検出 I N'A6g	22.4	3.0	—	8世紀		E-387
67 388	製塗土器	96A	検出 I N'B1m	—	—	3.1	8世紀	知多式4類	E-388
67 389	製塗土器	96A	検出 I N'B1m	—	—	2.9	8世紀	知多式4類	E-389
67 390	製塗土器	97B	SD01下層	—	—	4.2	8世紀	知多式4類	E-390

中世以降

探査番号	種類・器類	調査区	遺構・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号
68 391	灰陶系陶器 盆	96A	SK41	7.8	5.0	1.2	中世	東瀛型大腹大柄(新)窓式	E-391
68 392	灰陶系陶器 盆	96A	SK45	8.7	5.2	1.9	中世	尾張型第6型式	E-392
68 393	灰陶系陶器 棚	96A	SK45	—	6.7	—	中世	東瀛型白土原窓式	E-393
68 394	知多型座壺 盆	96A	SD01	19.3	—	—	中世	7型式	E-394
68 395	灰陶系陶器 棚	96Ba	SD01	10.4	—	—	中世		E-395
68 396	灰陶系陶器 棚	96Ba	SD10	14.3	—	—	中世	尾張型第6型式	E-396
68 397	灰陶系陶器 盆	96Ba	SD18	—	4.8	—	中世	尾張型第4型式	E-397
68 398	灰陶系陶器 棚	96Ba	SD21	16.4	—	—	中世	尾張型第5型式	E-398
68 400	灰陶系陶器 棚	96Ca	SX01	—	8.0	—	中世	尾張型第5型式	E-400
68 401	灰陶系陶器 棚	96Ca	SX01	—	8.4	—	中世	東瀛型脇之島窓式	E-401
68 402	灰陶系陶器 棚	96Ca	SX01	—	4.0	—	中世	東瀛型生田窓式	E-402
68 403	古瀬戸窓陶器 握鉢	96Ca	SX01	31.2	—	—	中世	後奈(古)期	E-403
68 404	灰陶系陶器 棚	96Ca	SX02	—	6.0	—	中世	東瀛型白土原窓式	E-404
68 405	灰陶系陶器 棚	96Ca	SX03	—	6.0	—	中世	東瀛型明和窓式	E-405
68 406	古瀬戸窓陶器 西耳器	96Ca	SX03	—	—	—	中世	中I期~中II期、印花	E-406
68 407	灰陶系陶器 棚	96Ca	SD10	—	4.7	—	中世	東瀛型明和窓式	E-407
68 408	灰陶系陶器 棚	96Cb	SX01	—	7.4	—	中世	尾張型第7型式、墨書き	E-408
68 409	灰陶系陶器 棚	96Cb	SX01	—	5.2	—	中世	東瀛型大腹大柄(古)窓式、墨書き	E-409
68 410	灰陶系陶器 棚	96Cb	SX02	—	3.0	—	中世	東瀛型大腹大柄(古)窓式	E-410
68 411	灰陶系陶器 棚	96Cb	SX02	—	3.8	—	中世	東瀛型白土原窓式	E-411
68 412	灰陶系陶器 棚	96Cb	SX03	14.5	—	—	中世	東瀛型大腹大柄(古)窓式	E-412
68 413	灰陶系陶器 棚	96Cb	SX04	—	6.2	—	中世	尾張型第6型式	E-413
68 414	灰陶系陶器 盆	96D	SD02	—	4.8	—	中世	尾張型第5型式	E-414
68 415	灰陶系陶器 盆	96D	SD02	7.5	4.7	1.1	中世	東瀛型生田窓式	E-415
68 416	陶器	96E	SD10	10.4	—	—	中世		E-416
68 417	灰陶系陶器 棚	96E	SK13	14.5	5.2	6.1	中世	尾張型第6型式、墨書き	E-417
68 418	灰陶系陶器 盆	96E	SD03	—	3.8	—	中世		E-418
68 419	灰陶系陶器 盆	97Ab	SD03	9.8	4.4	1.6	中世		E-419
68 420	灰陶系陶器 棚	97B	SD09	—	7.5	—	中世	尾張型第5型式	E-420
68 421	灰陶系陶器 棚	97B	SK68	15.6	7.3	5.3	中世	尾張型第5型式	E-421
68 422	古瀬戸窓陶器	97B	SD01	9.6	4.3	2.5	中世	大室一期	E-422
68 423	灰陶系陶器 棚	97B	SD13	—	9.0	—	中世	尾張型第4型式	E-423
68 424	灰陶系陶器 棚	97B	SD48	—	7.6	—	中世	尾張型第6型式	E-424
68 425	灰陶系陶器 棚	97B	SD48	—	7.8	—	中世	尾張型第6型式	E-425
68 399	陶器	96Ba	SD34	—	6.6	—	近世		E-399
68 426	灰陶系陶器 棚	97B	SD78	14.0	5.8	5.5	中世	尾張型第5型式	E-426
68 427	灰陶系陶器 盆	97B	SX11	8.4	4.7	2.0	中世	東瀛型空窓白土原窓式	E-427
68 428	灰陶系陶器 棚	97B	SX11	19.0	—	—	中世	尾張型第4型式	E-428
68 429	灰陶系陶器 棚	97B	SX11	—	7.6	—	中世	尾張型第5型式	E-429
68 430	灰陶系陶器 棚	97B	SX11	—	7.6	—	中世	尾張型第5型式	E-430
68 431	灰陶系陶器 棚	97B	SX11	15.5	—	—	中世	尾張型第6型式	E-431
68 432	灰陶系陶器 棚	97Ca	SX11	12.5	5.0	3.6	中世	東瀛型脇之島窓式	E-432
68 433	灰陶系陶器 棚	96A	鳥窓1下層 NB3o	—	5.5	—	中世	東瀛型白土原窓式	E-433
68 434	灰陶系陶器 棚	96A	鳥窓1下層 NB3o	14.1	5.8	6.0	中世	東瀛型明和窓式	E-434
68 435	灰陶系陶器 棚	96A	鳥窓1下層 NB2q	—	4.3	—	中世	東瀛型大腹大柄(古)窓式	E-435
68 436	灰陶系陶器 棚	96A	鳥窓1下層 NB1o	—	4.6	1.9	中世	東瀛型大腹大柄(古)窓式	E-436
68 437	灰陶系陶器 棚	96A	鳥窓1下層 NB3o	13.1	4.9	5.0	中世	東瀛型大腹大柄(古)窓式	E-437
68 438	灰陶系陶器 棚	96A	鳥窓1下層 NB1o	13.0	—	2.7	中世	東瀛型脇之島窓式	E-438
68 439	灰陶系陶器 棚	97B	鳥窓3下層 NB6n	13.2	5.0	2.0	中世	東瀛型生田窓式	E-439
68 440	灰陶系陶器	97B	鳥窓3下層 NB6n	7.8	5.2	1.1	中世		E-440

層位	番号	種類・器形	調査区	遺物・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時 期	備 考	登錄番号	
69	441	内耳擴	97B	鳥畠 3 下層	NB7b	29.8	—	—	近畿	B期	E-441
69	442	灰釉系陶器	96C	鳥畠 4 下層	VA10m	—	5.0	—	中後	東濃型明和窓式、墨書	E-442
69	443	灰釉系陶器	96C	鳥畠 4 下層	VA7m	8.1	5.1	0.9	中後	—	E-443
69	444	灰釉系陶器	96D	鳥畠 4 下層	VA2m	7.9	4.9	1.0	中後	東濃型大洞東窓式	E-444
69	445	灰釉系陶器	96C	鳥畠 4 下層	VA10m	8.2	4.2	1.0	中後	東濃型臨之鳥窓式	E-445
69	446	瓶口直腹陶器	96C	鳥畠 4 下層	VA10m	12.2	7.8	2.6	近畿	口縁部 2 頭	E-446
69	447	美濃型直腹陶器	96D	鳥畠 4 下層	VA1m	4.1	—	0.9	近畿	—	E-447
69	448	美濃型直腹陶器	96D	鳥畠 4 下層	VA1m	—	4.0	—	近畿	—	E-448
69	449	灰釉系陶器	96D	鳥畠 5 下層	VA1j	—	5.2	—	中後	東濃型明和窓式	E-449
69	450	灰釉系陶器	96D	鳥畠 5 下層	VA3	7.8	4.2	1.1	中後	東濃型大洞東窓式	E-450
69	451	灰釉系陶器	96D	鳥畠 5 下層	VA5k	—	3.8	—	中後	東濃型大洞東窓式	E-451
69	452	灰釉系陶器	96D	鳥畠 5 下層	VA3k	—	4.0	—	中後	東濃型臨之鳥窓式	E-452
69	453	灰釉系陶器	96D	鳥畠 5 下層	VA5k	13.1	5.0	2.6	中後	東濃型臨之鳥窓式	E-453
69	454	灰釉系陶器	96B	鳥畠 6 下層	NB8c	8.4	5.0	1.6	中後	尾張型第 6 様式	E-454
69	455	灰釉系陶器	96B	鳥畠 6 下層	NB8c	8.4	5.8	1.6	中後	尾張型第 6 様式	E-455
69	456	灰釉系陶器	96B	鳥畠 6 下層	NB8c	13.4	4.8	4.6	中後	東濃型大洞大窓(新)窓式	E-456
69	457	灰釉系陶器	96B	鳥畠 6 下層	NB8e	8.0	4.0	1.4	中後	東濃型大洞大窓(新)窓式	E-457
69	458	灰釉系陶器	96B	鳥畠 6 下層	NB8a	—	5.1	—	中後	東濃型大洞大窓(新)窓式	E-458
69	459	灰釉系陶器	97B	鳥畠 6 下層	NB8d	7.7	6.4	0.9	中後	東濃型大洞大窓(新)窓式	E-459
69	460	灰釉系陶器	97B	鳥畠 6 下層	NB9d	7.8	4.6	1.3	中後	東濃型大洞東窓式	E-460
69	461	灰釉系陶器	96B	鳥畠 6 下層	NB6e	8.1	5.2	1.6	中後	東濃型大洞東窓式	E-461
69	462	灰釉系陶器	96B	鳥畠 6 下層	NB15q	9.4	6.0	1.4	中後	東濃型白土原窓式	E-462
69	463	灰釉系陶器	96Bb	鳥畠 6 下層	VA19o	8.2	4.6	1.2	中後	東濃型大洞東窓式	E-463
69	464	灰釉系陶器	96B	鳥畠 6 下層	VA14p	12.0	—	—	中後	東濃型生田窓式	E-464
69	465	灰釉系陶器	97B	鳥畠 9 下層	NB17e	—	8.2	—	中後	尾張型第 5 様式	E-465
69	466	灰釉系陶器	97B	鳥畠 9 下層	VA17t	15.2	—	—	中後	尾張型第 6 様式	E-466
69	467	灰釉系陶器	97B	鳥畠 9 下層	—	—	4.8	—	中後	尾張型第 7 様式	E-467
69	468	灰釉系陶器	97B	鳥畠 9 下層	—	16.0	6.4	5.2	中後	東濃型白土原窓式	E-468
69	469	灰釉系陶器	97B	鳥畠 9 下層	NB14b	—	6.0	—	中後	東濃型大洞大窓(新)窓式	E-469
69	470	灰釉系陶器	97B	鳥畠 9 下層	NB15d	8.5	5.4	1.5	中後	東濃型生田窓式	E-470
69	471	灰釉系陶器	97Ab	鳥畠 10 下層	VA3q	—	8.3	—	中後	尾張型第 5 様式	E-471
69	472	灰釉系陶器	97a	鳥畠 10 下層	VA20t	—	6.1	—	中後	尾張型第 6 様式	E-472
69	473	灰釉系陶器	97ab	鳥畠 10 下層	VA3q	7.6	4.8	1.5	中後	—	E-473
69	474	灰釉系陶器	97B	鳥畠 11 下層	NB16f	8.3	4.6	2.2	中後	尾張型第 5 様式	E-474
69	475	灰釉系陶器	97B	鳥畠 11 下層	NB19e	11.0	—	—	中後	東濃型臨之鳥窓式	E-475
69	476	灰釉系陶器	97B	鳥畠 11 下層	NB13e	12.4	4.8	2.3	中後	東濃型生田窓式	E-476
69	477	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg 下層	NB7o	9.8	7.2	1.7	中後	尾張型第 6 様式	E-477
69	478	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg 下層	NB10m	7.5	4.2	1.4	中後	東濃型白土原窓式	E-478
69	479	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg 下層	NB10n	8.1	5.2	1.6	中後	東濃型白土原窓式	E-479
69	480	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg 下層	NB11m	8.2	4.6	1.1	中後	東濃型白土原窓式	E-480
69	481	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg 下層	—	9.2	6.3	1.2	中後	東濃型明和窓式	E-481
69	482	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg 下層	NB11s	6.8	4.6	1.0	中後	—	E-482
69	483	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg 下層	NB11n	9.0	—	—	中後	東濃型生田窓式	E-483
69	484	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB9n	—	5.6	—	中後	東濃型大洞大窓(古)窓式	E-484
69	485	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB7o	8.6	5.7	1.2	中後	東濃型大洞大窓(新)窓式、墨書	E-485
69	486	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB8o	7.4	4.8	0.9	中後	—	E-486
69	487	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB10e	8.1	5.0	0.8	中後	東濃型大洞東窓式	E-487
69	488	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB9n	7.9	5.0	1.0	中後	東濃型臨之鳥窓式	E-488
69	489	古瀬戸直腹陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB7o	10.0	5.0	2.2	中後	後Ⅲ期	E-489
69	490	古瀬戸直腹陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	VA18h	9.6	4.4	2.5	中後	大室 I 期	E-490
69	491	古瀬戸直腹陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB18h	9.6	5.0	2.1	中後	大室 I 期	E-491
69	492	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB16g	—	5.6	—	中後	東濃型白土原窓式	E-492
69	493	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB8k	—	4.8	—	中後	—	E-493
69	494	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	NB11j	—	4.0	—	中後	東濃型大洞大窓式	E-494
69	495	灰釉系陶器	96E	鳥畠 Tg F 下層	—	—	—	—	中後	尾張型第 4 様式、見込みに幕別	E-495
69	496	灰釉系陶器	96Ca	唯畔基部	VA19n	12.5	4.9	3.1	中後	東濃型臨之鳥窓式	E-496
70	497	美濃型直腹陶器	96A	ST02	—	10.0	—	—	近畿	—	E-497
70	498	美濃型直腹陶器	96A	ST04	—	—	4.0	—	近畿	—	E-498
70	499	陶器	96A	ST02	—	—	—	—	近畿	—	E-499
70	500	陶器	96A	ST01	10.8	5.0	2.0	—	近畿	—	E-500
70	501	伊勢型鍋	96Bb	臼水田	VA16p	36.5	—	—	中後	後Ⅲ期	E-501
70	502	古瀬戸直腹陶器	96Bb	臼水田	VA18n	15.6	—	—	中後	—	E-502
70	503	陶器	96Bb	臼水田	VA18a	26.5	—	—	中後	—	E-503
70	504	古瀬戸直腹陶器	96Bb	臼水田	VA18a	8.6	3.0	1.6	中後	大室 I 期	E-504
70	505	古瀬戸直腹陶器	96Ba	臼水田	VA18c	7.9	3.8	2.1	近畿	—	E-505
70	506	陶器	96Cb	臼水田	VA10k	13.0	8.0	3.8	近畿	—	E-506

種別	番号	種類・器類	調査区	遺跡・出土地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	時期	備考	登録番号	
70	507	陶器	96Cb	旧水田 VA13m	9.0	4.8	2.4	近世		E-507	
70	508	灰釉系陶器	杭	96D	旧水田 VA16k	12.8	3.8	3.6	中世	東濃型脇の鳥窓式	E-508
70	509	培塿		96D	ST01	36.9	—	—	近世以降	I-1類	E-509
70	510	廻転窓陶器	杭	96D	旧水田 VA17i	—	3.9	—	近世		E-510
70	511	廻転窓陶器	杭	96D	旧水田 VA16k	15.6	—	—	近世		E-511
70	512	灰釉系陶器	皿	96E	旧水田 VB15e	9.2	5.1	1.8	中世	東濃型廻転窓式	E-512
70	513	灰釉系陶器	皿	96E	旧水田 VB9e	8.9	5.0	2.2	中世	尾張型第6型式、墨青	E-513
70	514	灰釉系陶器	皿	96E	旧水田 VB13e	8.8	5.7	1.7	中世	東濃型明和窓式	E-514
70	515	灰釉系陶器	皿	96E	旧水田 VB5e	8.2	5.2	1.1	中世		E-515
70	516	灰釉系陶器	皿	96E	旧水田 VB3e	8.0	7.8	1.0	中世		E-516
70	517	古瀬戸窓蓋陶器	鉢	96E	旧水田	—	—	—	中世		E-517
70	518	内耳鍋	96E	旧水田 VB18e	—	—	—	近世		E-518	
70	519	廻転窓陶器	杭	96E	旧水田 VB16e	8.4	—	—	近世		E-519
70	520	廻転窓陶器	杭	96E	旧水田 VB16e	—	4.4	—	近世		E-520
70	521	陶器	96E	旧水田 VB11i	6.8	6.2	2.7	近世		E-521	
70	522	美濃窓陶器	杭	96E	旧水田 VB14g	9.1	—	—	近世		E-522
70	523	美濃窓陶器		97B	旧水田 VB18e	—	—	—	近世		E-523
70	524	廻転窓陶器	皿	97B	旧水田 NA15r	7.2	5.5	1.4	近世		E-524
70	525	陶器		97Aa	旧水田 VA5g	11.0	6.4	2.3	近世以降		E-525
70	526	磁器	紅皿	96B	旧水田 VA11r	4.8	2.0	1.4	近世		E-526
70	527	磁器	紅皿	96C	旧水田 VA14k	4.4	—	—	近世		E-527
70	528	磁器	紅皿	96Ca	旧水田 VA1n	4.7	1.2	1.2	近世		E-528
70	529	土師質	皿	96Bb	鳥煙7下層 NA15o	7.8	4.4	1.6	中世～近世	ロクロ成形	E-529
70	530	土師質	皿	96Cb	旧水田 VA14i	3.2	—	—	中世～近世	非ロクロ成形	E-530
70	531	土師質	皿	96Ca	鳥煙8下層 VA21	4.2	—	—	中世～近世	非ロクロ成形	E-531
70	532	土師質	皿	96E	鳥煙7g下層 VB8e	6.4	4.6	0.7	中世～近世	非ロクロ成形	E-532
70	533	土師質	皿	96E	鳥煙7g下層 NV7e	8.0	5.8	0.8	中世～近世	非ロクロ成形	E-533
70	534	土師質	皿	96E	鳥煙7g下層 NV7e	7.2	4.7	1.0	中世～近世	非ロクロ成形	E-534
70	535	土師質	皿	96E	鳥煙7g下層 NV7e	7.6	5.3	1.4	中世～近世	非ロクロ成形	E-535
70	536	土師質	皿	96E	鳥煙7g下層 NB11e	9.2	5.0	1.2	中世～近世	非ロクロ成形	E-536
70	537	土師質	皿	96E	鳥煙7g下層	5.5	4.2	0.7	中世～近世	非ロクロ成形	E-537
70	538	陶器	水滴	96D	旧水田 VA3m	奥行 4.5	幅 2.6	2.4	近世		E-538
70	539	陶器	斗笠	96E	旧水田 VB10m	直径 5.6	厚さ 1.3	—	近世		E-539
70	540	磁器	絵皿	96A	ST06	奥行 2.9	幅 1.7	0.7	古代		E-540
70	541	磁器	絵皿	96Bb	旧水田	奥行 2.9	幅 1.8	0.7	近世		E-541
70	542	白磁	杭	97B	旧水田 NA19t	—	—	2.0	中世	大室有輪年号類	E-542
70	543	白磁	杭	97B	鳥煙3下層 NB5b	—	—	2.8	中世	大室有輪年号類	E-543
70	544	白磁	杭	96A	鳥煙1下層 NB2a	—	6.6	4.0	中世		E-544
70	545	青磁	杭	96D	鳥煙5下層 VA1j	13.2	—	2.0	中世	龍泉窓系D類	E-545
70	546	青磁	杭	97B	鳥煙11下層 NB14e	16.2	—	2.6	中世	龍泉窓系B1類	E-546
70	547	青磁	杭	96E	旧水田 VB13i	15.9	—	5.0	中世	同安窓系1類	E-547

土 錘

種別	番号	種別	調査区	遺跡・出土地	分類1	分類2	分類3	分類4	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	残存状態	備考	登録番号
71	548	土師	96Ba	検出 I VB8e	A	A	A	/	(4.6)	1.7	0.4	11.5	両端少欠損		E-548
71	549	土師	96Bb	検出 I VB10a	A	A	A	/	(5.4)	2.0	0.5	18.6	両端少欠損		E-549
71	550	土師	96Bb	検出 I VA14q	A	A	A	B	3.5	1.5	0.3	6.7	完形		E-550
71	551	土師	96Bb	検出 I VA13p	A	A	A	B	(4.2)	1.4	0.4	(6.6)	両端少欠損		E-551
71	552	土師	96Bb	検出 I VA15e	A	A	A	B	4.0	1.3	0.2	6.6	完形		E-552
71	553	土師	96Bb	検出 I VA17m	A	A	A	B	4.0	1.5	0.3	7.2	片端少欠損		E-553
71	554	土師	96Bb	検出 Tレジンチャ	A	A	A	/	4.7	1.6	0.4	11.1	片端少欠損		E-554
71	555	土師	96E	検出 I VB11i	A	A	A	/	4.0	1.5	0.3	8.8	片端少欠損		E-555
71	556	土師	96E	検出 I VB13i	A	A	A	B	3.8	1.2	0.3	5.2	完形		E-556
71	557	土師	97B	検出 I VB10g	A	A	B	B	2.3	1.5	0.3	4.4	片端少欠損		E-557
71	558	土師	97B	検出 I VB15e	A	A	A	/	4.4	1.8	0.4	10.5	両端少欠損		E-558
71	559	土師	96T3	鳥煙Tレジン①	A	A	A	B	4.4	1.8	0.5	16.7	完形		E-559
71	560	土師	96Ca	検出 I VA5m	A	B	A	A	3.0	1.2	0.2	4.5	片端少欠損		E-560
71	561	土師	96D	検出 I VA2m	A	B	A	B	3.6	1.3	0.3	5.3	片端少欠損		E-561
71	562	土師	96D	検出 I VA14i	A	B	A	/	(4.3)	1.0	0.3	(3.8)	L3欠損		E-562
71	563	土師	96D	検出 I VA6h	A	B	A	/	3.3	1.0	0.4	3.6	片端少欠損	ひもぞれ痕	E-563
71	564	土師	97Ab	検出 I VA2s	A	B	A	/	(3.8)	1.5	0.4	7.1	両端少欠損		E-564
71	565	土師	97B	SD12	A	B	A	/	(4.8)	1.2	0.4	5.4	両端少欠損		E-565
71	566	土師	97Cb	検出 I NA14m	A	B	A	A	4.1	1.3	0.3	7.0	完形		E-566
71	567	土師	96T1	鳥煙Tレジン②	A	B	A	A	4.5	1.8	0.5	13.1	片端少欠損		E-567

種別	番号	種別	調査区	遺構・出土地	分類1	分類2	分類3	分類4	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	残存状態	備考	登録番号
71	568	土器	96Ba	検出I	NB8e	B	A	A	(5.4)	2.3	0.6	25.8	片端少欠損	E-568	
71	569	土器	96Cb	検出I	VAB8	B	A	B	/	5.6	3.0	0.6	44.0 完形	E-569	
71	570	土器	97Ca	SK15		B	A	B	5.4	2.4	0.6	23.2 片端少欠損	E-570		
71	571	土器	98Cs	検出I	VASm	A	B	A	4.6	1.8	0.3	16.5 片端少欠損	E-571		

人形・玩具類

種別	番号	種別	調査区	遺構・出土地	材質	種別	形状	高(cm)	幅(cm)	奥行(cm)	備考	登録番号
72	572	土製品	96A	ST01	土師質土器	鉢	大	2.6	2.4	2.2	2.2	E-572
72	573	土製品	96Ca	旧水田	VAln	土師質土器	人形	2.8	1.7	2.2	底孔径0.3cm、奥行1.9cm	E-573
72	574	土製品	96A	ST01	土師質土器	人形	丸	1.4	1.1	4.8	底部	E-574
72	575	土製品	96A	ST01	土師質土器	人形	丸	1.9	1.9	2.9	尾部	E-575
72	576	土製品	96A	ST01	土師質土器	人形	丸	1.9	1.2	3.6	尾部	E-576
72	577	土製品	96E	旧水田	NB13i	秋葉容器	人形	大黒天	1.4	1.9	0.9 東面部	E-577
72	578	土製品	96E	旧水田	NB11i	秋葉容器	人形	大黒天	1.2	2.5	0.9 東面部	E-578
72	579	土製品	96Cb	旧水田	VABm	土師質土器	人形	布袋	2.1	1.7	1.2 頭部	E-579
72	580	土製品	96A	検出I	NB1m	土師質土器	不明		0.4	1.1	1.6	E-580
72	581	土製品	96Ca	検出I	VASm	陶器	ミニチュア	土瓶	2.1	2.8	1.4 注口部、施釉	E-581
72	582	土製品	97B	北壁トレンチ		秋葉容器	ミニチュア	瓶	1.0	2.5	— 底部、施釉	E-582
72	583	土製品	96D	旧水田	VIA3m	陶器	ミニチュア	瓶	1.0	3.9	— 底部、施釉	E-583
72	584	土製品	96E	東壁トレンチ		土師質土器	人形	天神	2.9	1.5	1.5 頭部、施釉	E-584
72	585	土製品	97B	旧水田	NB8g	施器	人形	達磨	2.8	2.1	1.9 底孔径0.4cm、奥行2.1cm	E-585

加工円盤類・陶丸

種別	番号	種別	調査区	遺構・出土地	分類	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	登録番号
73	586	加工円盤	96Ba	SD34	Aa	2.2	2.1	1.0	6.0		E-586
73	587	加工円盤	96Ba	検出I	NB8e	Aa	2.5	2.3	1.3	8.4	E-587
73	588	加工円盤	96Ba	検出I	NB8e	Aa	2.6	2.3	1.1	7.5	E-588
73	589	加工円盤	96Ca	SK01	Aa	2.9	2.3	0.8	8.3	E-589	
73	590	加工円盤	96A	検出I	NB3r	B1	2.5	2.2	0.9	4.8	E-590
73	591	加工円盤	96Ba	検出I	NB8b	B2	2.8	2.6	0.9	8.5	E-591
73	592	加工円盤	96Ca	検出I	VAM1	Cal	3.1	2.2	1.5	11.7	E-592
73	593	加工円盤	97Cb	検出I	VAl1n	Cal	2.2	2.0	1.7	6.6	E-593
73	594	加工円盤	96A	ST04	Da	2.4	2.3	0.7	4.6	E-594	
73	595	加工円盤	96Ca	検出I	VA2m	Da	2.1	1.7	0.9	3.9	E-595
73	596	加工円盤	96D	検出I	VAl2k	Da	2.6	2.3	0.9	6.1	E-596
73	597	加工円盤	97Ca	検出I	NB6q	Da	2.1	1.9	0.8	3.8	E-597
73	598	加工円盤	96A	ST01	Dx2	3.0	2.5	0.9	11.4	E-598	
73	599	加工円盤	96A	ST02	Dx2	2.4	2.3	0.8	6.3	E-599	
73	600	加工円盤	96Bb	検出I	NB12r	Dx2	3.0	2.3	0.6	6.8	E-600
73	601	加工円盤	96Ca	検出I	VAl1n	Dx2	2.0	1.8	0.9	4.6	E-601
73	602	加工円盤	96Cb	検出I	VAT7m	Dx2	2.4	2.2	0.7	4.7	E-602
73	603	加工円盤	96Cb	検出I	VAl3r	Dx2	2.9	2.4	0.9	8.0	E-603
73	604	加工円盤	96E	検出I	NB11a	Dx2	2.8	2.5	0.8	7.4	E-604
73	605	加工円盤	97B	検出I	NB12e	Dx2	2.6	2.0	0.7	5.5	E-605
73	606	加工円盤	96A	検出I	NB2m	Cal	3.0	2.9	0.9	9.3 研磨痕	E-606
73	607	加工円盤	96D	検出I	VAl4h	Da	3.3	3.3	0.9	12.7 研磨痕	E-607
73	608	加工円盤	96E	東壁トレンチ	NB14j	Dx2	4.3	3.7	1.0	21.1 研磨痕	E-608
73	609	加工円盤	97B	検出I	NB10g	Da	3.2	3.1	0.9	11.9 研磨痕	E-609
73	610	加工円盤	96A	ST01	Dc	3.5	3.3	0.7	10.5	E-610	
73	611	加工円盤	97Ab	検出I	中央ペルト	Dbl	5.2	5.1	1.3	45.2 線刻	
73	612	加工円盤	96Ti	検出I	VAl3e	E	3.9	3.6	0.9	14.0	E-612
73	613	加工円盤	96Bb	検出I	NB14p	Cal	6.1	4.6	0.6	19.8	E-613
73	614	加工円盤	96Ba	検出I	NB8e	Ab	2.9	2.8	1.0	6.9 頸部器の杯蓋のつまみ部分	E-614
73	615	加工円盤	97Ab	検出I	NB20r	Ab	2.7	2.5	1.0	6.9 頸部器の杯蓋のつまみ部分	E-615
73	616	加工円盤	96Bb	検出I	NB13q	Ab	2.9	2.8	0.6	7.2 頸部器の杯蓋のつまみ部分	E-616
73	617	加工円盤	96A	検出I	NB1q	As	3.0	2.6	0.8	13.5 方形	E-617
73	618	陶丸	97B	検出I	VAl7t		2.4	2.2		13.2 陶丸	E-618
73	619	陶丸	96E	検出I	NB13j		1.9	1.8		5.6 陶丸	E-619
73	620	陶丸	96E	検出I	NB11a		2.2	2.0		4.9 陶丸	E-620
73	621	陶丸	96E	検出I	NB9o		1.9	1.9		3.0 陶丸	E-621

研磨痕土器類

探査番号	種別	調査区	遺構・出土地	分類	面数	回数	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	登録番号
74 622	研磨痕土器	96A	ST04	C1	2	2	4.9	4.9	0.7	35.9	E-622
74 623	研磨痕土器	96D	検出I WA1m	Da2	3	3	4.5	3.3	1.0	23.0	E-623
74 624	研磨痕土器	96Ca	検出I VA1m	Da2	2	2	6.5	3.8	0.9	32.9	E-624
74 625	研磨痕土器	97B	SD01	Da2	3	4	7.1	5.7	1.5	81.8	E-625
74 626	研磨痕土器	96A	検出I NB2q	Da2	2	6	7.7	5.3	1.2	57.5	E-626
74 627	研磨痕土器	97a	SD01	Da1	5	6	6.0	5.3	1.6	81.7	E-627
74 628	研磨痕土器	96A	検出I NB2q	Db	3	4	5.2	3.3	1.0	23.3	E-628
74 629	研磨痕土器	97B	SD01	E	2	3	6.7	3.6	0.9	26.8	E-629
74 630	研磨痕土器	96Bb	検出I FA13r	F	2	2	7.9	5.5	1.2	55.6	E-630

石製品類

探査番号	器種・形態	調査区	遺構・出土地	残存状況	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考	登録番号
77 1	石蹴 I A 1	96Bb	検出II FA19n	先端部・脚部欠	(1.7)	1.2	(0.3)	(0.4)	チャート	断面状	S-01
77 2	石蹴 I A 1	97Ab	検出II VB2d	完形	1.9	1.5	0.2	0.4	サスカイト?	断面状	S-02
77 3	石蹴 I A 1	97B	SK180	脚部欠	(1.6)	(1.3)	0.2	(0.3)	チャート	断面状	S-03
77 4	石蹴 I A 2	97Z	SD05	完形	2.0	1.4	0.3	0.4	下呂石	S-04	
77 5	石蹴 I A 2	97B	検出II FA16r	半欠	1.4	(0.6)	0.2	(0.1)	チャート	S-05	
77 6	石蹴 I A 2	97Ab	検出II VA3a	完形	1.7	2.0	0.3	0.5	下呂石	S-06	
77 7	石蹴 I A 2	97B	検出II NB15d	半欠	(1.3)	1.9	0.3	(1.0)	サスカイト?	S-07	
77 8	石蹴 I A 2	97Ab	検出II VR2	完形	1.8	1.5	0.3	0.5	下呂石	S-08	
77 9	石蹴 I A 2	97C	検出II FA12s	先端部・脚部欠	(1.4)	(1.4)	0.3	0.6	下呂石	S-09	
77 10	石蹴 I A 2	97B	SK506	先端部欠	(2.1)	1.6	0.4	0.7	下呂石	S-10	
77 11	石蹴 I A 2	97B	検出II VA18s	先端部欠	(1.9)	1.7	0.3	0.7	下呂石	S-11	
77 12	石蹴 I A 2	97Ab	検出II VA2	完形	3.0	1.8	0.4	0.9	下呂石	S-12	
77 13	石蹴 I A 2	97B	検出II VB18t	完形	2.7	1.5	0.3	1.0	下呂石	S-13	
77 14	石蹴 I A 2	97Ab	検出II VB3b	完形	2.7	1.9	0.5	1.6	下呂石	S-14	
77 15	石蹴 I A 2	97B	検出II VBII	半欠	(1.5)	1.9	0.3	(1.0)	サスカイト?	S-15	
77 16	石蹴 I A 2	96Bb	検出II FA14r	ほぼ完形	2.7	1.8	0.4	1.5	下呂石	S-16	
77 17	石蹴 I A 2	97Z	SD05	完形	2.3	1.6	0.4	1.1	チャート	S-17	
77 18	石蹴 I A 2	97B	検出II NB12z	先端部欠	(2.1)	1.7	0.3	(0.9)	サスカイト?	S-18	
77 19	石蹴 I A 3	97B	検出II FA18q	先端部欠	(2.1)	1.5	0.4	0.9	サスカイト?	S-19	
77 20	石蹴 I A 3	97B	検出II FA7t	完形	2.4	1.7	0.3	0.9	サスカイト?	S-20	
77 21	石蹴 I A 3	96Cb	検出II VA12k	完形	2.2	1.6	0.4	1.2	サスカイト?	S-21	
77 22	石蹴 I A 3	97Ca	検出II NA6t	先端部欠	(1.9)	1.8	0.3	(0.9)	下呂石	S-22	
77 23	石蹴 I A 3	97Ab	検出II VB1a	先端部・基部欠	(1.5)	(0.9)	(0.3)	(0.4)	サスカイト?	S-23	
77 24	石蹴 I A 3	97B	SK402	先端部欠	(2.2)	1.7	0.3	(1.1)	下呂石	S-24	
77 25	石蹴 I A 3	97Ab	検出II VB2c	先端部欠	(2.3)	1.6	0.4	1.1	下呂石	S-25	
78 26	石蹴 I A 4	96Bc	SK01	完形	1.8	1.4	0.4	0.7	チャート	S-26	
78 27	石蹴 I A 4	96D	検出II VA20t	完形	1.9	1.4	0.4	0.6	下呂石	S-27	
78 28	石蹴 I A 4	97Ab	検出II VB4t	完形	1.9	1.5	0.4	0.8	下呂石	S-28	
78 29	石蹴 I A 4	96D	検出II VA3k	脚部端欠	1.9	1.5	0.3	0.8	サスカイト?	S-29	
78 30	石蹴 I A 4	96Cb	検出II VA15t	先端部欠	(2.0)	1.5	0.4	0.9	下呂石	S-30	
78 31	石蹴 I A 4	96Bb	SD25	完形	2.6	1.8	0.5	1.9	下呂石	S-31	
78 32	石蹴 I A 4	97Ab	SD100	先端部・脚部欠	(2.4)	1.9	0.4	(1.5)	サスカイト?	S-32	
78 33	石蹴 I A 5	96D	検出II VA17m	先端部欠	(2.7)	2.0	0.3	1.5	サスカイト?	S-33	
78 34	石蹴 I A 5	96Bb	検出II VA17o	完形	3.6	2.3	0.5	2.5	サスカイト?	S-34	
78 35	石蹴 I B	96B	検出II VB13t	完形	3.4	1.3	0.5	1.7	下呂石	S-35	
78 36	石蹴 II C	96E	検出II NB7a	先端部欠	(3.3)	1.4	0.7	(2.7)	下呂石	S-36	
78 37	石蹴 II B	97B	検出II FA11d	脚部端欠	(2.6)	1.7	0.6	(2.1)	チャート	S-37	
78 38	石蹴 II A1	96A	検出I SB30x	脚部端欠	(3.1)	1.3	0.5	1.6	下呂石	S-38	
78 39	石蹴 II A2	96Tg	鳥居Tg・レンチ①	完形	3.6	1.4	0.5	2.3	サスカイト?	S-39	
78 40	石蹴 II A2	97Ab	検出II VA19q	脚部端欠	(3.7)	1.7	0.7	(2.6)	下呂石	S-40	
78 41	石蹴 II A1	97B	SD98	脚部欠	3.3	1.3	0.4	1.6	下呂石	S-41	
78 42	石蹴 II A3	97Ab	検出II NB3t	脚部端欠	(2.5)	1.8	0.5	(1.7)	下呂石	S-42	
78 43	石蹴 II A4	96Ca	検出II VA2	完形	4.7	1.5	0.8	4.3	サスカイト?	S-43	
78 44	石蹴 -	97B	検出II NB14a	完形	2.3	1.8	0.7	2.6	下呂石	未製品 S-44	
78 45	石蹴 -	97Cs	SD27 東側壁上	完形	2.3	2.1	0.4	1.6	サスカイト?	未製品 S-45	
79 46	石鍬	97a	検出II NB13a	完形	3.0	0.8	0.4	1.1	下呂石	S-46	
79 47	石鍬	96Cb	検出II VA11k	頭部欠損	(2.5)	(0.7)	0.3	(0.5)	下呂石	S-47	
79 48	石鍬	97B	検出I FA16t	ほぼ完形	2.0	1.5	0.2	0.9	下呂石	S-48	
79 49	石鍬	97B	検出II NB13a	頭部のみ	(2.6)	2.3	0.4	(2.5)	チャート	S-49	
79 50	スクレイバー	96Cb	検出II VA8m	完形	4.1	4.5	0.6	8.3	下呂石	S-50	

種別	番号	器種・形態	調査区	遺構・出土地	残存状況	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考	登録番号
79	51	スクレイパー	96Tb	島原Tbトレンチ②	完形	2.4	5.0	1.0	12.4	ホルンフェルス	S-51	
79	52	スクレイパー	97B	検出Ⅲ N A16r	ほぼ完形	3.0	2.8	0.7	4.7	下呂石	S-52	
79	53	スクレイパー	97a	検出Ⅲ N A16s	完形	3.8	7.1	0.7	20.4	サスカイト?	S-53	
79	54	スクレイパー	97a	SK180	完形	2.7	3.2	0.7	6.0	チャート	S-54	
79	55	スクレイパー	97Ab	検出Ⅲ VB2d	完形	2.2	2.2	0.8	4.2	下呂石	S-55	
79	56	スクレイパー	96Ba	検出Ⅰ NB3b	完形	5.2	8.2	1.8	94.3	ホルンフェルス	S-56	
80	57	粗製削片石器	97a	SD14	完形	12.9	10.7	2.9	400.7	濃飛灰岩	S-57	
80	58	粗製削片石器	97a	検出Ⅲ WB19C	完形	9.3	10.5	2.1	254.4	ホルンフェルス	S-58	
80	59	粗製削片石器	97B	SD20	完形	8.1	7.3	2.2	154.0	ホルンフェルス	S-59	
80	60	粗製削片石器	97a	検出Ⅱ VA2r	完形	6.6	6.8	1.3	63.0	ホルンフェルス	S-60	
81	61	打製石斧	96Ti	SB03	半欠	(9.5)	7.8	1.2	(102.5)	ホルンフェルス	S-61	

種別	番号	器種・形態	調査区	遺構・出土地	残存状況	a(cm)	b(cm)	L1(cm)	L2(cm)	W(cm)	S(cm)	重さ(g)	材質	備考	登録番号
81	62	礫石	96Ba	SX04	完形	1.1	2.9	5.3	5.2	4.4	2.0	60.3	濃飛灰岩	S-62	
81	63	礫石	97B	SK170	完形	2.1	3.3	6.3	5.9	4.8	1.4	66.5	角閃石安山岩	S-63	
81	64	礫石	96Ba	SX04	完形	1.3	3.6	5.5	5.3	4.7	0.9	37.1	角閃石安山岩	S-64	

種別	番号	器種・形態	調査区	遺構・出土地	残存状況	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考	登録番号
81	65	鐵石状	97B	SK171	完形	8.0	7.4	4.8	414.3	黒雲母角閃石安山岩	S-65	
81	66	鐵石状	97B	SK172	完形	10.3	6.2	3.3	317.1	濃飛灰岩	S-66	
81	67	鐵石状	96Ba	SD25	完形	11.9	6.9	5.2	595.6	濃飛灰岩	S-67	
82	68	磨製石斧	97B	SK163	頭部のみ	(3.0)	(2.9)	(1.5)	(14.4)	蛇紋岩	S-68	
82	69	石製垂曲	96Ba	SX04	一部のみ	(1.9)	(1.4)	1.3	(4.3)	チャート	S-69	
82	70	用途不明品	96Tg	島原Tgトレンチ①	一部のみ	(7.9)	8.8	2.1	(185.7)	ホルンフェルス	粗製削片石器か?	S-70
82	71	用途不明品	96Cb	検出Ⅱ N A16s	一部のみ	(4.6)	(3.9)	0.8	(19.6)	ホルンフェルス	S-71	
82	72	用途不明品	96Cb	検出Ⅲ VA13m	半欠	(2.1)	1.7	0.3	(1.0)	サスカイト?	石器未製品か?	S-72
82	73	用途不明品	97B	SK172	完形	10.0	7.6	4.5	501.3	黒雲母角閃石安山岩	S-73	
82	74	用途不明品	97B	SK172	完形	11.6	9.7	3.7	614.0	黒雲母角閃石安山岩	S-74	
84	75	礫	97Ca	検出 I	一部のみ	(3.6)	(1.6)	(0.9)	(45.6)	泥質灰岩	S-75	
84	76	礫石	96Ba	SD34	一部のみ	(2.8)	2.8	0.5	(41.8)	泥質灰岩	S-76	
84	77	礫石	96E	検出 I NB11a	一部のみ	(2.3)	0.7	(0.4)	(8.3)	泥質灰岩	S-77	
84	78	小玉	97Ca	検出 I N A7q	ほぼ完形	0.7	0.6	0.6	0.4	水晶	S-78	
84	79	用途不明品	96D	ST01	一部のみ	(1.8)	0.4	0.3	(2.4)	珪質岩	S-79	
84	80	用途不明品	96A	検出 I NB2m	一部のみ	(0.9)	0.3	0.3	(1.0)	泥結凝灰岩	S-80	

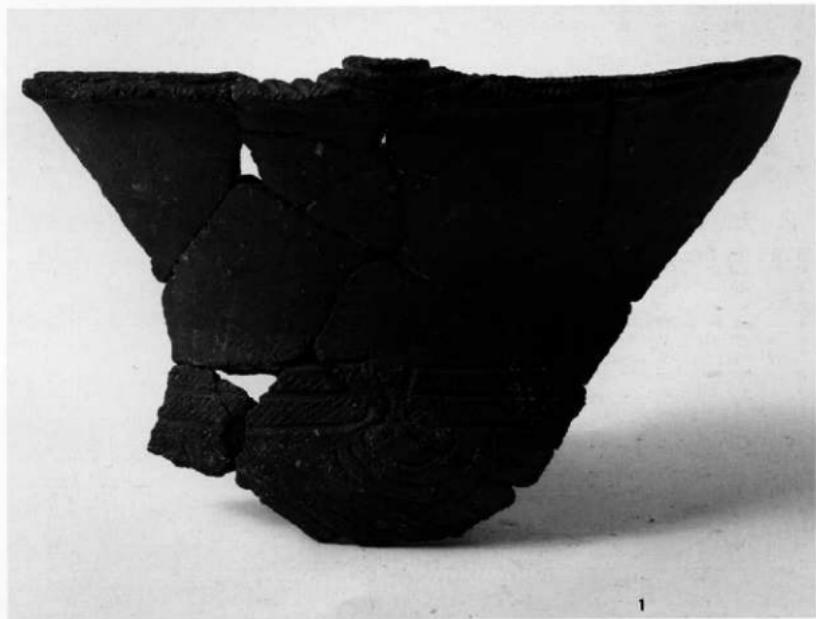
錢貨

種別	番号	種別	開拓区	遺構・出土地	鉄種	鉄造年	西暦	時期	備考	登録番号
85	1	錢貨	96Ca	SX01	元普通銅	元慶元年	1078年	中世		M-01
85	2	錢貨	96A	ST05	寛永通寶	延宝2年	1674年	近世		M-02
85	3	錢貨	96A	ST02	寛永通寶	元禄13年	1700年	近世		M-03
85	4	錢貨	96D	旧水田 VIA1	寛永通寶	享保2~19年	1717~1734年	近世	背「佐」文字	M-04
85	5	錢貨	97Ab	旧水田 VIA20q	寛永通寶	元文元年?	1736年?	近世	判読困難	M-05
85	6	錢貨	96E	旧水田 VB2q	寛永通寶	元文2年	1737年	近世		M-06
85	7	錢貨	96D	旧水田 VIA17k	寛永通寶	元文2年	1737年	近世	「永寶」のみ残	M-07
85	8	錢貨	96D	鳥居5 F層 VIA5	文久永寶	文久3年	1863年	近世		M-08

その他の金属関連資料

種別	番号	種別	形状	調査区	遺構・出土地	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	登録番号
86	9	含鉄物	棒状	96D	候 I VIA1m	3.5	1.0	0.5	2.7	鉄鑿?	M-09
86	10	含鉄物	棒状	97Ca	候 I NB5d	5.5	1.5	0.6	3.9	鉄鑿?	M-10
86	11	銅製品(偽金具)	96A	候 I NB2o	3.3	1.5	0.2	5.9		M-11	
86	12	銅製品(偽金具)	96D	候 I VIA1	1.5	1.3	0.1	0.4		M-12	
86	13	純型鉄鋤	96A	ST05	4.3	2.2	1.1	6.4		M-13	
86	14	鉄鋤	扁平	96A	ST01	3.7	2.0	1.1	5.8	白色付着物	M-14
86	15	流動鋤	鍔状	96Ca	SX01	2.5	1.8	0.8	4.4		M-15
86	16	純型鉄鋤	97B	檢 I	9.1	6.8	3.2	190.0		M-16	

写真図版

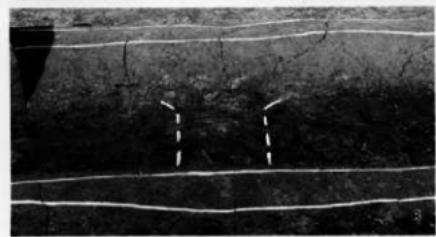


三ツ井遺跡出土の最古の土器

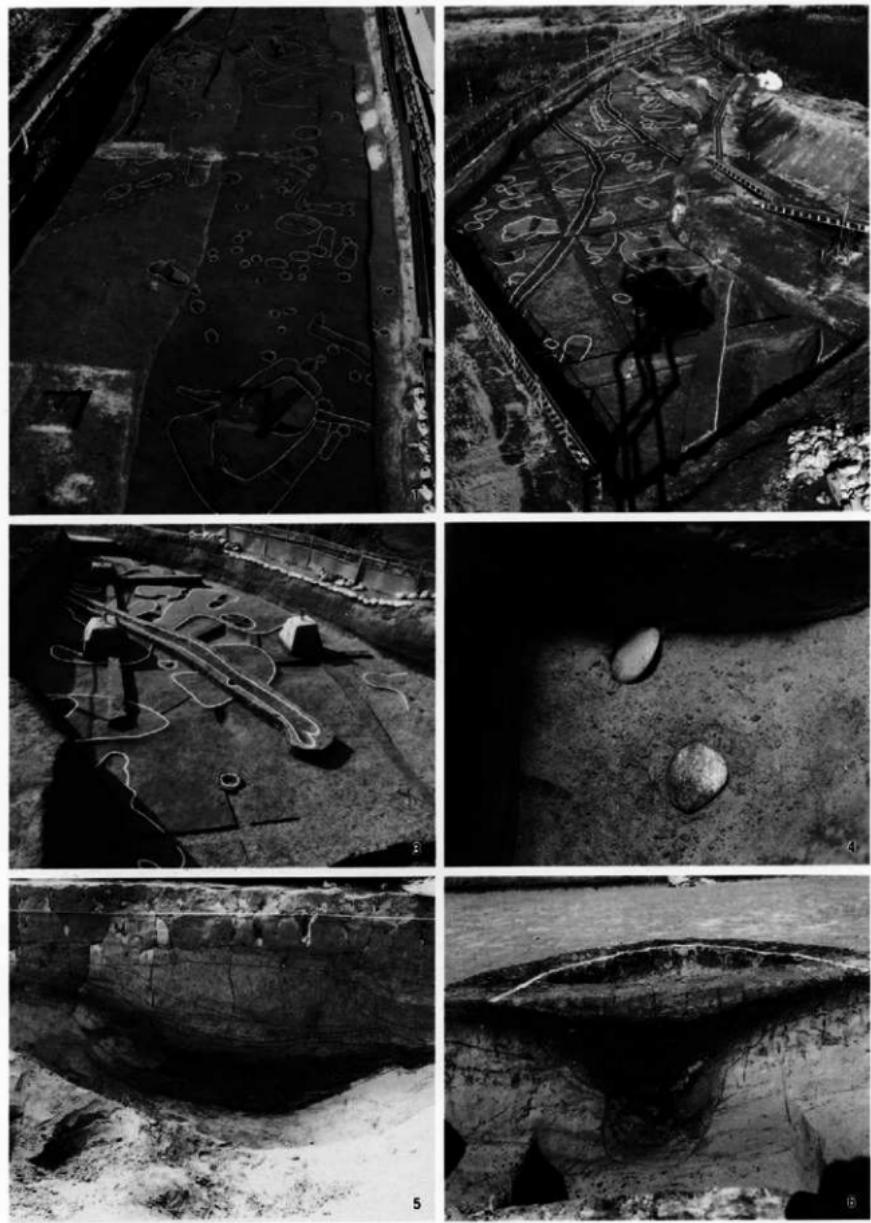


1 97B区 縄文時代～弥生時代の遺構

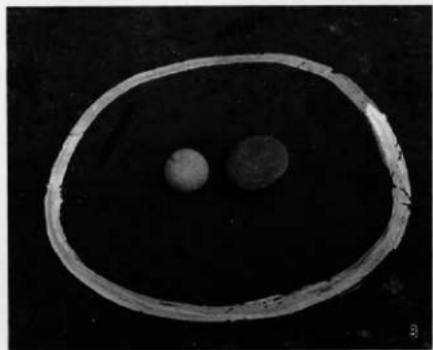
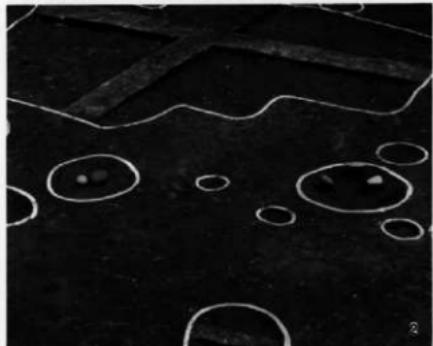
2 97Ab区 水田跡



1 97Ab区 水田跡 2 97Ab区 南壁断面 3 97Ab SD46 直交盛土 4 97Ab SD46 西側盛土内出土遺物（東半分）



1 96Cb区 遺構 2 96Bb区 遺構 3 96Ba区 遺構 4 96Ba SX04 出土遺物状況 5 96D SK19 断面
6 97Cb SK58 断面



1 97Ab区 遺物出土状況
5 97B区 埋没立ち木断面

2 97B SK171・172 遺物出土状況

3 97B SK171 遺物出土状況

4 97B NR01 下層断面



1 97Ca SD27 2 97Ca SD27 断面 3 97Cb SD20 4 97Cb SD20 断面



1



2



3



4



5

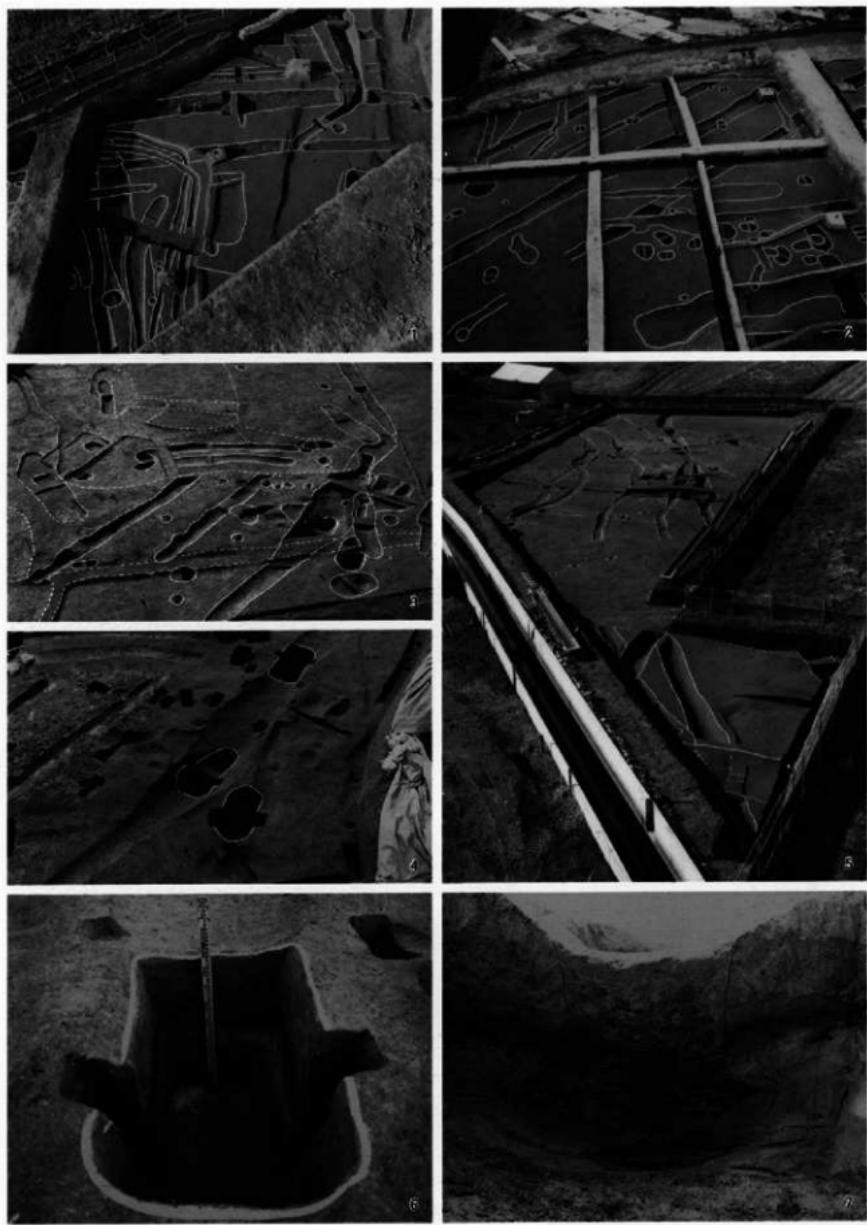
1 97B区 遺構

2 97Ab区 西側遺構

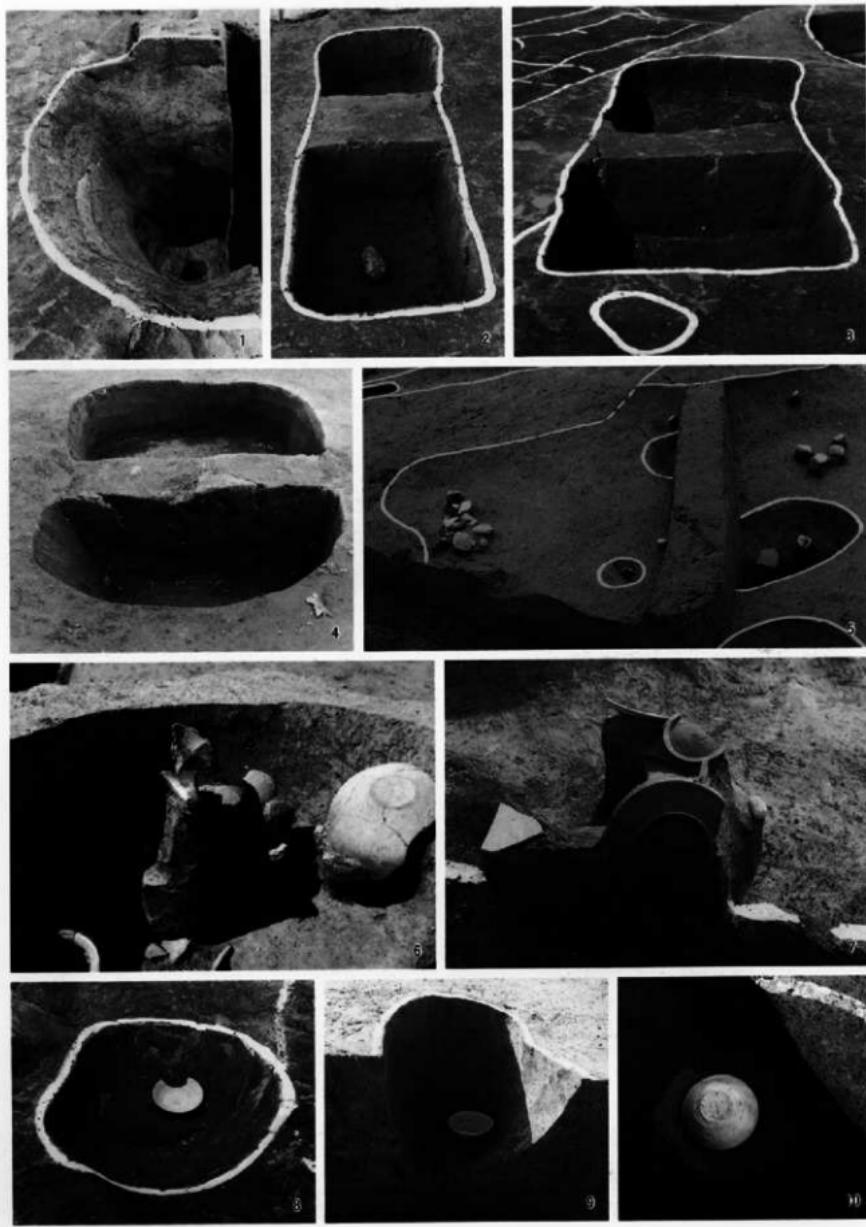
3 97Ab区 東側遺構

4 97Ab SD31

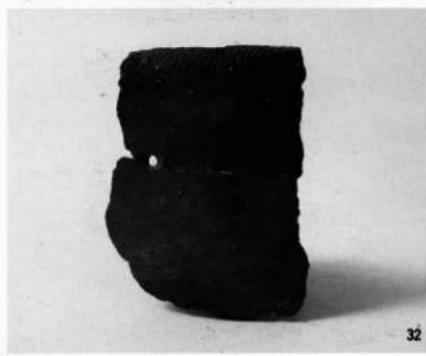
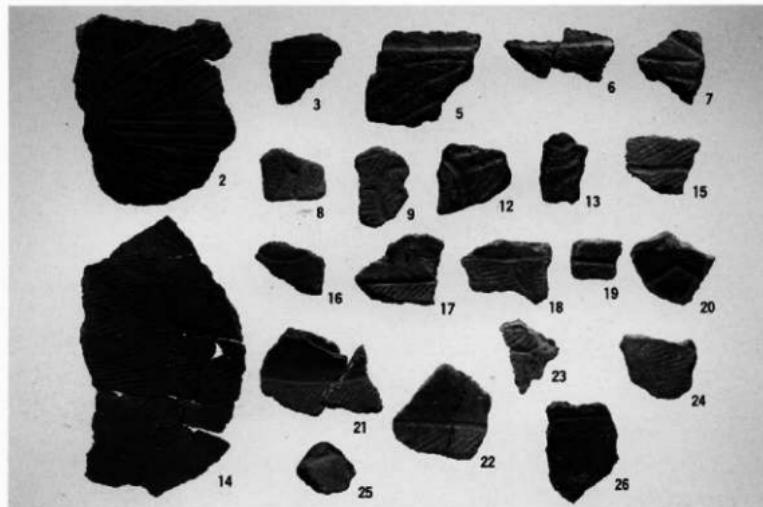
5 96Cb区 遺構



1 96Ba区 遺構 2 96A区 遺構 3 97Cb区 遺構 4 97Cb区 古代の土坑群 5 97Ca区 遺構 6 97Cb SK12
7 97Cb SK14 断面



1 97B SK88 2 97Ab SK03 3 97Ab SK01 4 97Aa SK12 5 97Ab SX02
6 96Ba SK14 遺物出土状況 7 97Cb SD11 遺物出土状況 8 97B SK68 遺物出土状況
9 96E SK13 遺物出土状況 10 97Ca SK01 遺物出土状況





4



34



35



36

37



38

39

40



41



43



44



42



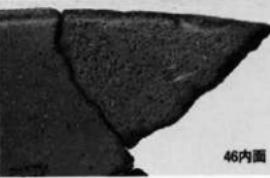
45



47



33



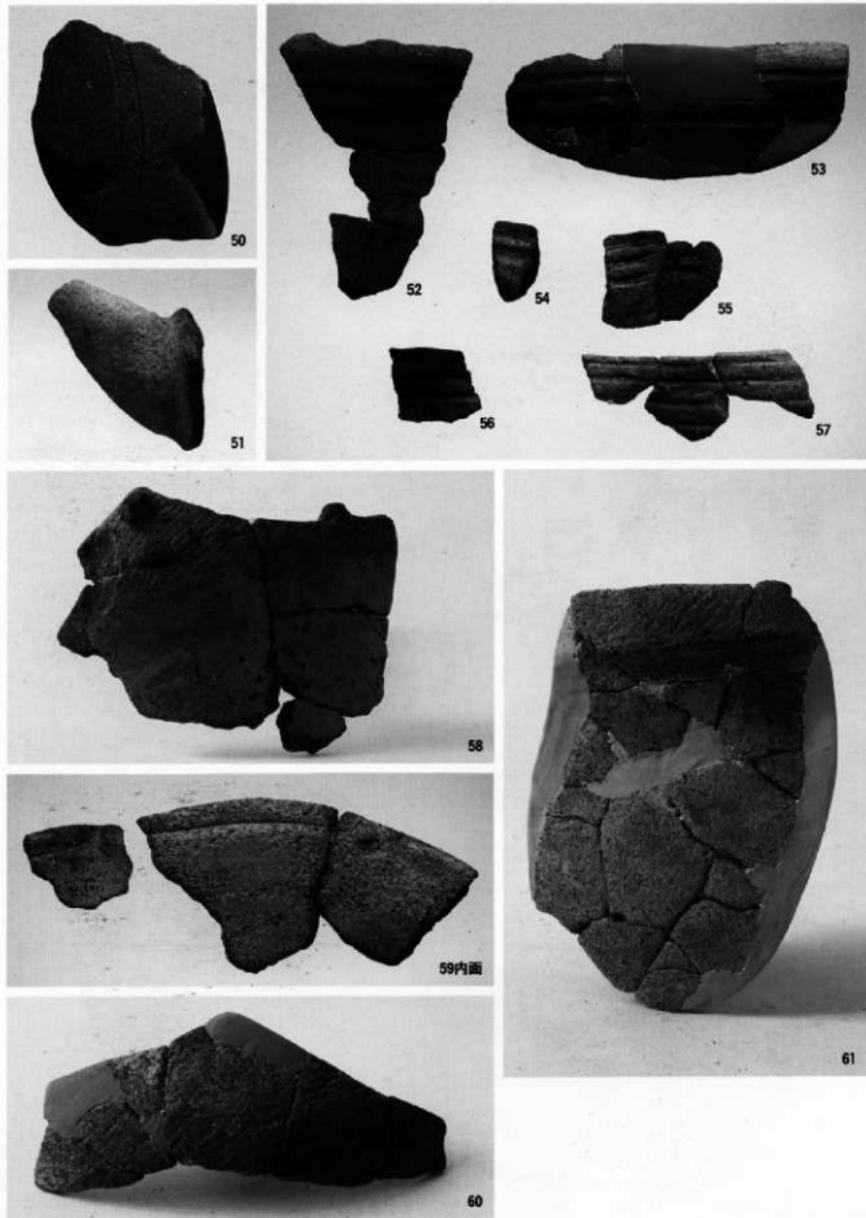
46内面

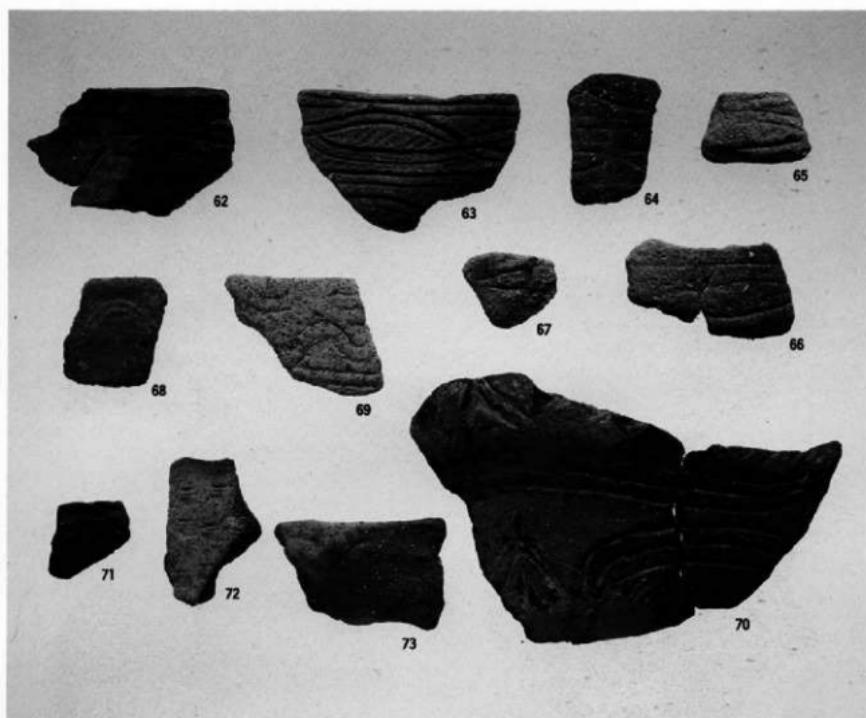


48



49

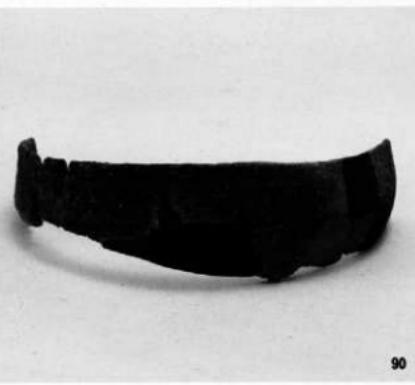
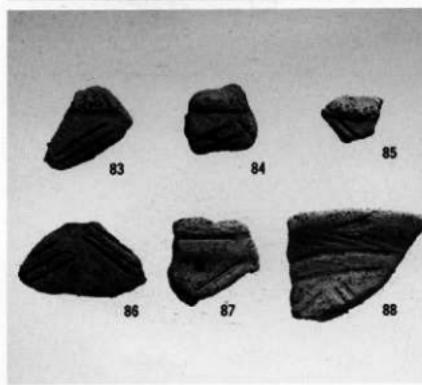
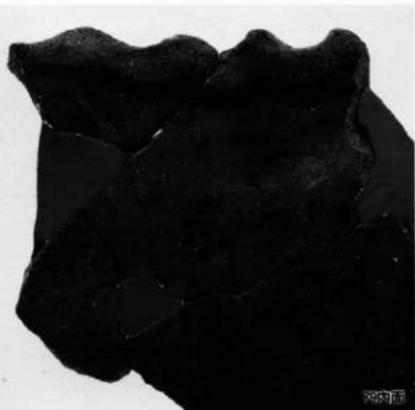
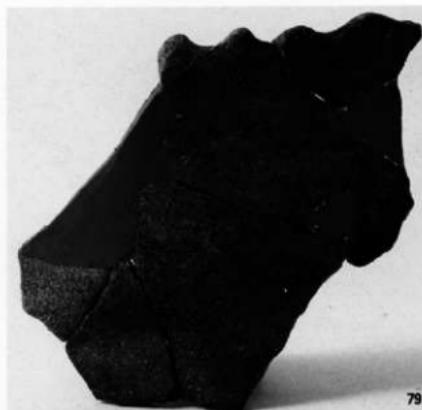


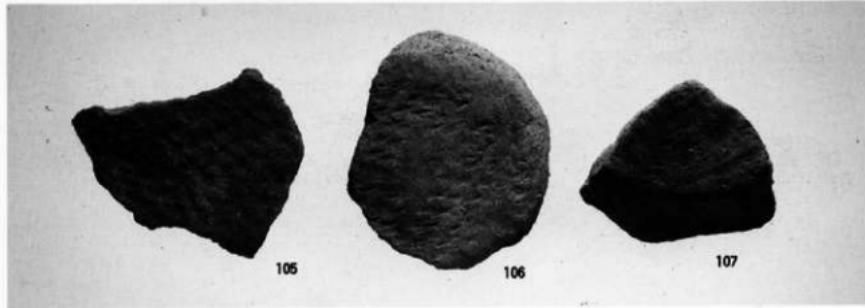
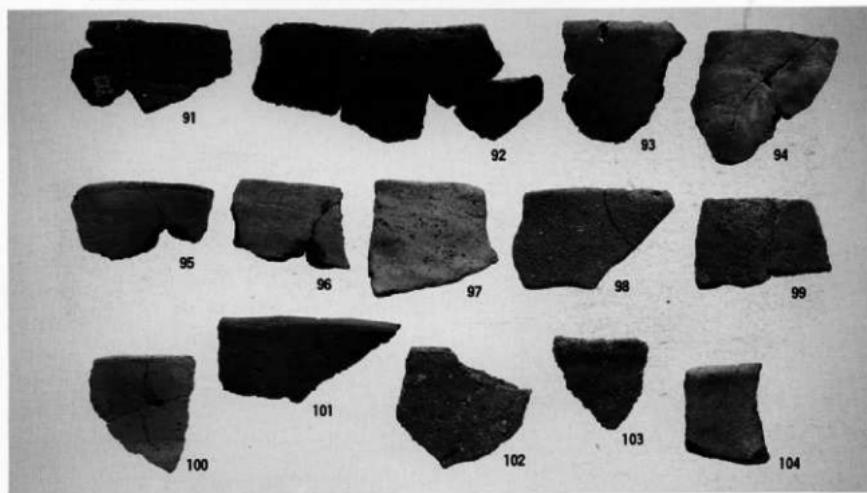


74



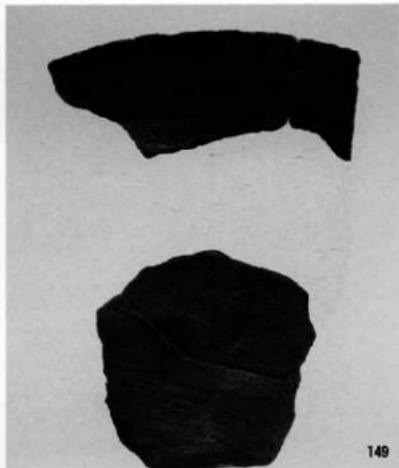
75







108



149



141



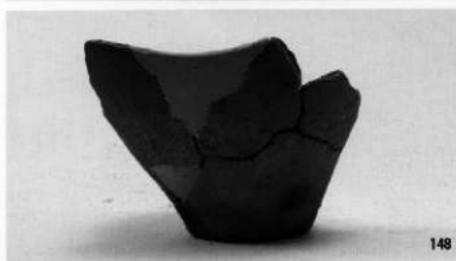
181



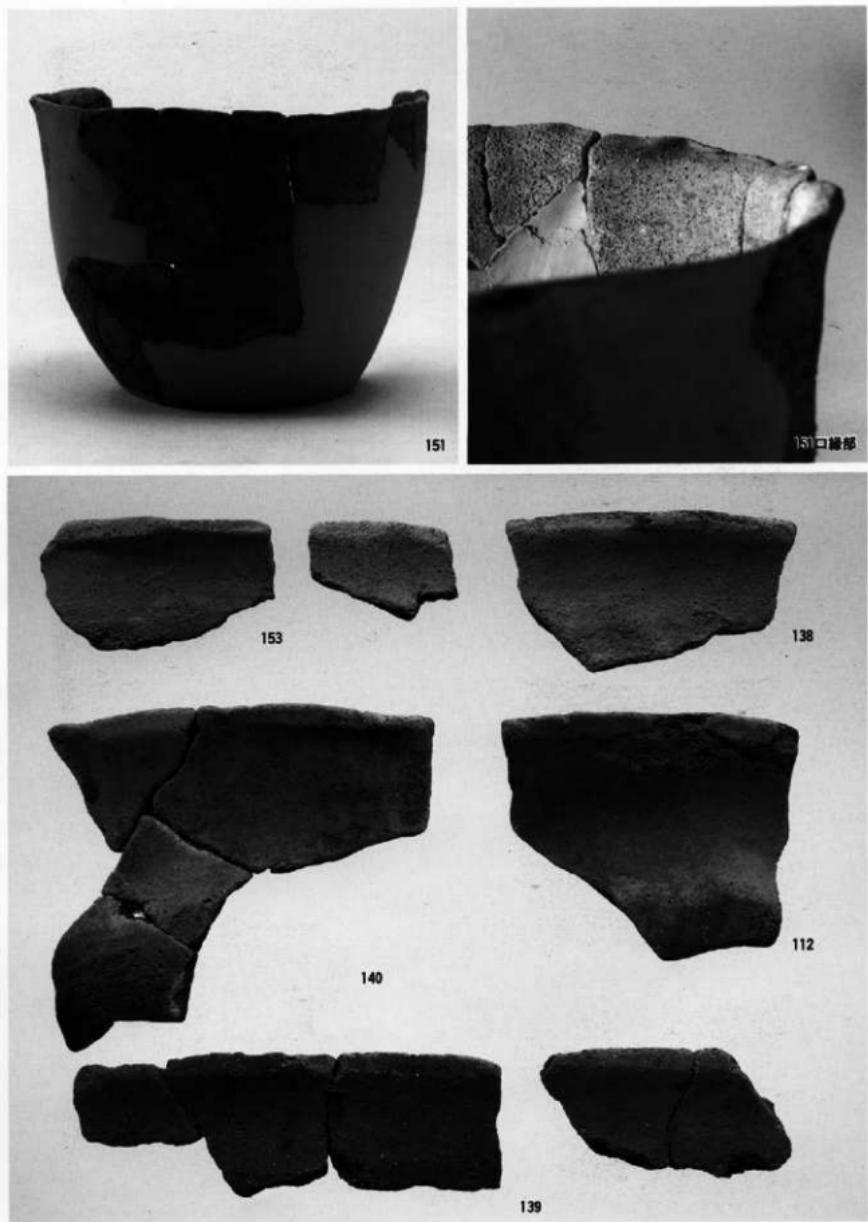
162



145



148

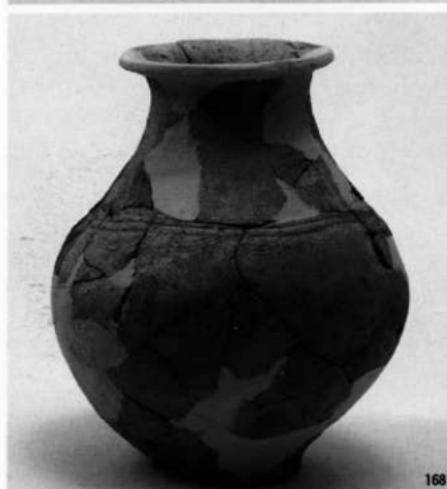




118



119



168



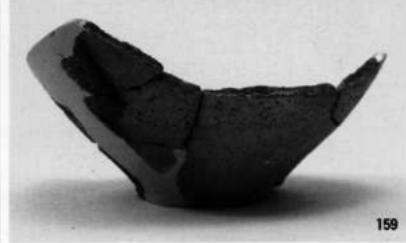
129



158



161



159



156



164



128



163



135

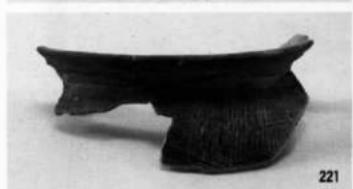


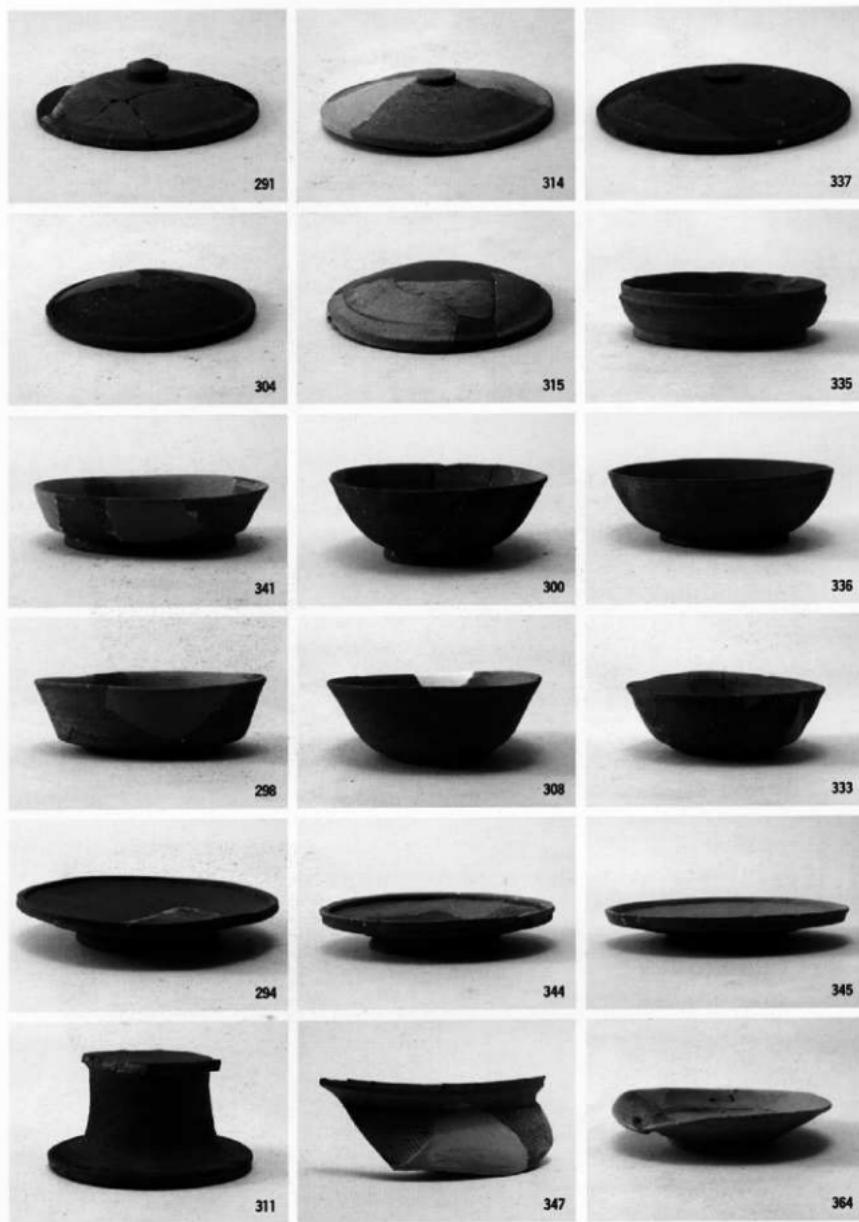
157

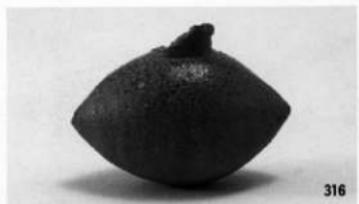


125

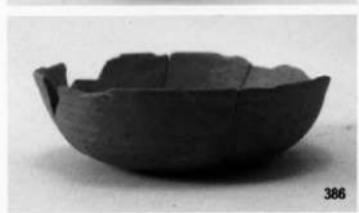








316



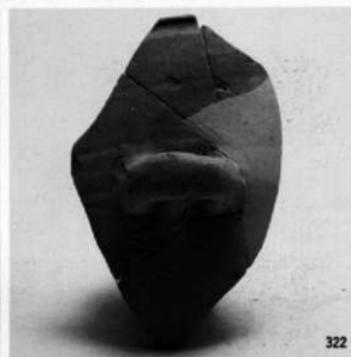
386



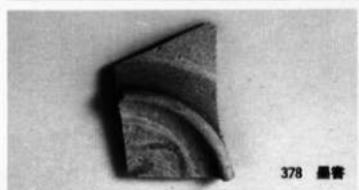
317



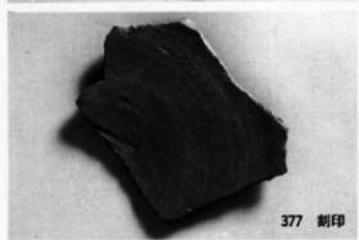
383



322



378 墨書



377 刻印



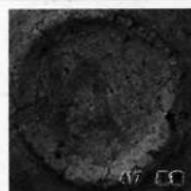
324



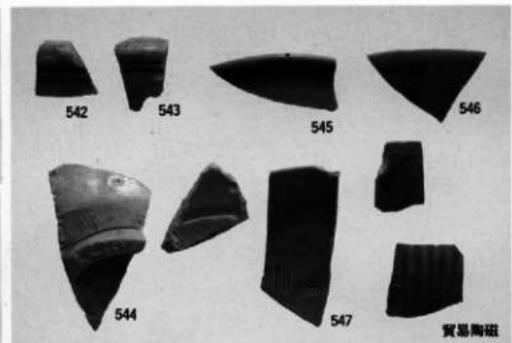
421



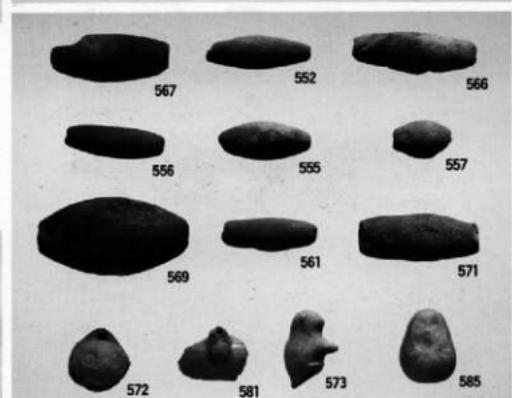
417



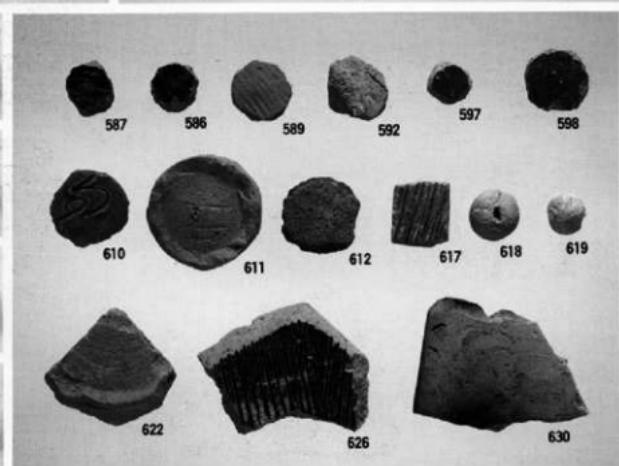
432



貿易陶磁



391



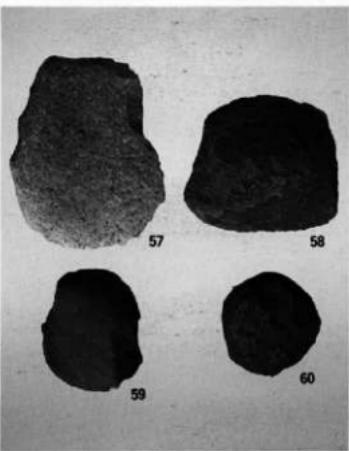
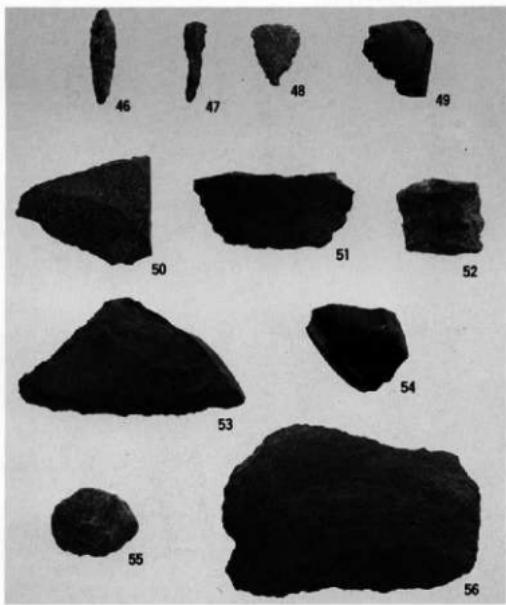
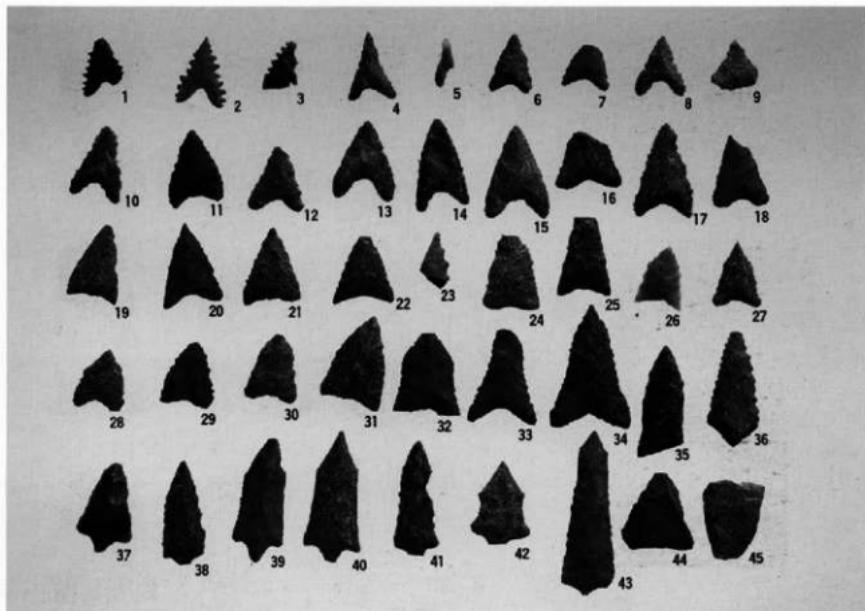
415

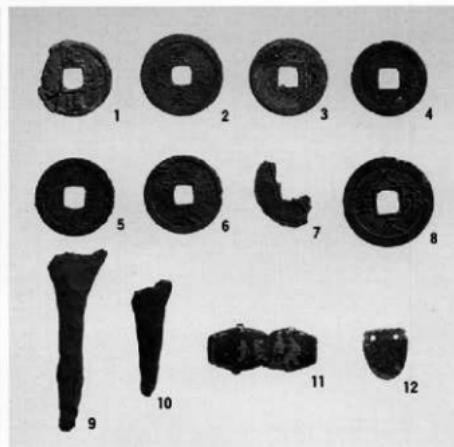
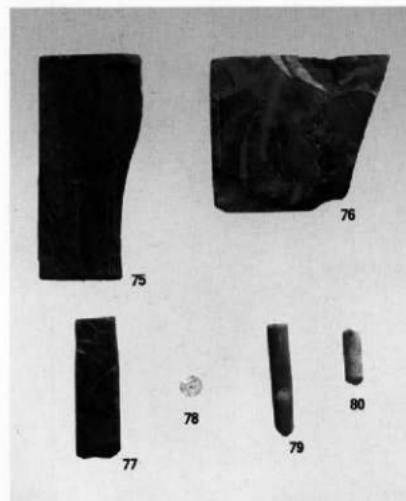
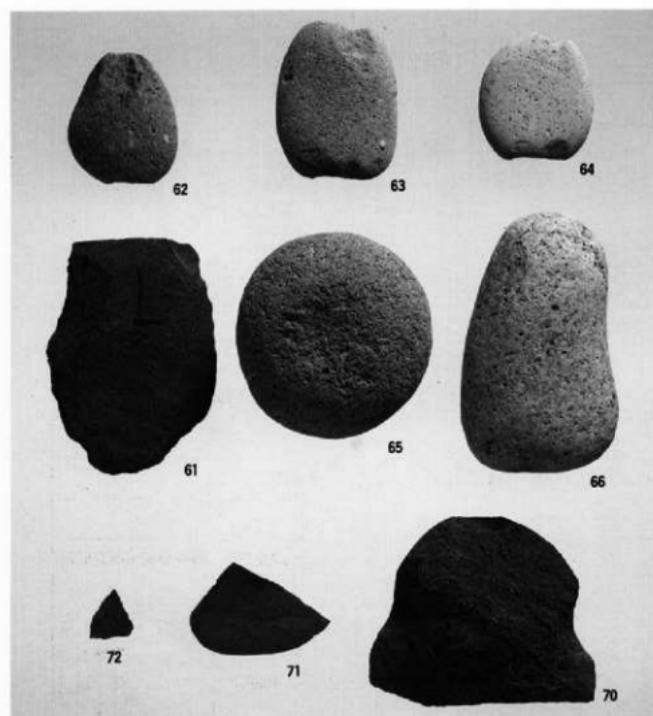


457



461





報告書抄録

ふりがな	みついいせき							
書名	三ツ井遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第87集							
編著者名	田中伸明・鬼頭剛・永井宏幸・早野浩二・川添和曉・鈴木正貴・藤山誠一 堀木真美子・仲井光代・尾崎和美・原田幹・松葉礼子・矢作健二・辻本裕也							
編集機関	愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24							
発行年月日	西暦 1999年8月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みつい 三ツ井	あいのけんいちらのみやし 愛知県一宮市 たんようちょうおおあさ 丹陽町大字 みついしげよし 三ツ井・重吉	23203	02102	35°16'29"	135°50'55"	1996.4 1998.3	12100	名神高速 道路上り 線一宮バ ーキング エリア建 設に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
三ツ井	集落	縄文 弥生	溝・土坑・配石 溝・土坑・水田 ・方形周溝墓 ・竪穴住居	縄文土器・石器・石製品 弥生土器・石器・石製品				
		古墳	溝・土坑・井戸 ・竪穴住居	土師器・須恵器				
		古代	溝・土坑・井戸 ・竪穴住居	須恵器・灰釉陶器・土師器				
		中世	溝・土坑・方形土壙 ・鳥糞・水田	灰釉系陶器・施釉陶器 ・貿易陶磁器・土師質小皿 ・錢貨				
		近世	溝・土坑・鳥糞 ・水田	施釉陶器・土製品・錢貨				

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第87集

三ツ井遺跡

1999年8月31日

編集行
編発行

愛知県埋蔵文化財センター

印刷 東海プリント社
